

鎌倉市本庁舎等整備基本構想（素案）に対する意見と市の考え方整理表（未定稿）

目次			
【素案に関する意見】	P. 2	【事業の進め方に関する意見】	P. 72
○ 全体	P. 2		
○ 基本理念	P. 15	【移転に関する意見】	P. 84
○ 基本方針	P. 16		
①堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎	P. 19	【その他の意見】	P. 119
②最小限の機能を備えコンパクトで効率的な本庁舎	P. 21		
③鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを生かせる本庁舎	P. 23	【参考意見】	P. 133
④人や民間資金を呼び込む本庁舎	P. 24	【巻末資料】	P. 136
⑤市民に寄り添った対応ができる本庁舎	P. 26	【移転に関する意見】 （整理 No147～200）に対する市の考え方につ	P. 137
⑥誰もが利用しやすい本庁舎	P. 27	いて（表中「考え方」の欄の再掲）	
○ 新庁舎の規模（面積）	P. 28	【備考】	
○ 建設費用・予算・財源	P. 32	・ 1 通の意見書の中で、複数件の意見がある場合、文章を分割して整理して	
○ まちづくり	P. 37	いるものがあります。	
○ アクセス・交通網・道路整備	P. 43	・ いただいたご意見について、原則、原文のまま掲載していますが、明らかな	
○ 災害対応	P. 52	誤記の修正や、個人情報に当たるものを伏せる調整などを行っています。	
○ 本庁舎の移転後の現在地の利活用	P. 64	・ [斜体文字] は補足のために加筆したものです。	
○ スケジュール	P. 71		

【素案に関する意見】

○ 全体

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
1	8		全体を通して、よく練られた内容だと思います。民間等からの外部資金獲得に関しては、より具体的にされると良いと思いました。また、ICT 技術は今後、ますます当たり前になるでしょうから、職員の方々の利便性はもとより、来庁者の方々の利便性も考慮した ICT 整備の具体策を検討ください。このことは、施設の物理的なユニバーサルデザインと共に、様々な方々のデジタルデバインドにも配慮いただくことにも通ずるかと思います。早期移転に向けて、頑張ってください。応援しております。	本庁舎の整備におけるコスト等については、令和元年度に事業手法の調査を行い、検討を深めていきます。 今後、基本計画を策定していく中で、可能な限り、人口減少や技術革新等の社会情勢の変化を踏まえ、いただいたご意見を参考に、質の高い行政サービスの提供を支える本庁舎の整備の実現に向けて、取り組んでいきます。
2	11		日頃の業務、お疲れ様です、広報かまくら、議会だより、ビジョンなどを読みました、市役所移転については深沢地区に可及的すみやかに実行されることを望みます、市民に遠慮せず立派な建物、ふさわしい市長、議長、副議長、会議、の各部屋の設置は当然です、ビジョンと6つの要素もまた、すみやかに遂行されることを期待します、特に官民連携機能を取り入れて収入を増やし活用することをして下さい、世界遺産はあきらめましょう、しかし歴史的遺産は貴重です、守るべきものは守り、他方、大船地区のようなゴミ箱町は強制的に変身させましょう、狭い鎌倉に車両は規制しても入ります、観光目当てにくる人、車を責めないで、交通機関、道路を整備するべきです、電柱の地中化、駐車場の拡充、バスの発着場、など整備を強く望みます、鎌倉市民には既成概念に固まった方が多く、不勉強の方が多いです、ぜひ市政に携わる方々も市民の見本となるよう、しつかり仕事も勉強も真面目にやり、鎌倉を素晴らしい街にするよう頑張ってください、	
3	14		「鎌倉市本庁舎等整備基本構想」について、「賛成」し、強力に推進して下さい。 その中に記された「ビジョンと6つの基本方針」は、もっともなことです。 又、「鎌倉、大船+第三のエリア」として「深沢地区」を候補地にして鎌倉西部地区の更なる開発により鎌倉市の発展と市民サービスの向上に地理学的(機能分散と集積)にも期待できると思います。 ただ下記2点につき要望いたします。(もう1点は、整理番号108参照) ①この新庁舎は少なくとも半世紀出来ればそれ以上耐え得る「ソフトとハード/システムや耐久	本庁舎の整備におけるコスト等については、令和元年度に事業手法の調査を行い、検討を深めていきます。 本庁舎の整備に当たっては、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指すとともに、

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			性…」を保持して、そのコストパフォーマンスを都度十分チェックし公表できる事。	引き続き、未来を見据えた工夫を検討しながら、市民の皆さんにご理解いただけるよう努めます。
4	18		<p>鎌倉市行政の効率化、特に市役所職員の職場環境の改善の観点から早急に本庁舎の深沢への移転を支持します。</p> <p>1. 市役所の職場環境について</p> <p>労働基準法には雇用者一人当たりのスペース/容積の最低値が定められておりますが、鎌倉市の職場環境はこれを守っているのでしょうか。見たところスペースは有るかも知れませんが、机やファイルキャビネに占領されて、人が身動きできないように見えます。又非常勤職員のスペースやロッカーについても労基法を守っているのでしょうか。現在の職場環境では、せまくてきゅうくつで、ろくなアイデアも出てこないのではないかと思います。早急にスペースに余裕のある職場環境を実現すべきだと思います。その際、業務の徹底的なペーパーレス化が必須です。今のままにしておく、いずれ紙のファイルにスペースを取られてしまいます。責任者を決めて計画を作り実行して下さい。</p> <p>2. 市役所の職場管理について</p> <p>管理職を含む職員の勤務時間管理はシステム化、データ化されているのでしょうか。もしないのなら早急に実現すべきです。まさかいまだに紙の台帳にハンコではないですよ。特に管理職の過労死を防ぐためにもシステムは必要です。</p> <p>新本庁舎でもたばこを吸う場所を用意する必要は無くないと思います。(来庁者の利用も含めて) その際職員がさぼる場所にならないよう、監視カメラを付けて下さい。駐車場を十分用意して、無条件に誰でも3時間は無料、その後は1時間単位に料金を取るようにして下さい。市役所の認証による割引は不要。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、建物の執務室の配置や設備等については、今後、基本計画や基本設計を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。</p> <p>(参考) 管理職を含む職員の勤怠管理や、休暇、出張申請は、システムにより行っています。また、現在、喫煙所については、健康増進法の改正に伴い、令和元年7月1日から市の各施設(倉庫等、事務処理を行わない施設を除く。)の敷地内を原則全面禁煙(一部夜間就業施設を除く。)とします。</p>
5	23		<p>1. 新駅建設は必須事項です。新駅による土地の値段の高騰により下記の建設費に充当できる。</p> <p>2. 市庁舎移転も必須事項です。</p> <p>最新技術で耐震防災機能を実現できるのは新築だけです。</p> <p>3. 市庁舎には貸事務所容積を作り建設費に充当する。</p>	<p>村岡新駅(仮称)については、現時点で想定し得る状況を担当部署から聞き取り、記載しているものです。今後も深沢地域整備事</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>分譲共同住宅も作り市庁舎建設費 連絡橋建設費に充当する。</p> <p>4. 分譲区画土地を民間に分譲し建設費に充当する。</p> <p>5. 市はこれまで各種の説明手続きをきちんとしてきた。</p> <p>今頃になって反対表明しても遅すぎです。</p> <p>6. 鎌倉市が将来発展するためには 深沢の広大なスペースを利用するしかない。</p> <p>7. 新駅ができることで住宅建設が進み 住民人口が増え 市民税納付額が増える。</p> <p>8・深沢地区の洪水対策は 新宿都庁舎のある副都心の高架道路のようにすれば何も問題ない。</p> <p>9・是非 新駅と市庁舎移転を実現してほしい</p>	<p>業（土地区画整理事業）や村岡新駅（仮称）、村岡地区整備の進捗を注視していきます。</p> <p>本庁舎の整備におけるコスト等については、令和元年度に事業手法の調査を行い、検討を深めていきます。</p> <p>洪水対策を含め、具体的な検討は、今後、基本計画を策定していく中で行っていきます。</p> <p>引き続き、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供に努めながら、本庁舎の整備に取り組んでいきます。</p>
6	95		<p>1. 本庁舎を深沢に移転することを賛成します。</p> <p>2. 新駅をつくることも賛成いたします。</p> <p>3. 鎌倉が発展するためには現状の区域では発展できません</p> <p>新たな深沢区域を開発することしか残された発展する道がありません。狭い旧鎌倉区域に限定していたら世の中に取り残された本当に古いだけの鎌倉しか残りません</p> <p>4. 鎌倉市はきちんと段階的に市民に説明してきました。</p> <p>今更聞いていないなんて言う方が怠慢です。</p> <p>5. 新駅が将来の鎌倉の発展のかなめになります。</p> <p>6. 新駅をつくれれば土地の値が上がり市が民間に土地や事務スペースや地上容積権の分譲やマンションを分譲すればそれだけで新駅、本庁舎建設費用に役立てられます。それができる都市計画決定をすればいいだけです。</p>	
7	24		<p>掲題について下記述べてさせていただきます。</p> <p>1, 基本的な考えは、「老人より若者に魅力のある鎌倉市にすることが第一」です。</p>	<p>第3次（平成8～令和7年度）鎌倉市総合計画基本構想において、本市の将来都市像を「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」と定めています。また、公共施設の再編に当たっては、「鎌倉</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				の魅力を継承しつつ、次世代に過大な負担を残さない。」ことを前提としており、本庁舎の整備はこれらの考え方に沿って、取り組んでいます。
8	26		<p><全体的な感想></p> <p>当初は出前説明会やワークショップを重ねてもなかなか我々に伝わらないもどかしさを感じていましたが、昨年ころからパブリックコメントや市民集会を通じて理念や課題がはっきりしてきたと感じます。</p> <p>これは担当部署のご努力の賜物と思います。特に4月発行の鎌倉市公共施設再編計画News No. 25は現時点の概要を分かりやすく編集しており、本件に関する各市民の情報量に差があっても、一定のレベルまで共有できるようになったことは大きな進歩です。難しいことではありますがこれからも発信の質と量、特に老若男女問わず読み手、聞き手に「分かりやすく伝える」は重要なキーワードです。</p>	本庁舎の整備に当たっては、引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いながら、取り組んでいきます。
9	39		1 市役所が旧鎌倉になればならない理由がない。新庁舎は市民のものであるので旧鎌倉になくってもよい。	
10	41		1. 本庁舎の深沢地区への移転は合理的で賛成。	
11	44	全般	丁寧、詳細に検討された内容であると感じました。	
12	123		JR 跡地活用策についての無作為抽出アンケートの際に市役所の移転を意見として出していただけに、ようやく実現の道筋が見えてきたかと喜んでいる。 大賛成。	
13	26		<p><まとめ></p> <p>鎌倉も市政 80 年を迎えます。最新の統計では人口、世帯数も微増しているようで、全体としては世界に名を知られたブランド自治体で他の自治体に比べ恵まれています。ただ長期的に見れば鎌倉市も少子高齢化、労働人口減は避けられない状況です。だからこそ社会環境の変化を直視しつつも地理的、自然環境的、社会的なメリットを最大限に生かした将来像作りと、それを推進す</p>	いただいたご意見を参考に、「市民のニーズや社会情勢の変化に応えるコンパクトな本庁舎」を目指し、引き続き本庁舎の整備に取り組んでいきます。

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			る拠点としての新庁舎づくりに取り組んで頂きたいです。鎌倉といえば「年間 2000 万人が訪れる大観光地」で終わらず、少子高齢化、ダイバーシティ、柔軟な発想と積極的かつ前向きに市民に向き合う行政、そこには魅力的な市民が住んでいる、といった最先端を走る“鎌倉”になってほしいと心から願っています。	(前ページの続き)
14	43	全般	市庁舎移転に決して反対する者ではないが、この構想はどうも移転事由が災害対策面を特に重視し過ぎているのでは？ 無論この点も大事だが、庁舎そのもののあり方を市職員側からの目線だけでなく一般市民目線が原点になる様な基本構想になって欲しい。	いただいたご意見を参考に、基本構想の第2章と第3章の順番を入れ替えました。
15	54		○「・・・基本構想」は、分かりにくい。用語、文章が、読んでも意味が不明りょう。 ◎市民の要望を丁寧に聞きとり、それぞれの地域に必要なものは何かを具体的に調査したうえでこの「・・・基本構想」が作られたのか、大いに疑問。 ◎市民の視点が欠けている。 ◎税金を有効に使って！！	この基本構想は、市民対話やアンケート結果等を基に、新たな本庁舎の移転整備を進めるに当たって、本市が目指す本庁舎のあるべき姿を明らかにするなど、基本となる方向性を定めています。 本庁舎整備に向けた取組に当たり、これまで、市民対話、出前講座やふれあい地域懇談会、パブリックコメントなどの実施による市民の皆さんの意見収集や、委員会の公開、広報紙、市ホームページ、公共施設再編ニュースの発行などによる周知を図ってきたところです(P.2～5)。引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				意見を伺いながら、取り組んでいきます。
16	55		<p>趣旨と多少ずれがあるかもしれませんが『新庁舎に期待すること』を書かせていただきます。</p> <p>①（市役所の機能と人を最小化する） 2年前まで固定資産税を市役所の窓口へ支払いに行っていましたが受付に3人も人がいたように思います。もし正社員だとしたら窓口の受付程度の業務に3人も配置するのはもったいないと思いました。自動支払機の設置と操作が分からない人を案内する人（シルバーの方や主婦のパート）で十分な気がします。もしかしたら現在は変わっているかもしれませんが全受付窓口を一つにして用事のある窓口の部屋へ順番に案内するシステムにするなど配置人員や来庁した人の待ち時間を短縮するシステムを導入してはどうでしょうか？</p> <p>②（天窓から光が入るような明るい相談室を設ける） 6年ほど前に育児の相談などでカウンセラーの方に相談室で話を聞いてもらったことがありとてもお世話になりましたが相談室が窓のない暗い部屋だったような気がします。落ち着いた感じではあるけれども明るい雰囲気のある相談室があれば相談者にとっても良いのでは？と思いました。また、相談に行ったときに子どもが未就学児でゆっくり相談をするため子供を近所の託児所へ預けました。育児についての相談をする人は多分このようなケースが多いと思います。託児所が同じ建物内にあるともっと気軽に相談でき、相談者のハードルが低くなるように思います。</p> <p>③（庁舎まるごと有効活用） 現在の庁舎では一般市民は主に1階しか利用しないと思うのですが新庁舎では他の階は市民なら誰でも使える大小の部屋や図書館、室内運動スペース（ボルダリングウォールや雨の日や夏でも子どもを安心して遊ばせることができるポーネルンドの室内遊び場”キドキド”のようなもの）、防音装置付きのスタジオ（楽器の練習やスポーツジムのエアロやヨガをやるようなスペースとして）といったものを設置してはどうでしょうか？部屋はどんなことをしているのか外からでもわかるガラスで仕切った部屋（もしくはのぞき窓がある）として、訪れた人も興味が湧く仕掛けに。更にここを使用できる時間は～22:00とし運営も民間に委託、部屋の使用や講座の参加は有料として財源は市のものとして活用する。更に市の窓口で用事がない人でも公園へ行く感覚</p>	<p>いただいたご意見を参考に、今後、基本計画やを策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。</p> <p>なお、本市としての不動産屋部門の配置に関するご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>で（ところどころに自販機やベンチやテーブルなどを設置）腰かけながら各部屋の様子を楽しむことができる新庁舎が建物としてだけではなく市民の行き場所の一つとして機能するのではないのでしょうか？また、鎌倉市には著名な方やお寺のお坊さんが多くいるのでそのような方にカルチャースクールの講師をお願いし子どもから大人まで参加できるようなもの（精進料理に挑戦、座禅入門、写経入門、ライター入門、自分で漫画本をつくってみよう・・・）時には趣味レベルではなくプロ向けの講座（鎌倉市民でなくとも興味のあるに応募してもらおう）など開催していくと近郊住民や都内から鎌倉へ人が来るきっかけとなり新しい交流の場が生まれるのではないのでしょうか？</p> <p>以前、御成町のスタバで作家（柳美里）が出版社と打合せをしている場に隣り合ったり鎌倉在住の養老孟子さんが葛原岡神社を散策するのをテレビで見たりして感じるのですが一流の文化人が多く住んでいる鎌倉ならではのこを一般の市民たちが利益や財産として享受できるようなセミナーを市が中心となって開催して欲しい。「鎌倉は海も自然も素敵だけど知的欲求をみたしてくれる文化発信の地だからずっとここに住みたい！」と思えたら嬉しい。</p> <p>④（鎌倉に住みたい人へ情報を提供し、最終的には住めるような斡旋業に取り組む）</p> <p>鎌倉市としての”不動産屋部門”があっても良いのでは？地元の不動産業者と協力して鎌倉に住みたい人、お店を出したい人に有益な不動産情報を提供し実現できるよう最後まで面倒をみる。また住民の高齢化などで廃墟になりつつある場所を有効に活用できるよう市が斡旋する。新しい住人が鎌倉に増えることで新しい変化が起こる可能性も。（北鎌倉駅から葛原岡神社へ向かう途中にある富士山が見える古い住宅に”賃貸物件”と書いてあるが、今のままでは正直誰も借りそうになくそういったところを市が率先して買取り建て直しやリフォームなどをして、新たな価値を創造。鎌倉の落ち着いた雰囲気を求める外国人や都内の人に販売を斡旋するのはどうか？）</p> <p>長くなりましたが以上意見として書かせていただきました。よろしく願いいたします。</p>	(前ページの続き)
17	77		<p>まず全体を通しての言葉遣いについて。</p> <p>広く、すべての市民に理解できる日本語を便っていただきたい。ウエルネススクエアだのヘルシーエイジング、シヴィックエリアだの一般人の誰が使っているのですか。こういう内輪言葉はやめてください。別紙井上ひさし「日本語視察ノート」の抜粋をどうぞお読みになってくだ</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、「ワークプレイス」、「SDGs」、「リスクマネジメント」、「ヘルシーエイジング」、「ウエルネススクエ</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			さい。	ア」について、説明や注釈を追記しました (P. 10、P. 14、P. 20、P. 46。「シビックエリア」については、すでに注釈を入れております。) いただいたご意見を参考に、今後も、なるべく分かりやすい表現に努めていきます。
18	84		素晴らしいビジョンをより具体化、発展させるハードとソフトが有機的に機能する本庁舎の整備を！ 改めて行政の機能分析を行い、本庁舎すべきこと、地域の方がより効率的で地域主体すべきこと（地域へのサポート機能は本庁舎にあることは言わずもがなです）という観点から、本庁舎の検討と併せて地域行政センター等の機能の見直しも、この機会に検討願います。今後の他都市のモデルプランとなるような先進的かつ機能的な市役所となることを願っております。 建築費の概算は示されて、これから議論されて行くと思いますが、同時にランニングコストの数値目標も検討すべきでは？ハードがフィックスされていない段階では難しいとも思いますが超概算でも示した方がより良い議論になると思います。（多分、現状のランニングコストをかなり下回るのは？）もちろん、中長期の改修計画を含めたハードの長寿命化も併せて広い意味のランニングコストとして検討できれば最高のものになると思います。 すでに検討されているようですが、組織、サービスの見直しに即応できるハード作りはさほど困難では無いのでは？例えば無線 LAN、区分照明、空調等もランニングだけでなくイニシャルコスト的にこなれてきていると感じます。ただし、外部への貸し出しや減築を考えすぎると導線も含めて無用の施設整備をする可能性もあります、バランスが大切ですね。 権威づくりのための施設は不要です。 市長室、議会等も機能優先で検討願います。例えば議会本会議場も災害時は対策本部、平時の議会が開催されていない時にはミニコンサートや演劇に使えないでしょうか？レイアウト、内装等の 0（ゼロ）ベースプランでの検討、併せて少しの設備を仕込んでおくだけで対応できると思	今後、基本計画を策定する中で、具体的な面積やコスト、建物の設備等を検討します。 本庁舎の整備に当たっては、いただいたご意見や基本方針「⑤市民に寄り添った対応ができる本庁舎」(P. 14)を踏まえ、地域のまちづくりとの連携を考慮しながら取り組んでいきます。

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>ます。(中途半端にならない注意は必要、かつ運営のルールづくりはそれなりに大変とは思いますが)。</p> <p>まちづくりとは 人とハードの有機的な繋がりであることは自明のことであり、市庁舎ハードの完成で終わることなく、これを機会に市民、市職員等の人づくりのため継続的な仕組み作りも検討願います。</p> <p>検討チームの更なる良き働きに期待しております。以上</p>	(前ページの続き)
19	89	3-1	<p>そもそも この構想案、ハードな面の検討から入っているが、ソフト面、具体的に言えば、市民と市が将来どのような関係になるのか、どのような関係が望ましいのか、その場合の市庁舎の意味・あり方はどのようなものであるべきなのか、それらが論じられていないのはおかしい。そこが原点であるはず。そこをきちんと整理しないまま、現時点での市庁舎イメージのまま計画を進めようとするのはおかしいと言わざるをえない。</p>	<p>本庁舎整備については、『鎌倉市公共施設再編計画（平成 27 年 3 月策定）』に基づいて、段階的に取組を進めています。これまで、市民対話、出前講座やふれあい地域懇談会、パブリックコメントなどの実施による市民の皆さんの意見収集や、委員会の公開、広報紙、市ホームページ、公共施設再編ニュースの発行などによる周知を図ってきたところです（P.2～5）。</p> <p>本庁舎のあり方については、平成 28 年度に実施した市民対話において議論し、『鎌倉市と本庁舎の未来に向けた 市民の想い』（※）として冊子にまとめています。</p> <p>引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやす</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				<p>い情報提供に努め、本庁舎の整備に取り組んでいきます。</p> <p>(※)http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/documents/shiminnoomoi_hp_1.pdf</p>
20	109	その他全体	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深沢に本庁舎を移す場合、市職員の登庁、全市的な視点で見ると各地区の市民の来庁にかかる平均コストは明らかに増加します。市の財政、市民の負担増という点で明らかなデメリットだと思いますが、この事についても市民に公表せず、移転先決定にあたっても観点とせず、プロセスを進めていることは大きな問題があります。これらのコストは払い終わるといふ事はありません。 ・モノレールは単線で、物理的にこれ以上の増発はできない事は前々から判っていたことなのに、なぜ移転先検討時に今回の検討結果が示されなかったのか？少なくとも本庁舎の全機能を深沢に移転するのは筋が悪いという考えに変わりました。 ・現在位置への建て替え可能な方法も以前の意見募集で出てきていますね。 ・市庁舎の位置と公官署との関係に関しては検討すらしていない。 ・残念ながら、現在の検討までにかかった時間・費用は sunk cost として支払う必要があると思いますが、市庁舎位置の変更に関する議会議決においてはそこに躊躇はしないでいただきたい。50年～100年の時間から見れば、今正しい検討方法と評価を行う方がはるかに重要です。 <p>結論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深沢(受援機能、市民交流スペース)・御成(平時の行政機能)等、分担を考える直す必要あると思います。 	<p>本庁舎が移転した場合の職員の通勤にかかるコストについては、今後の職員数の減少や移転に伴う職員の居住地の遷移などによる減少の可能性など、予測の難しい面もあります。通勤にかかるコスト増もありますが、移転整備によって、現在の本庁舎が抱える課題の解決による防災拠点機能の確立や、公共施設再編が進むことなど、総合的に判断して移転整備に取り組んでいるものです。</p> <p>また、湘南モノレールへの影響については、移転先を検討するに当たって、『鎌倉市公的不動産利活用推進方針(平成30年3月策定)』を策定する中で検証を行っています(P.57)。</p> <p>ご意見にある現在市役所本庁舎ある場所(以下「現在地」とい</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				<p>う。)での建替えについては、『鎌倉市本庁舎整備方針（平成 29 年 3 月）』を策定する中でその可能性を検討し、困難であることを示しています。</p> <p>鎌倉、大船、深沢のそれぞれの役割や可能性があることや、市民サービスに対して、これまで検討してきました。また、ご意見にあるような地域による行政サービス機能の大きな分担は、防災拠点機能（受援機能）と相反する面があることから検討していません。</p> <p>なお、現在地の利活用については、令和元年度からその基本構想の策定に着手する予定です。</p>
21	112	1-1	<p>「平成 23 年（2011 年）の東日本大震災を受け、」の後に続くのは、津波浸水想定範囲内に敷地が含まれている、ということではなく、「業務継続に求められる通常の 1.5 倍の Is 値 0.9 の耐震性能は有しておらず、大規模な地震が発生した場合の業務継続が困難」という内容であるべき。それに続いて、執務スペース不足や現状における執務スペースの分散化による非効率などをあげるのが順当であり、従来の説明を漫然と踏襲して津波浸水想定域ということを真っ先に持つてくるのは不適切である。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、現在の本庁舎の抱える課題の記載順序を変更しました（P.1）。</p>
22	113		<p>*7. その他*</p> <p>*(ア) 検討・設計プロセスの透明化*</p>	<p>本庁舎整備に向けた取組に当たり、これまで、市民対話、出前</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>密室と言われないためにも、この際、全て公開してみてもいい？全員が納得できるプロセスと結果は絶対がない。民主的手続きの限界。(市長が信用されていれば、このようなことにはならない。これだけ反対運動がありながら、議会も不甲斐ない。)</p> <p>* (イ) 癒着をさせない業者選定*</p> <p>特に設計者選定は公開プレゼンし、市民が参加できる仕掛けを組み入れては？</p> <p>* (ウ) 経費節減のためのプロジェクトマネジメント術*</p> <p>工期と費用を予定内と予算内に収めるために何が出来るか？市としても数十年に一度の大事業。これを成し遂げられるソリューションが市内にいるか？外部から専門家を招聘するのが得策。ただし言いなりにならないように。</p> <p>* (エ) 最後に一言*</p> <p>未来の鎌倉のための庁舎だから、出来るだけ若い設計者を選んで欲しいその周りをベテランで固めて、盛り立ててあげたい</p>	<p>講座やふれあい地域懇談会、パブリックコメントなどの実施による市民の皆さんの意見収集や、委員会の公開、広報紙、市ホームページ、公共施設再編ニュースの発行などによる周知を図ってきたところでは (P. 2~5)。</p> <p>今後、基本計画を策定していく中で、いただいたご意見を参考にいたします。</p>
23	114		<p>本庁舎移転の構想は、現在の老朽化と狭小の現況を考えると大変良く考えられた草案だと思います。又体育施設グラウンドが少ないと思いますので、市民のための施設ももっと増やしてもらいたいと期待します。モノレールの深沢駅の場所が候補にあります、実際の市内の現状をみまわして、とても適していると思います。市民活動に際しても現況の鎌倉駅ちかくは駐車スペース不足等の問題や各施設の老朽化も進んでいくでしょうから、今後のボランティア団体・市民活動が公平に活用しやすいスペースを設けていただきたいと期待しております。</p>	<p>本庁舎の移転先となる深沢地域整備事業用地においては、消防本部や総合体育館、グラウンドの整備も予定しています。</p> <p>また、新たな本庁舎には、市民活動や交流を支える交流・創造機能スペースを設けることを検討しています (P. 17~19)。</p>
24	119	1-1 から 1-7 まで	<p>公務をおこなうに当って、仕事のしやすい庁舎が必要です。これまでもそのことについてさまざまに検討、計画、実現を図ってこられたことと考えます。そして「本庁舎等整備基本構想」としてまとめられていますのは、公的不動産利活用推進方針に沿って、深沢地域の整備にあわせ、移転先として深沢行政用地を決めた由であります。しかし、疑問に感じますのは、鎌倉・大船・深沢・腰越等、本庁舎、行政センター支所など多様に呼ばれる建物は、すべて庁舎(官公庁の建物、役所の建物)でありますまいか。本庁舎として他の庁舎と分けて考えなくてよろしいのでは？何</p>	<p>よりよい行政サービスを提供するためには、職員にとって働きやすい職場であることも重要であると考えています。</p> <p>本庁舎の整備に当たっては、基本方針「③鎌倉の自然や歴史を感</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>故か。「税」を原資として市民のために建築されているものですから。深沢地区を振興するためにと云うも、”本当か”と思わされる構想に終わらなければさいわいです。</p>	<p>じ、市民のつながりを生かせる本庁舎」(P.13)や「⑤市民に寄り添った対応ができる本庁舎」(P.14)を踏まえ、地域のまちづくりとの連携を考慮しながら取り組んでいきます。</p>

○ 基本理念

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
25	37	3-4 など	<p>情報通信のインフラ設備を本庁舎全体に取り入れた構造にし、市民が自宅のパソコンから対話できることを最終目標とした「新時代の市役所」になることを期待します。</p> <p>そのための課題は多々あると存じますが。(現役時代、丸の内の本社で情報通信を担当していました)</p>	<p>今後、基本計画を策定していく中で、いただいたご意見を参考に、具体的な検討を進めていきます。</p>
26	97	3-3	<p>「本庁舎のありたい姿」「誰のための本庁舎か」＝市民にとっての本庁舎は現在地が一番理想的。決して土木関係の市議達の利権のためではないことが第一条件。</p>	<p>現在の本庁舎は、すでに築 50 年が経過し、老朽化が進んでおり、防災拠点としての機能不十分、執務スペースの不足による市民サービスの低下などの課題を抱えていることから、様々な視点で検討した結果として、『鎌倉市本庁舎整備方針（平成 29 年 3 月策定）』で移転して整備することとしました（P.1～5）。</p> <p>現在地については、本庁舎移転後も一定の行政サービスが維持できるように、窓口機能を設置する予定のほか、公共施設再編計画の実現や民間機能の導入などにより、賑わいの創出や憩いの場の整備を目指します。</p>

○ 基本方針

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
27	1		<p>1. 基本理念が総花的で実現性を疑わせる。</p> <p>2. 誰のための本庁舎かだが、当たり前すぎてなにも言っていないのではないか。</p> <p>優先順位をもっとはっきりさせてブラシュアップ願います。</p> <p>以下、報告書の一部を引用</p> <p>新たな本庁舎のあるべき姿(目標とする基本理念)」を 「市民のニーズ や社会情勢の変化に応えるコンパクトな本庁舎」とします。</p> <p>新たな本庁舎のあるべき姿(目標とする基本理念)</p> <p>基本理念に掲げる本庁舎の実現には、基本 構想策定後も、市民ニーズや社会情勢の変化 を的確に捉え取り組む必要があります。また、</p> <p>新たな本庁舎の整備後の市職員数の減少や社 会情勢の変化などに対応できる柔軟性(フレ キシビリティ)や環境配慮、ユニバーサルデザイン、バリアフリー化といった社会的な要 請(法令等や社会潮流)に応える必要もあ ります。</p> <p>そして、忘れてはならない重要な視点として、誰のための本庁舎かという点があります。</p> <p>本庁舎は、平時において様々な行政サービスを提供する拠点であり、発災時においては復旧・復興の拠点であるなどその役割は多様です。いずれにおいても、「市民のための本庁舎」であることを意識しながら、質の高い行政サービスの提供を支えるワークプレイスとして整備することも重要となります。</p> <p>更に、本庁舎は深沢地域整備事業で消防本部や総合体育館・グラウンドなどと一体となったシビックエリアを形成し、深沢地域における新たな拠点形成やまちづくりに最大限、寄与 する必要があります。</p> <p>【基本理念】 市民のニーズや 社会情勢の変化に応える コンパクトな本庁舎</p> <p>基本理念や基本方針(重要な要素)の抽出</p> <p>●本庁舎整備等市民対話(H30)</p> <p>・ネットワーク型ミニマム・コンパクト ・稼げる次世代の庁舎 ・強くて壊れない防災時でも頼れる庁舎 ・簡素化・効率化、ミニマム ・市民に寄り添う庁舎</p>	<p>六つの基本方針につきましては、これまでの本庁舎の整備に関する取組過程において実施した市民対話やアンケートの結果などを基に作成した「市民のニーズや社会情勢の変化に応えるコンパクトな本庁舎」という基本理念を具体化するために必要な要素で、全て実現を目指すものです。</p> <p>今後、基本計画や策定していく中で、いただいたご意見を参考に、費用対効果を考慮しながら、具体的な検討を進めていきます。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉らしさや地域特性を念頭に置いた市民サービスの仕組みの構築 【拡張ワークショップによる新たな要素】 ・ 車椅子やベビーカーでの利用のしやすさ ・ 市民が日常でも訪れ、利用できるスペースづくり 堅固な建物で 災害時に頼れる本庁舎 最小限の機能を備え コンパクトで効率的な本庁舎 鎌倉の自然や歴史を感じ、市民 のつながりを生かせる本庁舎 人や民間資金を呼び込む 本庁舎 市民に寄り添った対応が できる本庁舎 誰もが利用しやすい 本庁舎 <p>3-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市政 e-モニターアンケート(第 43 回) ・ 重視すべき分野(防災対応が最多、次いで IT 化・ 電子行政) ・ 施設整備として期待すること(災害時にも機能する整備が最多、次いで維持管理経費負担が少ない 整備、利便性向上) ● 利活用方針 ・ 総合的な防災力を全市に対して発揮 ・ 官民が連携した手法の導入 ● 整備方針・市民対話・アンケート ・ 災害への対応力が本庁舎のあるべき姿のひとつ ・ この先 50 年、100 年耐え得る柔軟性が必要 ● 再編計画 ・ 鎌倉の魅力を継承しつつ、次世代に過大な負担を 残さない <p>本庁舎づくりのビジョン(基本理念)</p> <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老朽化の進行 2. 防災拠点としての脆弱性 3. 市民サービス拠点としての機能不十分 	(前ページの続き)

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>解決策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎 2. 最小限の機能を備えコンパクトで効率的な本庁舎 3. 鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを生かせる本庁舎 4. 人や民間資金を呼び込む本庁舎 5. 市民に寄り添った対応ができる本庁舎 6. 誰もが利用しやすい本庁舎 <p>意見</p> <p>基本的考え方は解決策は総花的にならないようにする。解決策の優先順位を決める。</p> <p>私見は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎 4. 市民に寄り添った対応ができる本庁舎(市民の学びや、集い、交流、子育て、起業の支援などのニーズに応え、豊かな市民生活が実現できる場や機能を持った本庁舎とします。の実現を最重要とする。 <p>その他の解決策は予算があれば実施するとしてはどうでしょうか。</p>	(前ページの続き)
28	70	P1-3 概要版 P2-3	2. 概要版について、7 つ目のビジョン具体化の要素=SDGs(地域の持続可能性に必要な津波対策を含む)への対応が必要	本庁舎整備に当たっての SDGs 達成に向けた取組内容を追記しました (P.14~15)。

①堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
29	9		<p>「ビジョンと6つの要素」の1、「堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎」について</p> <p>※本庁舎に必要な設備等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本庁舎は、周囲を見渡すことのできる高い建物であること。高ければ高いほど、災害時の無線の届く範囲が広く確実。従って、本庁舎は高い建物が良い。 ・屋上には、常時、360度監視できる高画質カメラの設置、さらに、モニター機能の充実（モニターは1階に常設）。 ・最上階窓際に、直接目視できる複数の双眼鏡（観光地でよくみる大きな双眼鏡のようなもの）の常設。 ・災害時の自家発電設備。充電設備も合わせて設備する。充電できるモバイル電源（移動用電源）は、非常時必須であると思うので、必要個数用意。モバイル電源はUSB使用のもの。 ・災害時の市の情報を、昼夜に関わらずはっきり見ることのできる電光掲示板の設置。また、夜間時には庁舎の建物に、直接、動画を投影できるプロジェクションマッピング装置を設備。 ・屋上に緊急時用のヘリポート。 ・特定小電力トランシーバーの活用。トランシーバーのヘッドセットを利用し、常の業務にそれを使って慣れておき、災害時の職員間の密な連絡に活用する。各階だけでなく全館で使用するため、非常時電源対応（USB電源）の特定小電力トランシーバー無線中継器（局）の設置。 ・災害用にトイレの個数を増やす。特に、女性用のトイレの数を増やして、非常時のトイレ混雑を緩和する。 ・座れる場所、横になる場所、応急手当をする場所として庁舎の廊下を利用する。廊下の面積を広く取る。さらに、廊下の壁に、壁収納型のベッドや椅子を設置する。 ・緊急時のために、廊下に、酸素吸入器の配管をする。 ・本庁舎周りの道路で、車両が、何らかの理由で、道路を塞ぎ、緊急車両や市の車両が通れなくなる場合を想定し、通行障害車両を撤去するレッカー車を常備する。 ・市の公用車やバイクは、EVとガソリン使用車を半々にする。 ・充電式レスプロソー（電動の小型のこぎり）と手動ジャッキを常備し、災害時、バイクで被災 	<p>いただいたご意見を参考に、必要な施設整備については、今後、基本計画を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。</p> <p>また、周辺道路については、深沢地域整備事業に伴う整備により、地域の安全性、利便性、快適性、防災性などの機能向上を図ることを考えています（P.51～52）。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>地に行く際は、必ず、職員に持たせるようにする。</p> <p>※本庁舎周辺地域の道路整備と緊急時移動用動線の複数確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新川を暗渠にし、道路幅を広くし、災害時に緊急車両が通りやすくする。また、常盤の湘南信用金庫横の道路を拡張し、湘南記念病院への動線（アクセス）を確保する。 ・町屋橋近くの三菱製作所内の敷地一部を県道とつなげ道路とし、モノレール湘南町屋付近に通す。その場合、現在の湘南町屋付近セブンイレブン横の道路幅が狭いので拡張する。 ・神鋼橋より先に、藤沢市と共同で、東海道線跨線橋を新設し、湘南鎌倉病院への動線（アクセス）を確保する。 <p>以上</p>	(前ページの続き)
30	88	頁 3-5	<p>『①堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎』</p> <p>『【今後の検討や基本計画、基本設計で更なる具体化の検討を進める項目（キーワード）の例】』</p> <p>に、「本庁舎及びエリア内の防災性もBCP（業務継続計画）を向上させるためのエネルギー多様化・電源の多重化などのエネルギー対策」を追記すべきだと考えます。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、表現を一部改め、業務継続に関する電源供給の多重化などのエネルギー対策について追記しました(P.12)。</p>
31	113		<p>鎌倉市本庁舎等整備基本構想(素案)について</p> <p>膨大な時間と費用を投じての現状と思いますが、途中のプロセスに関わることなく、いきなりで失礼と思いつつ、鎌倉に生まれ育った一市民として、ここに意見具申します。</p> <p>*1. 堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎*</p> <p>→3.11以降、当たり前のコンセプト</p> <p>→防災性能をどのレベルに設定するか費用対効果をどう評価するか？これだというスペックを自信をもって決め切れるか？</p> <p>→画一的なBCP計画を言い訳に、費用が膨らまないか？</p>	<p>いただいたご意見を参考に、今後、基本計画を策定していく中で、費用対効果を考慮しながら、具体的な検討を進めていきます。</p>

②最小限の機能を備えコンパクトで効率的な本庁舎

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
32	105		<ul style="list-style-type: none"> 整備方針策定の際には、現庁舎では床面積が不足、分散しているのでとあるが基本理念にはコンパクトが強調されている 25,000 m²は現在とどのくらい増減があるのか不明。現在地の駐車場に庁舎を増設し、駐車場を地下にすれば現在地で十分可能。 	<p>現在の庁舎面積（本庁舎敷地のみ）は12,561m²（『本庁舎機能更新に係る基礎調査報告書（平成28年3月作成）』）で、移転整備により集約化対象検討部署も含めると、16,178m²（同上）です。新たに整備する本庁舎で目指す床面積25,000m²は、総務省の基準（平成22年度地方債同意等基準運用要綱）を基に算出した30,618m²から約5,000m²低減したものです（参考資料P. 参57～参60）。</p> <p>現在地は、『本庁舎機能更新に係る基礎調査報告書（平成28年3月作成）』、『鎌倉市本庁舎整備方針（平成29年3月策定）』、『鎌倉市公的不動産利活用推進方針（平成30年3月策定）』などで、現在地の諸条件等とした周知の埋蔵文化財包蔵地（今小路西遺跡）に該当しており、駐車場の地下に遺跡が残っている可能性があることや、風致地区による建物の高さ制限（10m）があることなどにより、本庁舎としての床面積</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				を確保することができません。
33	113		<p>*2. 最小限の機能を備えコンパクトで効率的な本庁舎*</p> <p>→供用開始後、数年すればすぐに手狭になる</p> <p>→収納量には限界があるので、どこまでペーパーレス化を行い、収納スペースを最小化できるか？データセンターはどこに？</p> <p>→より必要なのは文化遺産を保存・継承する仕組みと仕掛けとそのための空間</p>	<p>予測は困難ですが、業務の IT 化や、人口減少による職員数の低減などにより、開庁後は、不要となる床面積が発生する可能性があると考えています (P. 13)。</p> <p>今後、基本計画を策定していく中で、来庁者の利便性向上や職員の作業の効率化などを考慮し、将来を見据えた適正規模を確認していく考えです。</p>
34	115		<p>3. 各種手続きの所要時間を極小化してほしい</p> <p>「3-2 新たな本庁舎のあるべき姿」の[2] (○数字の2) に「最小限の機能を備えコンパクトで効率的な本庁舎」との記載がありますが、「各種手続きの所要時間を極小化する」(所要時間は行政側目線では作業時間、市民側目線では待ち時間を指します) ことを目的としていただきたいです。それを実現する手段として、コンパクト化や効率化が記載されるのであれば理解できますが、[2] (○数字の2) の見出し内容は本来の目的から逸れているように見受けられます。なんでもかんでもコンパクトにするのではなく、市役所職員の方が気持ち良く働けるように適度にゆとりのある作業スペースが必要であり、かつ、市民が各種手続きを申請した際の所要時間が現状よりも改善されるようにしていただきたいと思います。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、コンパクト化について、「各種手続きの所要時間の短縮といった利便性を追求することも重要です。」と追記しました (P. 13)。</p>

③鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを生かせる本庁舎

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
35	21		<p>(1) 新本庁舎</p> <p>鎌倉市のブランド力向上の意味で、建物の外観を歴史を感じさせるものにすべきと思います。</p> <p>現在の市庁舎ほか、警察署等公共施設にその雰囲気は全く感じられません。</p> <p>特に最近オープンになった鎌倉歴史文化交流館には興ざめでして二度と行きません。知人も案内しません。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、本庁舎の外観については、今後、基本計画を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。</p>
36	61	3-6	<p>新たな本庁舎のあるべき姿</p> <p>③ 鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを活かせる本庁舎</p> <p>歴史を感じるのは現在地であって深沢ではない。現在地は奈良時代から現代まで行政の中心だった。(深沢が鎌倉時代の古戦場であった事実を否定しないが、マイナーな話です。)</p>	<p>「鎌倉の自然や歴史を感じ」とは、本庁舎が立地する土地自体に鎌倉固有の歴史を感じることを求めているものではありません。</p> <p>この基本方針は、鎌倉市が持つ固有の自然や歴史、市民のつながりといった要素を尊重した空間の創出を目指す考えを掲げたものであり、その具体化は、例えば建築デザインや情報発信によって、十分に可能であると考えています。</p>
37	113		<p>*3. 鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを生かせる本庁舎*</p> <p>→「鎌倉の自然や歴史」とは？</p> <p>→新庁舎の敷地はこれを感じられる敷地とは思えない。</p> <p>→市民のつながりは、物理的なつながり以外に精神的なつながりも含むはず。</p> <p>→鎌倉らしさを感じさせる「場」がデザインできなければ、失敗。</p>	

④人や民間資金を呼び込む本庁舎

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
38	10		<p>人や民間資金を呼び込む本庁舎とありますが、建物 150 億円の資金を民間に拠出させる手法はどうでしょうか。</p> <p>例えばテラスモールのようなショッピングモールを誘致し、土地は無償で貸し出かわりに建物は企業が作り、1, 2F はテナント、3, 4F は市庁舎の機能とする。そうすると人が集まる市庁舎になると思います。全額負担は難しいとしても例えば 4 階建の半分は市が持つなど検討が可能だと思います。</p> <p>浮いたお金でまた同じ敷地に鎌倉市にはない市営野球場、サッカースタジアムを建設し、ベイスターズ、ベルマーレの準フランチャイズとしてはどうでしょうか。</p>	<p>本庁舎の整備におけるコスト等については、令和元年度に事業手法の調査を行い、検討を深めていきます。引き続き、先進事例を研究し、本庁舎の整備に当たっては、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指します。</p>
39	26		<p>3. 民間資金について</p> <p>民間資金を呼び込み、投資額を抑え、維持管理コストを抑えるというアイデアは今回の新本庁舎建設に欠くことのできない前提条件です。</p> <p>ただこの民間資金の導入は、現時点では「そうしたい」という期待であり、現実的にどういった民間がどのように資金を出し、その結果、市の財政負担の軽減につながる、といった「具体的な計画」はまた出ていないのではないのでしょうか？とすると絵にかいたモチになりませんか？箱ものの新本庁舎建設の構想や建設のタイムフレームと同じかそれ以上の優先度で「民間資金導入案」を 2019 年から入れるべきと考えます。</p> <p>ひとつ具体的な提案ですが、現庁舎の高層階を高級ホテルやレストランにリフォームしては如何（例えば星野グループなど）？あまり公共の施設に拘らない方が民間資金が入りやすいのでは？（旧警察署が JR 系のメトロポリタンが入りますが、これも鎌倉を日帰り地とさせない機会をとらえています。）</p>	
40	113		<p>*4. 人や民間資金を呼び込む本庁舎*</p> <p>→東京の豊島区役所のように、事業者と組み、事業施設と合築するなど、破綻に対するリスクヘッジをした上で、建設・維持費用を最小化するモデルも検討すべき。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
41	105		<ul style="list-style-type: none"> 基本理念の中に、人や民間資金を呼び込むとあるのにひっかかる 	<p>この基本方針は、人が訪れることで賑わいの創出につながるとともに、人が訪れるきっかけとなる賑わいの創出を目指す考えを掲げたものです。人が訪れるような本庁舎を目指すことで、訪れる人の利便性や満足度を高めるだけでなく、民間資金の活用など官民連携を図ることで、建設コストや建設後の維持管理コスト等の様々な段階において発生するコストについて、公費負担を可能な限り抑えたいと考えています。</p>

⑤市民に寄り添った対応ができる本庁舎

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
42	102	3-9	本庁舎に導入する機能(①～⑤)のうち、⑤交流・創造機能について 市民や来訪者など、多様な人々の居場所や活動の場とするフリースペースなどは、広く公平に多くの人々に開かれた場となるよう要望します。	いただいたご意見を参考に、今後、基本計画を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。
43	113		*5. 市民に寄り添った対応ができる本庁舎* →ここでの「市民」は誰？ →市民全員に共通の行政サービスの提供はもはやできない。また、市民一人一人が求める行政サービスもメニューとその組み合わせがバラバラ。共通して求められるのはおそらく「機会均等」だけ、後は様々な立場にある「弱者」を救済する体力(予算)を市がどこまで捻出できるか？必要なのは「それを求める市民」に「どれだけ寄り添えるか」、そのための庁舎。自立できる一部の市民はおそらく行政に頼らない。 →機会均等に寄り添うなら、エリアごとに小さな庁舎があり相互に連携しているか、それこそコールセンターで一括サポートするなど、21世紀の庁舎のあり方をとことん議論し、模索したのか？経済合理性だけを判断材料にしたいくないし、すべきでない。	平成30年度に行った市民対話拡張ワークショップにおいて、行政サービスだけではなく、世代間交流や子育て、起業の支援などの機能を期待するご意見をいただいています。そのため、来庁される市民がストレスなく用事を済ませたり、気軽に利用したりできるための機能についての考え方を示したものです。
44	117	3-6 5-10	素案を拝見させていただきました。 街づくりと庁舎整備の関係はよくわかりました。 それぞれの場については、それぞれの専門の方の意見を重視してほしいと思います。 市民からは、今までは、あまり充実していなかったように感じる部分「交流機能」についての意見も出ているようです。全拠点が対象になるとよいと思います。 鎌倉は、「市民活動」が盛んです。「ネットワーク化」については、情報発信だけにとどまらないよう検討してほしいです。 その活動をより活性化するための機能スペース、支援体制も交流機能と合わせて充実させていきたいと思います。 これも、携わっている方の意見を充分聞いてほしいと思います。	いただいたご意見を参考に、新たな本庁舎に導入する市民活動・交流機能については、今後、基本計画を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。 また、基本方針「③鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを生かせる本庁舎」(P.13)を踏まえ、各地域との連携を更に強めて取り組んでいきます。

⑥誰もが利用しやすい本庁舎

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
45	42		第3章の2、新たな本庁舎のあるべき姿の2の6、誰もが利用しやすい本庁舎について、車いす利用者やベビーカー利用者等移動に制約のある人のアクセスしやすさの観点から、湘南モノレール湘南深沢駅から本庁舎への歩行者経路ならびに駅前広場・交通広場（バス乗り場）から本庁舎までの歩行者経路上に悪天候時でも利用しやすい連続した上屋を設置することについて検討すること。また、交通広場ならびに湘南モノレールの駅から本庁舎へのアクセス支援として本庁舎正面玄関等に視覚障害者誘導チャイムを設けること。	いただいたご意見を参考に、誰もが利用しやすいよう、バリアフリーやユニバーサルデザインについては、今後、基本計画を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。
46	61	3-7	⑥誰もが利用しやすい本庁舎 すくなくとも旧鎌倉地区の市民にとって利用しやすい本庁舎になることはない。	現在地については、本庁舎移転後も一定の行政サービスが維持できるように、窓口機能を設置する予定のほか、各地域と新たな本庁舎を結ぶ路線バスのネットワークの強化の検討を進めていきます（P. 48～50、P. 57～58）。
47	113		*6. 誰もが利用しやすい本庁舎* →「本」＋「庁舎」という定義自体、もはや時代遅れに思える。村の合併により市となった鎌倉、これからは高齢化・過疎化が進む村落の集合体。今後の展開を考えれば、日本各地の過疎の集落とその先進的な活動を勉強してほしい。よって「利用しやすい」とは、徒歩圏内にコンビニのようなステーション(行政手続き、子育て、教育、就業支援、福祉、交流の場)があることだと思う。	現在、一部証明書の交付をコンビニエンスストアで行っており、今後もIT等を活用した行政サービスは進展すると考えられることから、今後の動向を注視しながら本庁舎機能を検討していきます。

○ 新庁舎の規模（面積）

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
48	24		⑤1 階はホールや店舗等、2 階以上は本庁舎機能や議会の他、現深沢支所にある学習センターや図書館に加え保育園・幼稚園・学生勉強室等を設置する。	いただいたご意見を参考に、建物の執務室の配置や設備等については、今後、基本計画や基本設計を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。
49	89	3-3	<p>建設費を抑えるためのコンパクト化は、問題の多い方針である。</p> <p>市庁舎の機能によってはコンパクトにできるところとそうでない部分があるはずである。執務空間をコンパクトにするのであれば、会議室や書類の保管スペースを拡充しなければならない。でも、最初にコンパクト化ありきで計画すると、執務空間は削れないので、会議室や書類の保管スペースを削ることになる。それでは使いにくいだけでなく、時代の変化に対応する組織の改編にも、対応し難い事務機能スペースとなってしまう。</p> <p>窓口機能もコンパクトにできるところとそうでない部分がある。証明書発行などの窓口は事務処理能力が増せば待ち時間は少なくなり、待ちスペースはコンパクト化できる。一方で、乳幼児連れの市民に対する授乳スペースやおむつ替えのスペースも必要となる。市民に対するきめ細やかなサービスを提供することは、おうおうにしてコンパクト化とは相容れないことになる。</p> <p>交流・創造機能は拡大すべきであろう。特に地域活動支援機能はこれからの市民と市のかかわりを考えれば、かなり充実させるべきだろう。</p> <p>地域図書館・地域学習センター機能は、近年その意味を大きく変えてきている。地域図書館は単なる読書スペースではなく、文化の発信基地としての意味合いが強くなってきている。そこを、充実させることは将来への重要な布石とさえいえる。</p> <p>このように最初にコンパクト化ありきではなく、それぞれについて将来像を想定し、凡そどのようなボリュームになるのか算定し、その積み重ねで判断すべきであろう。</p> <p>そのような検討無くしてのコンパクト化は 市民サービスの低下あるいは必要機能の切り捨てとなり、将来への展望の喪失につながりかねない。</p> <p>建設費を抑えるためのコンパクト化＝面積の削減は避けるべきである。仕様の見直し等による建</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、コンパクト化について、「各種手続の所要時間の短縮といった利便性を追求することも重要です。」と追記しました (P.13)。</p> <p>床面積については、行政需要の増大、市民交流や防災のためのスペースの確保などにより、増加傾向であることは認識しています。また、令和 10 年 (2028 年) の開庁時点で職員が働き、約 16 万人以上 (推計値 (※)) の市民に行政サービスを提供する必要があります。床面積については、25,000 m²を目標 (上限) としますが、今後、基本計画を策定していく中で、来庁者の利便性向上や職員の作業の効率化などを考慮し、将来を見据えた適正規模の更なる検討を進めていきます。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		3-10	設費の削減を考えるべきであろう。 防災拠点機能 防災拠点機能は市民や対外的な受けが良いので立派にしすぎるきらいがある。非常時にその機能を発揮すればこと足りるので、日常的には他機能スペースとして使用し、それこそコンパクト化を図るべきである。	(※)『日本の地域別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)』の平成30(2018)年推計では、令和12年の鎌倉市の人口は、161,356人と推計されています。)
		4-1	様々な基準を基に25,000㎡ 150億円としているが、非常に乱暴である。 25,000㎡を基に各機能に面積を割り振るのでは、これからの市庁舎を見据えた計画とはならない。 似たような規模の市庁舎の規模も示されているが、それに対する評価(機能上運営上の問題点)も公表すべきである。コンパクトに作りすぎて失敗した例もあるのではないか。 先にも書いたように、機能ごとに、あるべきボリュームを算出し、その積み重ねとの比較が不可欠である。それが25,000㎡を超えた場合、どのようにするか、何処のサービスを削減するかを市民に公開して問うべきである。	
		4-2	将来的に不要となる面積の将来的な対応策として、他の公共施設を集約化、民間に貸し出すことを提示しているが、従来通りの固定化された考え方に基づくもので陳腐と言わざるを得ない。そもそも市と市民の関係が将来どのように変わっていくかの見通しもつけずに25,000㎡とする計画では、余るスペースなど出てくるはずはない。不足しているスペースが少なくなるだけであろう。	
50	109	(参考資料-後半) 参4-2	(参考資料-後半) 参4-2 第4章 新たな本庁舎の規模やコスト 4-1 本庁舎の規模 1) 本庁舎の規模(延べ床面積)の検討 ②総務省基準による面積の低減の検討 表 本庁舎に必要な面積の算出のための職員数の想定 ・< 1 > 基になっている職員数について、鎌倉市本庁舎整備方針 H29年3月の図表 1-12 の1,152人が	床面積については、25,000㎡を目標(上限)としますが、今後、基本計画を策定していく中で、来庁者の利便性向上や職員の作業の効率化などを考慮し、将来を見据えた適正規模の更なる検討を進めていきます。 令和12年(2030年)の推計

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		本編 4-2	<p>ベースになっているようですが、現在地の跡地には、市民サービス機能(主に手続・相談窓口機能)を維持するのですから、1,152人の内訳である現本庁舎の917人のうち手続・窓口機能を担う職員数(少なくとも30人以上必要と想定)分は、そもそも深沢の新庁舎の面積計算からは除外する必要があります。</p> <p>・〈2〉</p> <p>市の人口は減少していきます。2028年度の開庁を目指しているのであれば、2025年の人口推計ではなく2030年のデータ(161,356人※)を基準にすべきでは？人口減少の反映による事務室用スペースの減少ペースは、年あたり30㎡程度です。この値はイ)～ハ)の面積の合計に対して0.2%程度しかないことと、ニ)の玄関等のデザインによる実面積の誤差範囲に埋もれてしまうオーダーであるため、縮小方向で合わせても問題ない認識です。</p> <p>・〈3〉</p> <p>公的不動産利活用推進方針によると「将来的に支所の窓口機能を廃止する」とありますので、開庁と同時に各支所を閉めるのではなく、窓口業務のコンビニエンスストア等での代替状況を見ながら、各支所が役目を終えたと言える状況になったと判断できた時点で集約を行うものだと考えます。その場合、各支所の閉鎖は早くても2033～35年頃になるかと思います。2035年までで各支所の閉鎖をする場合、2035年の人口推計(156,051人)で必要職員数を再計算すると「人口減少の比率」は「0.896587≒0.9以下」になり、職員数について〈1〉の減員を考慮に入れなくても111人の低減(※2)となります。</p> <p>・(素朴な疑問)</p> <p>特別職・三役の事務室の面積の90㎡という数値は、一体何に使うのかも想像できないほど広いので一般市民に判るように説明が必要だと思います。普通に3～4人が住める面積です。</p> <p>※1 国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)』</p> <p>※2 〈1〉の人数は不明なので〈2〉及び〈3〉の試算を添付します。</p>	<p>値は、現在想定する開庁時期に近いものの、開庁時期よりも先の人口推計によるため、参考として追記しました(P.36、参考資料P.参57～参60)。</p> <p>特別職・三役の事務室として記載した床面積90㎡については、総務省の基準(平成22年度地方債同意等基準運用要綱)に基づく標準面積であって、市長などが執務を行う事務室(応接室を含む。)です。</p> <p>いただいたご意見を参考に、市民交流スペースの考え方につきましては、今後、基本計画を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。</p> <p>(参考)藤沢市の資料(藤沢市新庁舎建設実施設計の概要について(平成27年3月14日市民説明会用資料)及び広報ふじさわ折り込みチラシ(平成26年10月10日号))によれば、藤沢市の市長室の面積は約138㎡(応接室含む。)、副市長室(応接室含む。)</p>
		第4章 新たな本庁舎の規模やコスト 4-1 本庁舎の規模		

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>1) 本庁舎の規模（延べ床面積）の検討</p> <p>②防災機能及び市民交流スペース</p> <p>市民交流スペースは市民が集まれる場所にあればよいのであって、その建物の名前が「本庁舎」である必要はありません。市民は本庁舎だから行くわけではないのです。深沢が便利だというのであれば、新深沢支所であってもそこに組み込めばよいだけの話です。逆に本庁舎に必須な機能ではありませんので、本庁舎の移転先の検討において必須の規模・要素であるかのように検討・記載する事は誤りで、現状の記載はミスリードを誘う資料になっていて問題があると思います。</p> <p>アンケート・市民対話等での本庁舎に「欲しい。あったらいいな。」は本庁舎の機能としての必須条件という意味ではありません。この場合の「欲しい。あったらいいな。」は物理的に適切なロケーションに存在すれば満足されます。利用者にとって、それが本庁舎かどうかは二の次なのです。</p> <p>※巻末資料参照</p>	<p>は、約 95 m²/約 101 m²で、近隣市の市長室面積の平均値は 82.1 m²です。</p>
51	119	4-1 より 5-18 ま で	<p>4-1 本庁舎を建築後、将来的に人口減して建物のスペースが余ったら民間に貸すとか他の公共施設を入れるとか、現在でも空きスペースのビルが多いのに甘い将来予測ではないだろうか。</p>	<p>今後、基本計画を策定していく中で、可能な限り、人口減少や技術革新等の社会情勢の変化を踏まえ、具体的な検討を進めていきます。</p>

○ 建設費用・予算・財源

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
52	24		<p>②国、県よりの補助金？は分かりませんが、自前建築と民間企業よりのサブリースを比較検討する。</p> <p>民間企業とは、土地の定期賃貸借契約(50年 or 60年)を結び、契約満了時点で次世代が選択できる余地を残しておく。</p> <p>③比較検討は、フロー（維持コスト）とストック（調達資金）を官・民で比較する。</p>	<p>本庁舎の整備におけるコスト等については、令和元年度に事業手法の調査を行い、検討を深めていきます。引き続き、先進事例を研究し、本庁舎の整備に当たっては、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指します。</p>
53	26		<p><個別の意見></p> <p>1. 建設予算について</p> <p>本庁舎の建設予算を180億から150億に削減、サービスのIT化に呼応した体制によるスペース削減効果は評価します。しかしながら鎌倉市の一般会計600億円の規模からみると、まだまだ大掛かりな投資です。確か以前、他の市とのスペース比較で鎌倉市の新庁舎スペースが妥当という説明がありましたが、それは飽くまでも参考であり、それらの市の効率レベルの比較はありませんでした。昨年意見でも言いましたが、IT化は5年なら5年とターゲットを決め、現在の市サービス業務を例えば50%IT化すると決め、それによる必要人員VSスペースで決めるべきと考えます。150億も投資するならその費用対効果をコミットしてほしいのです。また投資財源を市債や借入から賄うにしても、将来の市財政の中で、大きな償却費をどう一般会計の削減で管理していくかetcの関係についても説明頂きたいと思います。</p>	<p>本庁舎の整備に当たっては、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指します。</p> <p>床面積については、25,000㎡を目標（上限）としますが、今後、基本計画を策定していく中で、可能な限り、人口減少や技術革新等の社会情勢の変化を踏まえ、将来を見据えた適正規模の更なる検討を進めていきます。</p> <p>引き続き、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供に努めながら、本庁舎の整備に取り組んでいきます。</p>
54	41		<p>2. ビジョンにある「コンパクトな本庁舎」に関しては具体的に6つの要素の2番目で「最小限の機能を備えコンパクトで効率的な本庁舎」とあり、建築面積の5,000㎡縮小と30億円の建設費削減が謳われているが、</p> <p>1. コンパクトであれば効率的であると、市民に誤解させる典型的な手法で、計画全体を委縮さ</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、「コンパクトであれば効率的であると、市民に誤解させる典型的な手法で、計画全体を委縮させる</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>せる恐れもあり撤回すべきである。</p> <p>2. 建設単価60万円/㎡の設定は実質的ではない。</p> <p>過去の建設統計でも平成時代にはほぼ横ばいが続いている。仮に30億円の減額が目的ならば、もっと知恵を出すべきで、建築面積の削減に頼るのは最も低レベルである。</p> <p>以上の事から、建設費を150億円に抑えたいのなら、面積の削減ではなく、一部の建築スペックの変更や建物の低層化（構造費用の低下）シンプル化等によって確保する方が将来的なスペース不足や新規用途、災害時の機能性確保に有利と成るのが自明である。</p> <p>鎌倉市当局とりわけ建設関係者はこの事を批判を恐れずに表明すべきである。</p>	<p>恐れもあり」の部分参考に、コンパクト化について、「各種手続の所要時間の短縮といった利便性を追求することも重要です。」と追記しました（P.13）。</p> <p>また、床面積については、25,000㎡を目標（上限）としますが、今後、基本計画を策定していく中で、来庁者の利便性向上や職員の作業の効率化などを考慮し、将来を見据えた適正規模の更なる検討を進めていきます。</p> <p>また、建設費用についても同様に、今後、基本計画を策定していく中で、具体的な検討を進め、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指します。</p>
55	43	4-2～	<p>建設費と財源に関して、財源面での基金以外の各項目の具体的予算金額の目安は？？？</p> <p>素案に書かれている説明だけでは、行き当たりばったり計画で将来の財政負担増が懸念される。</p> <p>資金フロー面と併せ上記の経済効果予測をある程度含めた財源策を考えるべきでは？</p>	<p>本庁舎の整備におけるコスト等については、令和元年度に事業手法の調査を行い、検討を深めていきます。引き続き、先進事例を研究し、本庁舎の整備に当たっては、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指します。</p>
56	61	4-1	<p>本庁舎の規模</p> <p>当初の30,000平米から25,000平米に縮小したことは評価できる。</p>	<p>床面積については、25,000㎡を目標（上限）としますが、今後、</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				基本計画を策定していく中で、来庁者の利便性向上や職員の作業の効率化などを考慮し、将来を見据えた適正規模の更なる検討を進めていきます。
57	65		市役所移転について 大きな資金が必要となる割には、想定している役割がパフォーマンス不足ではないか。 たださえ高い税金を納めているのに、使い道に疑問を覚える。これでさらに税金が上がるのであれば大反対。	<p>現在の本庁舎は、すでに築 50 年が経過し、老朽化が進んでおり、防災拠点としての機能不十分、執務スペースの不足による市民サービスの低下などの現状を踏まえると、本庁舎の整備は、優先度の高い課題であると考えています。</p> <p>費用対効果が見込める機能と利便性を兼ね備えた本庁舎の整備を目指して取り組んでいきます。</p>
58	97	4-3	166 億では済まない印象。その他、今までの庁舎やその他施設を市民サービスのため、イベントスペースにするための費用はどうなのか？ 冊子を読んだだけでは、基金以外の財源ははっきりせずあやふや。基金も、一昨年からの積み立てとは急ごしらえの計画に思える。不透明。	本庁舎の整備におけるコスト等については、令和元年度に事業手法の調査を行い、検討を深めていきます。引き続き、先進事例を研究し、本庁舎の整備に当たっては、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指します。
59	102	4-3	本庁舎整備に関する事業費が 166 億円と試算されていますが、これは、もっと多くかかる可能性が大きいと思います。又、5-7 に触れられている村岡新駅(仮称)についての費用も、大きな関心事です。これらをもっと緻密に試算して、財源と共に市民に掲示してほしいです。市民にとって本当に必要なものを核にして考えていきたいです。	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
60	97	4-4	財源、焼却炉を作らず、ゴミ袋代を移転費用に回すような事は、しないで下さい。又、もしも移転するのであれば鎌倉駅から無料シャトルバスを運行させて下さい。遠すぎます。深沢開発は悪くないが、鎌倉は変わらない方が良い。	交通アクセスについては、本庁舎の移転により、遠くなる人、近くなる人、様々であることをご理解願います。本庁舎へのアクセス（交通手段の整備）については、バスルートの確保や湘南モノレール湘南深沢駅からのルート等、今後、検討していきます（P. 57～58）。更に、自動運転やオンデマンドなどの新しい技術の導入等も視野に入れながら担当部署と連携して考えていきます。 （参考）家庭系ごみの手数料の用途は、廃棄物処理施策に限定しています。
61	101	P4-3	財源 基金は8年で40億、事業費は166億円 足りない分は税金と借金 子や孫に資産だけでは済まない大きな負担を残さないことです。	本庁舎の整備におけるコスト等については、令和元年度に事業手法の調査を行い、検討を深めていきます。引き続き、先進事例を研究し、本庁舎の整備に当たっては、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指します。
62	112	4-4	現状ではPPP、PFIを適切に活用できなければ、財源の確保は難しい。 民間の関心、参入意向をはかったサウンディング調査等の結果が全く公表されていない状況では、財源確保の確実性の判断がしかねる。 サウンディング調査の結果の公開に配慮が必要であるとしても、例えば、市として、民間の参入	本庁舎の整備におけるコスト等については、令和元年度に事業手法の調査を行い、検討を深めていきます。引き続き、市民の皆さ

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			を図るための方策をどのように考えているのか等、公開できる情報はもっと公開していくべきではないか。	んへの分かりやすい情報提供に努めながら、本庁舎の整備に取り組んでいきます。

○ まちづくり

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
63	5		<p>1. 市庁舎移転の必要性は理解。賛成、かつ問題ないと思う。</p> <p>2. 深沢地区。旧国鉄整備工場への立地も賛成で、ここしか無いと思う。</p> <p>3. コメント:基本理念の、必要最小限の機能を集めて移転に、賛成。</p> <p>4. よって、現庁舎に残す機能も必要最小限にする。別途、図書館機能や、鎌倉文化歴史の学芸機能などを充実し、残す。</p> <p>5. 新庁舎の機能は、防災、環境整備機能を中心に強化する。よって、大船の消防本部は、新庁舎に集中する。</p> <p>6. 市庁舎以外の開発計画や、未活用公的不動産を含めて、総合的に、市庁移転計画を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山崎地区への清掃センターの移転計画も総合的にとらえる。 ・ 野村総研跡地の有効利用も、移転計画に、併せて検討する。 ・ 広大な、国鉄跡地の、総合的な利用計画の中における市庁舎の立地の位置づけを、よく勘案して、大局的に移転計画をまとめる。 ・ 隣接の藤沢市、大船地区との整合を、忘れずに、良く考慮すること。 <p>以上</p>	<p>いただいたご意見を参考に、引き続き、本庁舎の整備に取り組んでいきます。</p>
64	43	5-1～	<p>市の第三の拠点としての深沢地区のまちづくりは大いに賛成であるが、定性的な理念を論ずるのではなくて、経済的効果等（税収増も含めたシュミレーション）の定量的な考察が求められる。あくまで構想である故、市民の為の市全般のなかでの当地区のまちづくり効果を数字的な効果を想定してのマネージメント的観点から理解を求めることが肝要では？</p>	<p>本基本構想では、新たな本庁舎の移転整備を進めるに当たって、本市が目指す本庁舎のあるべき姿を明らかにするなど、基本となる方向性を定め、より具体的な検討については、今後策定する基本計画や基本設計において行います。</p> <p>本庁舎の整備に当たっては、引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いながら、取り組んでいきます。
65	61	4-3 5-1 5-2 5-4	<p>建設費と財源の想定</p> <p>旧鎌倉の市民にとっては現在地にできるであろう仮称鎌倉行政センターがどうなるかは関心事である。この素案では深沢本庁舎の建設費しか示されていない。もしかすると、公共施設再編計画の方を参照せよというのかもしれないが不親切。</p> <p>まちづくり・公共施設再編における三つの拠点の役割</p> <p>① 平常時：行政サービスとしての場→「平常時」は「平時」の誤記と思われる。</p> <p>② 平時：市民利用としての場</p> <p>3 拠点ということは玉縄と腰越の行政センターは廃止するということですね。これも公共施設再編計画の方の課題だろうが当事者への影響は大きいと思う。</p> <p>④ 災害時：市民としての場</p> <p>そもそも鎌倉市は地勢的に分断されているので、大船や鎌倉には災害対策拠点が必要です。災害時には交通通信手段が失われることを前提にして検討するべきです。</p>	<p>本庁舎の移転後の現在地の利活用については、『鎌倉市公的不動産利活用推進方針（平成 30 年 3 月に策定）』において、利活用の基本方針を「市民サービスの提供・公共施設再編と民間機能の導入による賑わいや憩いの創出」と定め、これを実現していくため、令和元年度にから、その基本構想の策定に着手していきます。今後も、周知に取り組むとともに市民の皆さまのご意見を伺いつつ、より具体的に検討していきます。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、誤記を修正しました（P. 41）。</p>
66	66	第 3 章 本庁舎のあるべき姿（基本理念） 3-1 本庁舎等整	<p>鎌倉地区の住民から多数の反対を受けている以上、コストパフォーマンスも重要ですが、100 年後も市内外の人々、また、世界にも誇れる計画および結果が必要であると考えます。これからのまちづくり、人づくりはすべて 視点を地球環境の健全化にマインドをシフトした生活を基盤とする教育が重要になってきます。50 年で消費してしまうまちづくりや区画整備では、この先の人口構成の偏り、気象変動や災害に対応できないと考えます。箱物デザイン、インテリア重視ではなく、本庁舎機能を各地区に分散し、本庁舎周辺と JR の土地も含め、今後どのように市民と共同で多様に利用できるか（災害時仮設住宅設置等）、次世代のため、余裕「空」を残すかが重要</p>	<p>いただいたご意見を参考に、まちづくりや鎌倉の将来を見据えて、今後、基本計画を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		備の位置 と深沢地 域拠点整 備の概要	<p>と考えます。官民が社会貢献として協力し合える「空間」となるよう、例えば一般社団法人 GBJ が提唱する環境アセスメント LEED や WELL、その他の認証を得るなど、官民企三位一体で作り上げるウェルネスな拠点整備を実現していただきたい。</p> <p>また、マインドフル シティ 鎌倉の一員として、深沢の富士の景色、夜空の星を奪うことなく、近隣公園との バッファーエリアを利用として、多世代交流が有機的に楽しめる、土、水、植物（農作・園芸）、動物飼育など 癒しの活動をウェルネスシティの象徴として本庁舎の福祉的機能として建築設計に組み込んでいただきたいと思います。</p> <p>また、本庁舎設計建築に関して、鎌倉にご縁のある人たちの参画が重要になると考えます。設計士、建築家、ランドスケープアーキテクト、職人、歴史家、子ども含む市民が参加し、建物だけでなく、鎌倉の歴史、深沢の緑地帯と景観を重視した健康的な風景の一部として、利用者のための本庁舎を建設していただくことを強く提案します。そのために優秀なプロジェクトマネージャーが必須と考えます。</p>	(前ページの続き)
67	88	頁 5-6	<p>2) 本庁舎整備とまちづくり</p> <p>②本庁舎等や深沢地域整備事業（行政施設用地）と周辺の関係</p> <p>に、5つの項目が列挙されていますが、6つ目の項目として「まちづくりと一体化した、再生可能エネルギーと停電対応型ガスコージェネレーションシステムを組み合わせたエネルギー供給システム（スマートエネルギーネットワーク）」を追記するべきだと考えます。</p>	今後、基本計画を策定していく中で、いただいたご意見を参考に、具体的な検討を進めていきます。
68	93		<p>## 3. 鎌倉拠点と大船拠点の内容検討について（5章）</p> <p>鎌倉市の今回の本庁舎の整備計画は、深沢・鎌倉・大船の3拠点を不可分に一体のものとして整備を進める計画だと理解している。どの地域も遅れることなく同時期に整備されることを期待するとともに、3地域それぞれの検討状況や整備状況を市民が知り安心できるためにも、今後発行される本庁舎整備に関わる文書において、今回の5章のような「まちづくり」に関する章は必ず入れてほしい。</p>	本庁舎の整備により、市民サービスの低下を招かぬよう、基本方針「⑤市民に寄り添った対応ができる本庁舎」(P.14)を踏まえ、地域のまちづくりとの連携を考慮しながら進めていきます。また、『鎌倉市公共施設再編計画(平成27年3月策定)』では、各地域の支所にある地域活動支援機能

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				<p>を地域拠点校に、戸籍等証明書の交付やその他の窓口機能は本庁舎などに集約することとしており、すでに一部の証明書（住民票と印鑑登録証明書の写し）については、コンビニエンスストアでの交付に取り組んでいます。行政サービス機能は、新たな本庁舎のほか、大船地域や鎌倉地域の現在地で確保していきます（第5章）。</p> <p>本庁舎の整備に当たっては、引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いながら、取り組んでいきます。</p>
69	102	5-5	<p>本庁舎等整理とまちづくり</p> <p>三つの拠点を中心としたまちづくりでは、鎌倉・大船・深沢の3つが中心になっていますが、腰越・玉縄においても今までの住民サービスが低下することのないように望みます。3-3にある市民のための本庁舎を目指すという理念が、どこに住む住民であっても質的に保証されるようにしてほしいです。特に学習センター交流の場、図書館機能などの文化的要素は、地域住民の身近なところであってこそ心豊かな生活につながっていくと考えます。（今のところ地域拠点校の具体的なイメージがつかめません。）</p>	<p>本庁舎の整備により、市民サービスの低下を招かぬよう、基本方針「⑤市民に寄り添った対応ができる本庁舎」（P.14）を踏まえ、地域のまちづくりとの連携を考慮しながら進めていきます。また、『鎌倉市公共施設再編計画（平成27年3月策定）』では、各地域の支所にある地域活動支援機能</p>
70	119	4-1 より 5-18まで	<p>5-1</p> <p>市の構造からみる三つの拠点の役割</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>三つの拠点として深沢、大船、鎌倉があげられているが、腰越や津、七里ガ浜、鎌倉山、手広辺はどうなるのでしょうか。市民向け体育館、水泳プール、遊び場なども現在少ない。</p>	<p>を地域拠点校に、戸籍等証明書の交付やその他の窓口機能は本庁舎などに集約することとしており、すでに一部の証明書（住民票と印鑑登録証明書の写し）については、コンビニエンスストアでの交付に取り組んでいます。行政サービス機能は、新たな本庁舎のほか、大船地域や鎌倉地域の現在地で確保していきます（第5章）。総合体育館を深沢地域整備事業用地に整備する予定です（P. 46～47）。</p> <p>（参考）地域拠点校とは、今後、市内の公共施設の老朽化が進む一方、人口減少や厳しい財政状況が見込まれ、現存する全ての公共施設を維持・更新していくことが困難な中で、サービス内容は維持しつつ、施設の整備や維持にかかるコストを削減するため、これまでは目的や対象者ごとに整備されていた公共施設（例：子育て関連施設、高齢者福祉施設、社会教育関連施設）を、地域の拠点とな</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				る学校施設の大規模改修や建替え時に、多世代が多目的に利用できる多世代交流スペースとして機能を集約、複合化していくものです。
71	111		<p>コンパクトな新庁舎を目指すのであれば、新庁舎周辺の”まちづくり”まで必要なのか疑問に思います。</p> <p>特に、「鎌倉市本庁舎等整備基本構想（素案）」のP.5-5 拠点の視点とコンセプトの「深沢拠点」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住みたいまち鎌倉を実現する新しいライフスタイルの提案ができる拠点 ○鎌倉に住み、鎌倉で働くというライフスタイルを支えられる拠点 ○新たなライフスタイルの発信 ○拠点間ネットワーク形成と相乗効果 <p>の「住みたいまち鎌倉を実現する新しいライフスタイル」が必要なのでしょうか。鎌倉市内外の多くの人が「鎌倉に住む」と聞いてイメージするのは、都心にもそこそこ近い、自然豊か（＝海と山のある）で歴史が息づく街で暮らすというライフスタイルではないのでしょうか。また、観光地であるが故に、物や人が集まり新しい何かがあるということが魅力だと思います。それが十分な「鎌倉」スタイルだと思うので、深沢地区に新たなライフスタイルの提案が必要なのか疑問に思います。</p>	<p>深沢を鎌倉、大船に次ぐ新しい第三の拠点（『鎌倉市都市マスタープラン』）としています。その中での本庁舎の役割や本庁舎が深沢地域整備事業用地内にあることを前提に深沢拠点としてのあり方等を整理しているものです。</p>

○ アクセス・交通網・道路整備

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
72	4		<p>深沢への移転は賛成です。</p> <p>現庁舎の老朽化、災害対策などを考慮すると、遅いくらいです。</p> <p>跡地の利用に関しても、鎌倉ブランドの向上には良いと思います。</p> <p>深沢へ移転に対しての課題は道路整備だと思います。</p> <p>周辺は今でも混雑が見られるので、市有地の有効活用で庁舎利用者の滞留が発生しないように考慮してください。</p>	<p>深沢地域整備事業に伴う周辺道路の整備により、地域の安全性、利便性、快適性、防災性などの機能向上を図ることを考えています (P. 51～52)。</p>
73	19		<p>本庁舎を深沢地域に移転するにあたって、鎌倉市全体の問題ではあるのですが、一番懸念されるのは渋滞などの交通問題であると思います。天神下交差点から、深沢、西鎌倉地区に至る道は片側一車線ずつであり、通勤時帰宅時には現在でも渋滞等が慢性的に起こっています。本庁の移転により、深沢駅前の道路が今より増して渋滞してしまうと、市民の生活に大きな支障をきたすのを懸念しております。</p>	
74	13		<p>●市役所& 3 拠点アクセス用の交通網及び道路の整備</p> <p>⑤ JR 鎌倉駅、大船駅を始発の路線バスが、市役所エントランスに横付けできるバス停留所を設置</p> <p>深沢は、公共交通機関がバス及び湘南モノレールに限られるうえ、周囲の道路事情も劣っている。市役所利用者の便を図る施策を期待する。また、谷戸に囲まれた住宅地からのアクセスを強化するために、桔梗山循環のようなミニバスの運行を働きかけることも考慮されたい。</p> <p>⑦ 市役所予定地周辺の道路拡張と新設</p> <p>市役所にアクセスする道路は、柏尾川に沿った道路、柏尾川から湘南深澤駅に放水路沿いの道路、モノレール下の旧観光道路であり、バス路線としても使われているが、全ての道路は幅員が小さく、特に通勤時間帯は電機会社員の通勤車両で渋滞する。旧国鉄大船工場への引き込み鉄道線路跡地等の利用を含めて、アクセス道路の拡張整備の必要が感じられる。</p>	<p>本庁舎へのアクセスについては、バスルートの確保や湘南モノレール湘南深沢駅からのルート等、今後、検討していきます (P. 57～58)。また、周辺道路の整備により、地域の安全性、利便性、快適性、防災性などの機能向上を図ることを考えています (P. 51～52)。更に、自動運転やオンデマンドなどの新しい技術の導入等も視野に入れながら担当部署と連携して考えていきます。</p>
75	26		<p>2. 深沢へのアクセスについて</p> <p>新庁舎を深沢に移転し大船、玉縄、深沢、鎌倉の分散は自然災害への危機管理の観点からも賛成</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>します。しかし深沢のアクセスが本当に心配です。鎌倉地区から行く場合について考えても、深沢までの道路事情+駐車場、バスの頻度、モノレールの不便さ（大船に出ないとだめ）、を考えると「市民に寄り添った対応が出来る本庁舎」が鎌倉地区住民にも当てはまるのか？現時点では全く疑問です。一方で更に多額の投資をされると言われている JR 村岡駅新設もチグハグさを感じます。</p> <p>アクセスに関する更に納得のいく計画案を示してください。</p>	(前ページの続き)
76	112	5-11~18	<p>「5-3 広域交通ネットワークの形成と本庁舎へのアクセス」については、「市役所職員の通勤をさばけるか」という視点と周辺交通への影響の検証に重きを置いているように見えるが、市民が市内各所から本庁舎にアクセスする負担の軽減についての更なる検討が必要である。</p>	
77	118		<p>構想案では新庁舎及び新駅への具体的な交通手段についての記載が無かったので、近隣に住む身としては詳しく知ってきたいです。</p> <p>これから高齢となる立場ですので地域で孤立しないようになってくれるのを期待しています。</p>	
78	24		<p>④新庁舎とモノレールの深沢駅とは、ペDESTリアンブリッジで直結する。</p> <p>⑥道路アクセスを整備する。特に、長谷や腰越方面からの。また、旧国鉄の引き込み線の活用及びモノレール下の道路の拡幅整備も検討する。</p>	<p>湘南モノレール湘南深沢駅から本庁舎へのアクセスについては、今後、基本計画を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。また、深沢地域整備事業に伴う周辺道路の整備により、地域の安全性、利便性、快適性、防災性などの機能向上を図ることを考えています (P. 51~52)。</p>
79	28	<p>本編 5-17① 参考資料 後半 参 5-4</p>	<p>湘南モノレールの本数を増やしていただけるように検討して下さい。</p> <p>開庁時間は同じなので、時差通勤は解決案として採用できないのではないですか。</p>	<p>本庁舎へのアクセスについては、バスルートの確保や湘南モノレール湘南深沢駅からのルート等、今後、検討していきます (P. 57~58)。更に、自動運転やオンデ</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
80	76	第5章 本庁舎等 整備とま ちづくり 5-11~15 深沢地域 へのアク セスを含 む交通手 段につい て	3. 職員の通勤は、時間差などの対応で検討しているが、1200人を超える方々が勤務時間に間に合うように出勤できるのか、疑問が残る。職員・利用者を含めせめて送迎バスの対応などの検討も必要ではないか。結果、コスト面で考えても交通手段が深沢への移転で問題がある。	マンドなどの新しい技術の導入等も視野に入れながら担当部署と連携して考えていきます。 なお、他自治体においてフレックスタイム制度の導入や試行が見られるとともに、本市でもワークライフバランス推進の観点での取組で、夏期に時差通勤の試行を行っていることから、時差通勤を検討することは可能であると考えています。
81	39		6 職員が深沢に勤務することに交通問題が言われてますが何を考えているかです。 ※民間であれば鎌倉から工場を閉鎖して例えば川崎に移るとすると、当然東京方面に満員電車にのらなければならないが雇用されてる以上拒否はできない。通勤に時間がかかる場合は近くの工場に移動させます。	深沢地域整備事業用地への移転に当たっては、深沢地域整備事業に関する既往調査の交通推計（各街区の想定される土地利用による発生交通量を想定した推計）に、更に本庁舎が移転した場合の想定交通量を上乘せして周辺箇所の混雑や渋滞に対する検証を行い、概ね問題はないという結果を得ています。また、本庁舎へのバスルートの確保や周辺道路の整備等について、今後、具体的な検討を進めていきます。 今後、基本計画を策定する際に、いただいたご意見を参考にい
82	109	(参考資料-後半) 参 5-3	(参考資料-後半) 参 5-3 第5章 本庁舎等整備とまちづくり 5-2 深沢地域整備事業用地（行政施設用地）における本庁舎移転による周辺交通への影響 1) 市役所の職員の通勤による交通機関の利用者数の想定 表 市役所職員の主たる通勤手段のシミュレート ・駅前立地している職場でこんなに車通勤を許しているというのは、一般の会社だったら考えられません。	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				たします。
83	42		<p>第5章の3、広域交通ネットワークと本庁舎へのアクセスの(3)本庁舎へのアクセスに関して、現在、路線バスにおける深沢地域へのアクセスにあつては、深沢界限に似たバス停名や、同一個所にありながらバス事業者により異なる名称の停留所があるなど、不慣れな利用者、来街者にとって大変解り難い状態である。なおかつモノレール駅との交通結節機能が果たされていない。新しい本庁舎の整備にあつては、最寄りの駅、バス停の名称については市民のみならず市外からの来街者が容易に認識することができるよう交通結節機能を強化するとともに、誰もがわかりやすい駅・停留所名称(例：鎌倉市役所・総合体育館前)に変更すること及び駅、バス停名称変更に係る費用助成の仕組みも併せて創設するなど来街者のわかりやすさを第一に考えた具体化策について検討すること。</p>	<p>来庁者の利便性を確保するため、本庁舎と各地域を結ぶ路線バスのネットワーク強化の検討を進めます(P.57～58)。</p> <p>駅や停留所の名称変更については、今後、交通事業者と協議していきます。</p>
84	45	5-17	<p>現在、鎌倉駅付近から新庁舎予定地付近へ移動するためのバス路線としては、江ノ電バス 鎌倉駅～藤沢駅 間の系統と、京浜急行バス 鎌倉駅～大船駅 間の系統が挙げられます。</p> <p>ともに若宮大路と長谷・鎌倉大仏付近を經由して、やや南側に迂回した運行ルートが設定されているため、運行時間が長めにかかり、JR線・モノレール乗継ぎの場合と所要時間が殆ど変わらないことがあり、加えて観光繁忙期には、道路混雑による著しい運行遅延も発生するかと思います。そのため、鎌倉地域周辺から庁舎へのアクセス性が悪化することがないよう、主要観光地を避けた、市庁舎アクセス用バス路線が設定されていた方がいいと思います。</p> <p>また、現在のバス路線図は系統が複雑で難解なため、どのバスが市庁舎付近に向かうのかを理解しやすいようにする工夫が必要かと思います。</p>	
85	48	5-13以降	<p>新庁舎および消防本部、周辺に体育館、住宅施設、業務施設、商業施設など街づくりとして考えるのであれば、現在の交通状況での検証では意味をなさないように感じます。</p> <p>また新駅からのアクセスだけでなく鎌倉駅方面からのアクセスの改善も検討して頂きたい。</p> <p>そもそも深沢地区移転が前提なのではないでしょうか？</p> <p>防災や街づくりを優先とした整備計画で有ればもっと検討して頂きたい課題が有ると存じます。</p> <p>現状の鎌倉駅周辺の混雑を考え、狭い道路の車両の一方通行化など検討課題が有ると思われます。</p>	<p>本庁舎の整備にあつては、「①現在地での建替え、②現在の本庁舎の長寿命化、③移転して整備」の3パターンについて、比較し、建物の床面積や、高さに関する法的制限、防災面、まちづくりの視点などから総合的に判断し</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
86	76	第5章 本庁舎等 整備とま ちづくり 5-11~15 深沢地域 へのアク セスを含 む交通手 段につい て	2. 市役所利用者の交通手段に関して、既成のバスと湘南モノレールを想定しているが、高齢化が進む中で高齢者や障がい者が利用しやすいとは考えにくい。自家用車で行かれない障がい者や運転免許証を返上した高齢者はどうするのか、具体的な手立てが見えない。	た結果、「③移転して整備する」こととし（『鎌倉市本庁舎整備方針（平成29年3月策定）』）、その移転先について、「①敷地は原則として市有地であること、②床面積25,000㎡~30,000㎡の本庁舎が整備できる土地の面積を有すること、③整備方針の基本的な考え方（安全性・利便性・経済性・まちづくり）にそぐうこと」などを条件に検討した結果、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）とした経緯があります（『鎌倉市公的不動産利活用推進方針（平成30年3月策定）』（P.2~5）。 深沢地域整備事業用地への移転に当たっては、深沢地域整備事業に関する既往調査の交通推計（各街区の想定される土地利用による発生交通量を想定した推計）に、更に本庁舎が移転した場合の想定交通量を上乘せして周辺箇所の混雑や渋滞に対する検証を行い、概ね問題はないという結果を得ています。また、本庁舎へのバスルートの確保や周辺道

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				<p>路の整備等について、今後、具体的な検討を進めていきます。</p> <p>なお、鎌倉駅周辺の混雑に関するご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>
87	61	5-11	<p>広域交通ネットワークの形成と本庁舎へのアクセス</p> <p>3) 本庁舎へのアクセス</p> <p>旧鎌倉から深沢へのアクセスについて述べる。私は旧鎌倉の東部に住んでいるが、10年以上市民活動の拠点が高沢にあったので高沢についても熟知している。自宅から JR 鎌倉駅までバス、鎌倉駅東口から江ノ電バスで高沢下車が交通費最少。ただし、昼間は大仏前交通渋滞のため所要時間が不明なので、時間厳守の場合は鎌倉駅から大船駅まで JR でゆき、モノレールで高沢までゆくこともあった。自転車の場合は市役所通りが使えるので渋滞はない。ただし歩道はあるが狭く、車道の路肩（白線の外側）の舗装に不備があり、排水口のいわゆるグレーチングと路面間に段差があり、自転車通行は相当気をつかう。いずれにせよ、自宅からは30分ではむずかしい。なお、JR 鎌倉駅西口のミニバスは高沢まではゆかないので使えない。本庁舎が高沢にできた場合はミニバス路線を延伸するべき。広域交通ネットワークの検討も必要だろうが、その前に市内から市庁舎へのアクセスを検討するべき。</p>	<p>来庁者の利便性を確保するため、本庁舎と各地域を結ぶ路線バスのネットワーク強化の検討を進めます（P. 57～58）。</p> <p>現在の本庁舎は、すでに築50年が経過し、老朽化が進んでおり、防災拠点としての機能不十分、執務スペースの不足による市民サービスの低下などの現状を踏まえると、本庁舎の整備は、優先度の高い課題であると考えています。</p>
88	67		<p>2、ビジョンの5の市民に寄り添った対応が出来る本庁舎、ビジョンの6では誰もが利用しやすい本庁舎とありますが、市民が本庁舎を訪れようとする、バスとモノレールが高齢者や多くの市民にとっての足であり、現状よりは不便となる方が多くなるのではと民生委員をやっているのが特に気になります。高額を掛けて新しい駅を作るよりは本当に一番市民の為になる交通手段、例えば15分おきに現在の市庁舎と新しい本庁舎を結ぶバスの運行等を考えて頂きたいと思えます。市民の為と松尾さんはよく言われますが、何百億のお金を掛ける価値が本当に市民の為になるのかも一度確認をして頂きたいと思っています。</p> <p>以上</p>	
89	81	2-16	<p>本庁舎を外部からの支援を効率的に受け入れる高い受援力を有した設備とするためには、アクセ</p>	<p>道路整備については、隣接市と</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		3-8	<p>スルートとしての道路行政の見直しが必要である。現状では手広、山崎高架橋北（フラワーセンター）、深沢小学校入口、大船駅あたりは洪水・内水で通行不能になる可能性が高く、代替え路として藤沢市側から村岡新駅経由の新道が考えられる。また湘南鎌倉総合病院の拡充に伴って救急車の往来、この地区の火災時の消防車の往来を考えると、現状でも山崎高架橋および柏尾川沿いの道路はコーナンモール利用者の増加もあって渋滞が頻発しており、村岡新駅通過道路（藤沢市側から深沢側への高架橋）の必要性は高い。（5-2③にも関連）</p> <p>都市マス、SDGs 未来都市等であうたう研究・学園・観光都市としての基本方針に沿ったまちづくりのためには、従来住宅地としてしか認識されていない玉縄地区（鎌倉市交通マスタープラン）の役割拡大（病院、大規模モール、玉縄城址観光）に合わせた見直しが必要であり、本庁舎計画に合わせて藤沢市側を含めた広域行政として村岡新駅通過道路の重要性は高い。</p>	<p>の整合を図りつつ、本市の外周に骨格的な幹線道路（高速横浜環状南線、横浜藤沢線等）や、それらの道路に接続する幹線道路（県道304号腰越大船線や県道32号藤沢鎌倉線）の整備が行われることで、深沢地域整備事業区域と幹線道路へのアクセスの向上と円滑な交通処理につながり、更に、幹線道路を補完するラダー状（梯子状）の補助幹線道路を整備することにより、道路ネットワークが形成され、地域の安全性、利便性、快適性、防災性などの機能向上を図ります（P. 51～52）。</p> <p>また、路線バスについては、本庁舎と各地域を結ぶネットワーク強化の検討を進めます（P. 57～58）。</p>
	5-12	<p>骨格的な幹線道路の図で由比ヶ浜関谷線が要検討となっているが、都市マスキュープラン検討会ではこのルートはほぼ消滅している。一方で旧鎌倉と新鎌倉をつなぐ道路は藤沢鎌倉線の手広ー常盤口が慢性的渋滞になりつつあり、防災、救急車の通行にも問題が発生している。市役所移転で近隣の交差点よりもこの道路がさらに混雑が予想されるので、村岡新駅を経由する新道の開発、および由比ヶ浜関谷線B区間に代わる新道（例えば現行市庁舎から常盤口へ至る道路の途中からトンネルで西梶原へ出て、さらに深沢新庁舎へ繋ぐ）を真剣に考えてほしい。</p>		
	5-17②	<p>玉縄地区からの新本庁舎へのアクセスは、従来のバス路線とモノレールで大船駅を経由するルートのみで、時間的にも交通費でも現状よりかえって不便になる。路線バスの新ルート検討が必要である。</p>		
	5-17③	<p>玉縄地区から村岡新駅で東海道線を横切って深沢地区の新庁舎へ坐るバスルートが望まれるが、計画では大船駅と同様の歩行通路のみであるらしい。これでは玉縄から新駅へバスで出て、駅を歩いて渡り、再度新庁舎へ向かうバスに乗り換えることになり、乗り換えに30分以上かかることも予想される。旧武田薬品研究所を中心とする湘南ヘルスイノベーションパーク構想が進む中で、鎌倉市側と藤沢市側が陸橋で繋がり駅は橋上駅とすることが、鎌倉市深沢地区のこれからの発展に不可欠であるとともに、玉縄地区から新駅経由でバス1本で新庁舎へ行くルートを開発してほしい。</p>		

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
90	109	本編 5-15	<p>第5章 本庁舎等整備とまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・混雑度 0.33→0.52 というのは言い換えれば63%の増加です。現状を表す数値が0.33 だとして、該当交差点はかなりの頻度で車が詰まっていますスムーズに流れているとは思えません。 ・現在の本庁舎にない施設/機能も加わっていますので、現状の駐車場利用台数を基にしたのでは明らかに母数が足りません。 <p>本編 5-15</p> <p>5-3 広域交通ネットワークの形成と本庁舎へのアクセス</p> <p>2) 本庁舎整備に伴う周辺交差点への影響の検証</p> <p>④周辺交差点への影響の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深沢小学校入り口交差点の交差点を西方向から左折するトラフィック増加が0台で設定されているのはなぜですか？ 1台もないのは不自然に見えます。 	<p>基本構想における混雑度の算出は、職員数や来庁者数が同程度と想定した仮定での算出結果となっています。交差点の検証に当たっては、往來のルートとして幹線道路を利用すると仮定しており、南北方向に増分交通量を配分しています。現在の本庁舎にない施設や機能の導入に当たっては、周辺交差点の交差点需要率が限界需要率を下回るように規模の上限を設定していきます。</p>
91	115		<p>4. 市民目線で交通アクセスが充実していることを具体的に数字で示してほしい</p> <p>基本構想（素案）概要版のP.3に市民対話で出た意見として「交通アクセスを充実させてほしい」と記載があり、もちろんこの意見を踏まえた上で、大船駅でも鎌倉駅でもなく湘南深沢駅としたのではと理解しております。仮にそうではなく、用地選定など各種事情により、交通アクセスについては譲歩しているのであれば、「交通アクセスが充実している」ことを具体的に数字で示していただきたいです。</p> <p>例えば、駐車場の想定台数については、基本構想（素案）のP.5-14の[2]（○数字の2）に来庁者による影響の想定に記載があり、「現在の本庁舎の駐車場の平均利用台数」を元に検討を行った想定台数の記載がありますが、市役所が移転されるとしても各市民の住所は変わらないわけですから、市役所が移転されれば当然のごとく来庁者の交通手段も変動します。つまり、移転先での想定台数で検討し直す必要があると思います。「現在の本庁舎に誰がどの交通手段で来ているか分からない」「移転したとして交通手段がどのように変動するか分からない」というのはあまりにおざりな検討ではないでしょうか。</p> <p>また、公共交通機関（電車・バス）については「検討や取り組みを進める」との記載に留まって</p>	<p>来庁者の利便性を確保するため、本庁舎と各地域を結ぶ路線バスのネットワーク強化の検討を進めます（P.57～58）。</p> <p>新たな本庁舎に整備する駐車場の台数については、今後、基本計画を策定していく中で、具体的な検討を進めていきます。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>います。具体的に、現状と移転後で、どの方面からどの手段を使用した場合にどれだけ所要時間が「改善」するのか、具体例を挙げて数字で明示していただきたいです。具体的に「改善」を示せないのであれば、移転に伴ってマイナス面もあり、市民や職員の協力を仰ぐことになる旨を明記すべきではないでしょうか。すべてがメリットだけの案など存在しないと思います。</p> <p>上述の内容も踏まえ、「どこに移転するか」を検討する際、交通アクセスはいちばん重要な検討課題かと思いますが、他の内容に比べてページ数も少なく、最後に付け加えたような格好に見えます。より多角的な観点で深くご検討いただき、市民や職員が納得の行く情報公開をお願いいたします。</p>	(前ページの続き)
92	119	4-1 より 5-18 ま で	<p>鎌倉市の人口は一時より増加傾向を示していると思いますか？将来的にも人口増に成長して発展しない場合、200 億円近い公金の投入は庁舎建設に過大と思われる。観光客、ツーリストは多数の訪問があるにしても個々の市民の日常生活とへだたりのあるところの動きであり、一部道路、交通機関の大混雑、ふだんの生活に支障の生じないようにお願いしたい。</p>	<p>本庁舎の整備におけるコスト等については、令和元年度に事業手法の調査を行い、検討を深めていきます。引き続き、先進事例を研究し、本庁舎の整備に当たっては、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指します。</p> <p>また、本庁舎移転に伴う周辺箇所の混雑や渋滞に対する検証を行い、概ね問題はないという結果を得ています (P. 53～56、参考資料 P. 参 83) が、深沢地域整備事業に伴う周辺道路の整備により、地域の安全性、利便性、快適性、防災性などの機能向上を図ることを考えています (P. 51～52)。</p>

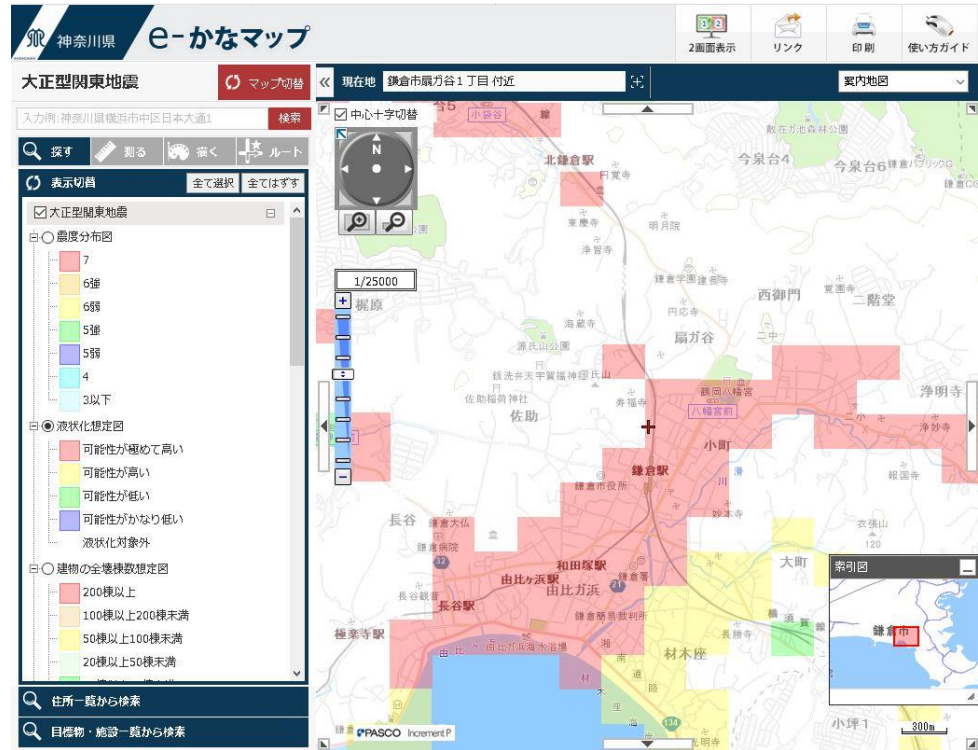
○ 災害対応

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
93	6		<p>災害物資の輸送は旧鎌倉では道路が少なすぎる。</p> <p>深沢であれば</p> <p>国道一号原宿から田谷→大船西口→深沢</p> <p>関谷インターから→大船西口→深沢</p> <p>横浜環状道路南線（仮称栄インター）から→大船西口→深沢</p> <p>藤沢橋から→渡内→深沢</p> <p>公田方面から→笠間十字路→大船東口→深沢</p> <p>戸塚西口から→田谷→大船西口→深沢</p> <p>戸塚東口から→笠間十字路→大船東口→深沢</p> <p>本郷台から→笠間十字路→大船東口→深沢</p> <p>藤沢北口から→武田経由→深沢</p> <p>救援物資は隣の市から物資が届きやすい。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、引き続き、本庁舎の整備に取り組んでいきます。</p>
94	13		<p>以下の2つ視点に絞って意見を具申します。すでに計画中有る内容も含まれていると思いますが、宜しくお願ひ致します。</p> <p>●市役所機能と危機管理体制の強化（3拠点を含む）</p> <p>① 市役所と消防本部の2つの危機管理拠点を分散する</p> <p>広域大規模災害発生時は、地元市役所職員及び消防職員も被災者である実態の中で対応することとなることを踏まえると、災害対応拠点を一か所に集中させることは適切ではない。特に深沢地域の建設用地は柏尾川流路に面しており、敷地の一部が浸水危険区域に含まれる立地であることを考慮すると、消防本部を同じ敷地内に設置することは再考の必要を感じる。危機管理は、『アッチがだめならコッチ』という2局化の思想が重要。消防施設を作るなら、出初式が挙行できる広さを持つ消防訓練施設を新築しては如何。</p> <p>② 現・総合防災部の人員増強による危機管理体制の強化</p> <p>鎌倉市の現在の災害発生直後の初期対応は、小中学校を避難拠点とする町会・自治会任せの自助体制で構築されている実態にある。また、配置されているMCA無線機は実質的に機能しておらず、</p>	<p>へりポートにつきましては、深沢地域整備事業用地内での設置について検討しています。</p> <p>消防本部機能につきましては、本庁舎と一体的に整備することで、発災時の災害対策本部としての機能強化を図ることを考えています。ただし、本庁舎の移転後の現在地において、災害時における市民や観光客の一時避難機能や、備蓄などのバックアップ機能、新たな本庁舎との連携した災害対策機能を配置することを考</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>緊急時の連絡手段も脆弱である。今回の市役所新庁舎整備を契機として、市として大規模災害発生時に対する危機管理体制の再構築を考慮されたい。</p> <p>③ 新市庁舎敷地内に、緊急発着用のヘリポートを併設する 敷地内の緑地、公園、広場用地は、緊急離発着用のヘリポートに利用できる機能を付加することを提案する。緊急に大病院での治療が必要な患者搬送をする拠点としても利用可能であり、救急車がヘリポートに横付けできる道路も設置すれば、災害時以外にも機能が利用できる。</p> <p>④ 災害拠点病院の指定または新設する 鎌倉市には災害拠点病院が存在しない。唯一その機能を持つ医療機関は湘南鎌倉総合病院のみであり、その他は隣接の横浜市内の医療機関、藤沢市民病院等の災害拠点病院に頼らざるを得ない実態にある。災害拠点病院の指定は、神奈川県の実策事業であるから、県に対するアプローチを含めた対応を求める。</p>	<p>えています。</p> <p>危機管理体制及び災害拠点病院に関するご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>
95	24		<p>2, 新庁舎について。</p> <p>①深沢の土地基盤を、柏尾川の最も厳しい氾濫想定(3m)以上にかさ上げする。</p>	<p>今後、基本計画を策定していく中で、いただいたご意見を参考に、具体的な検討を進めていきます。</p> <p>(参考) 深沢地域整備事業(土地区画整理事業)における造成の考え方は、年超過確率 1/100 の計画規模の降雨量を一つの基準とし、年超過確率 1/1000 の想定最大規模の降雨など、それを超える降雨に対しては、想定される浸水を十分に周知した上でソフト対策を図ってまいりたいと考えています。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
96	39		<p>3 (柏尾川) の氾濫予想であるが100年に一度の大雨になるとのことであるが、一階部分を駐車場にすれば問題はないのでは？現在の建築技術では地震に耐えるのでは？ (東京・横浜等で海岸を埋め立てたタワーマンションもあぶないですよ)</p> <p>地震は30年に70%起こる可能性があるとのことであるが・・・</p> <p>4 熊本地震・東日本大震災では災害ゴミが道路にあふれていた 道路の狭い鎌倉市内では復旧が妨げられる。火災でも起きたら消防車は身動きができない。</p> <p>5 北鎌倉前の道路と十二所の道路も旧鎌に入れたい。北鎌倉方面の道路に家屋が道路に倒れた場合は手作業で家屋を解体でしょう？ 復旧に時間がかかる。十二所は旧鎌が津波が襲えば道路の復旧は無理である。(ハイランド経由でも津波が襲えば復旧は無理) どうにか常盤口だけは使えるかな？</p>	<p>災害時に土砂災害が起こる可能性がある山に囲まれていることも踏まえ、基本構想の第5章で災害時の行政サービスとしての場について検討しています(P.42～43)。</p> <p>災害時に頼れる本庁舎の実現に向けて、今後、基本計画を策定していく中で、いただいたご意見を参考に、具体的な検討を進めていきます。</p>
97	42		<p>第5章の3、広域交通ネットワークと本庁舎へのアクセスの(3)本庁舎へのアクセスに関して、公共交通利用を促進している交通政策との整合性の観点からもモノレール湘南深沢駅にトイレ設備を設けるよう要請すること。</p> <p>本庁舎における夜間時間帯の災害対策並びに帰宅困難者等の避難に資するため、本庁舎のトイレは休日並びに夜間など執務スペースが閉鎖される時間帯であっても常時自由に利用できる構造とし、東日本大震災による停電時に混乱した反省を踏まえ、停電時にも使える水道管直結のトイレを複数設けること。</p>	<p>モノレールに関するご意見につきましては、湘南モノレール株式会社と協議してまいります。</p> <p>本庁舎における災害対応については、今後、基本計画を策定していく中で、いただいたご意見を参考に、具体的な検討を進めていきます。</p>
98	44	2-4～	<p>図が小さく、モノクロのため色分けが判らず、読み取れない部分が多いのが残念です。</p>	<p>配布資料はモノクロで印刷をしており、ご不便をおかけしました。市ホームページでは、カラー版を公開しています。</p>
99	61	1-1～1-7	<p>第1章 本庁舎の整備の必要性和これまでの経緯</p> <p>現在地への移転は昭和44年(1969年)だがその後50年で建て替えを余儀なくされている。当時も津波対策ということで御成の高台に移転した。諏訪池を埋め、諏訪神社を遷座し、御成中学校</p>	<p>本庁舎整備の検討に当たっては、これまで学識経験者等で構成する委員会を設置する条例の制</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		2-1	<p>を佐助の山に移転させた。考えてみれば大工事だったわけだが、市民間で異論はなかった。だから、落成式の日市役所の位置を定める条例の審議をしても何ら問題にならなかった。今回は異論が多数あるにもかかわらず、市議会にはかかることなく、つぎつぎと手続きを進めている。はなはだ遺憾である。</p> <p>災害リスクの再検証の背景</p> <p>「・・・災害リスクとして明示しませんでした。」これは問題です。行政は承知していたが、都合のよい部分をつなぎあわせて市民が納得しやすいように説明してきたということですね。しかも市民有志の指摘でようやく開示されたことです。</p>	<p>定や、必要な予算について、市議会の承認を得た上で行ってきています。また、その検討状況については、適宜、市議会に報告してきており、特に重要な政策決定である「移転して整備する方針」や「深沢地域整備事業用地を移転先とする方針」を決めた際には、全員協議会で報告を行うなど、段階的に取組を進めています。</p> <p>液状化に関する資料ですが、ご意見の中に添付していただいたものは、いずれもe-かなマップの「地震被害想定調査結果>大正型関東地震」の液状化の地図と思われる。今回の再検証は、e-かなマップの「防災と安全>地震災害危険度マップ」を基に行っています。</p> <p>土砂災害につきましては、『鎌倉市土砂災害ハザードマップ（平成24年2月鎌倉市）』を基に検証を行っており、ご意見のとおりと認識しています（P.25）。</p> <p>津波による浸水につきましては、『鎌倉市津波ハザードマップ</p>
		2-4	<p>現在地と深沢地域整備事業用地（深沢と略す）で想定される自然災害</p> <p>① 液状化</p> <p>現在地で液状化の可能性があるのは駐車場のあたりであり、そこは諏訪池のあったところなので当然でしょう。一方、深沢はモノレール側で最も標高の高い位置で山を削ったところなので液状化は考えにくい。泣塔の小山は中世からあったところなので安定し</p>	



整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>た地盤でしょう。(注) 窓口で入手した印刷物はカラーでないため判読困難。PDF 版を参照した。ところで、e-かなマップの最新版は下記 (前ページに掲載) のようになっている。(出典：神奈川県ホームページ)</p> <p>https://www2.wagmap.jp/pref-kanagawa/Map?mid=36&mpx=139.5375570869742&mpy=35.323952142628315&bsw=1032&bsh=801</p> <p>2019/05/15 画像キャプチャしたもの。赤色は「可能性が極めて高い」、黄色は「可能性が高い」、緑色は「可能性が低い」、紫色は「可能性がかなり低い」、無印は「液状化対象外」となっているが、素案の 2-4 頁では「高い」と「やや高い」「普通」「やや低い」「低い」になっている。e-かなマップの方が変更したのかもしれないが、精査してほしい。(出典：神奈川県ホームページ)</p>  <p>e-かなマップでは、深沢の整備用地は大部分が黄色「可能性が高い」、一部が赤色「可能性が極</p>	<p>(平成 25 年 3 月鎌倉市)』及び『神奈川県津波浸水想定図 (平成 27 年 3 月神奈川県)』を基に検証を行い、移転先において津波による浸水は想定されていません (P. 26～27)。また、鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会防災部会でも、河川遡上も含めて、危険性は非常に低いと判断されています。</p> <p>洪水による浸水につきましては、『鎌倉市洪水・内水ハザードマップ (平成 22 年 3 月鎌倉市)』及び『境川水系洪水浸水想定区域図 (平成 30 年 1 月神奈川県)』を基に検証を行い、移転先において計画規模では、浸水はないと想定され、想定最大規模では、敷地の大半で 0.5m 未満や 0.5m～3.0m 未満 (土地区画整理事業による造成後は 0m～1.5m 程度) の浸水が想定されています。(P. 28～29)。なお、想定最大規模の降雨があった場合も、浸水が広がるスピードは緩やかだと考えられ、浸水継続時間が 12 時間未満であることなど</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		2-6	<p>めて高い」であるが、素案の 2-4 頁では青色「やや高い？」がある。参照している版が異なるのかもしれないが差異があることを指摘しておく。</p> <p>② 土砂災害 現在地は御成山があり、土砂災害の危険性はあって当然です。</p>	<p>から、アクセスが確保できると考えています。また、ご意見の「館橋の少し下流で 90 度近く折れ曲がっているところ」付近については、家屋倒壊危険ゾーン（氾濫流）の指定もされていますが、深沢地域整備事業用地からは下流側であり、行政施設用地には、家屋倒壊危険ゾーン（氾濫流）の指定などは広がっていません。</p> <p>内水氾濫につきましては、『鎌倉市洪水・内水ハザードマップ（平成 22 年 3 月鎌倉市）』を基に検証を行い、現在地において想定していません（P. 30）。ただし、現在地の敷地付近（御成交番の北側）には内水氾濫浸水想定区域が存在します。なお、いただいたご意見を踏まえ、誤記を修正しました（P. 33）。</p> <p>これらの検証は、鎌倉市本庁舎等整備委員会や鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会防災部会の議論を踏まえて行ったもので、移転先と現在地の○×や定量的な比較は、同じ基準で</p>
		2-7	<p>③ 津波による浸水 深沢は津波被害の可能性は低いと思うが、境川水系柏尾川への津波遡上の可能性について県で検討していないと聞く。検討する予定があるのか、ないならばなぜそのような結論になったのかを明らかにすべき。東日本大地震では想定外の遡上があった。忘れるべきではない。</p>	
		2-9	<p>④ 洪水による浸水 私は 1970 年代に上町屋に職場があったので、2・3 年に一度は構内が水浸しになった経験を有する。その後柏尾川の大規模改修工事がなされ 1985 年頃以降はそれ以前のような浸水はなくなった。深沢についてもその名が示すとおり浸水地域である。本庁舎移転候補地は柏尾川からは 3 M 位高いので洪水になっても浸水しないかもしれない。ただし、陸の孤島のようになるので、アクセスをどうするかは課題として残る。柏尾川側の県道はつかえない。</p>	
		2-11	<p>⑤ 内水氾濫による浸水 現在地の一部が内水氾濫による浸水の可能性があるという議論は、駐輪場のあたりと思うが、ここは駐車場の標高まで嵩上げされており、浸水の可能性は低い。旧図書館のあたりは嵩上げされていないので例外である。なお、現在の庁舎を造ったとき、駐車場のあたりは諏訪池があったので、市役所通りより低かったと思う。しかし、嵩上げ後は内水氾濫による浸水はないでしょう。一方、深沢は柏尾川の水位があがって、新川に逆流すれば即浸水する。勿論、高台にある市庁舎予定地が浸水することは考えにくい。どうも、現在地は例外的な一部の浸水を問題にし、深沢は事業用地の大部分が浸水するにもかかわらず本庁舎予定地は大丈夫という説明であり不満である。</p>	
		2-14	<p>表 災害リスクの検証結果 現在地と深沢で結局どういう結論なのかがわからない。もう 1 列追加してみてもどうですか。貴方の言い分で評価してみました。深沢が優れているとき○印。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		2-15	<p>① 液状化 ○</p> <p>② 土砂災害 —</p> <p>③ 津波浸水 ○</p> <p>④ 洪水浸水 ×</p> <p>⑤ 内水氾濫浸水 —</p> <p>(注) ⑤の現在地欄の「・洪水による浸水は・・・」の部分は「・内水氾濫による浸水は・・・」の誤記と思われる。</p> <p>○と×を相殺すると○が1ヶ残るので深沢が有利ということになる。</p> <p>防災面から見た本庁舎等整備の考え方</p> <p>深沢には種々の対策をうつことが記載されている。それならば現在地もそれなりの対策をうった上で比較するべきではありませんか。</p> <p>2) 大規模降雨に伴って発生する災害リスクについて</p> <p>洪水時に堤防の決壊の可能性が低い理由として、掘り込み河道であると説明してあります。たしかに 1970 年代に実施された改修工事で掘り込みが行われました。ただし、新川の注ぎ口、すなわち古館橋の少し下流で 90 度近く折れ曲がっているところがあります。ここに流速の速い水流がぶつかると、側壁を破壊する恐れがあります。そうすると笛田リサイクルセンターの方へ溢水することになります。リスクはあると思います。</p>	比較できないものや土地区画整理事業の実施の有無などの差もある中、見送り、文章での表現としたものです。
100	88	頁 2-15	<p>『2-3 防災面から見た本庁舎整備の考え方』</p> <p>『1) 地震に伴って発生する災害リスクについて』</p> <p>に、「地震に伴って発生する災害としては、液状化・土砂災害・津波が考えられます」との記載がありますが、過去の震災での実態に鑑みて、地震に伴って発生する災害として、「停電や道路寸断等による、エネルギー供給途絶リスク」も追記すべきと考えます。</p> <p>とりわけ、「鎌倉市本庁舎等整備基本構想(素案)」では、本庁舎に導入する機能として「災害対策本部や防災倉庫のほか、復興を支援するボランティアの活動スペースや救援物資の受け入れスペース等の受援機能」(頁 3-9) などの機能が謳われているため、例えば震災の際に停電によって本庁舎が機能停止に陥ってしまい、「災害対策本部として鎌倉市全体を支援」(頁 5-4) し</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、表現を一部改め、業務継続に関する電源供給の多重化などのエネルギー対策について追記しました(P. 12)。</p> <p>今後、基本計画や基本設計を策定していく中で、いただいたご意見を参考に、具体的な検討を進めていきます。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		頁 3-10	<p>「市全域で被災者等への情報提供」(頁 5-4-) を行うことができなくなってしまうことは、最も危惧すべき事態の一つです。災害時の「市民の生命を守る前線基地」(頁 3-5) たる行政機能の停止は、①津波からの避難誘導の遅滞②倒壊した家屋等下敷きになった要救助者の救出の遅滞③避難所への食糧提供の遅滞につながり、死傷者数にも影響し得ます。</p> <p>以上の理由から、地震によるエネルギー供給途絶リスクは、記載すべき重大なリスクであると考えます。</p> <p>この「鎌倉市本庁舎等整備基本構想(素案)」では、本庁舎の6つの基本方針のうちの1つとして、「最小限の機能を備えコンパクトで効率的な本庁舎」(頁 3-6) が謳われており、その具体化として、「災害対策本部や防災倉庫のほか、復興を支援するボランティアの活動スペースや救援物資の受入れスペース等の受援機能も想定されますが、コンパクトで効率的な本庁舎を実現するため、受援機能のスペースを単独で設けるのではなく、平時にはフリースペース等のほかの機能の空間として活用するスペースを発災時に利用することの検討をします。」(頁 3-9) との記載があります。この考えに賛同いたします。</p> <p>その上で、この素案では、頁 3-10 に非常用電源の確保についても記載があり、頁参 3-8 にも「非常用発電機により 72 時間機能継続できる電力を確保」との記載がありますが、上記の基本方針に則るのであれば、この非常時の電源についても、「非常時にのみ使用することのできる非発」ではなく、「平時には通常の電源として活用され、かつ、発災時にも非常用の電源として安定的に継続して使用できる」ガスコージェネレーションシステム(CGS:熱電併給システム) が望ましいと考えるため、ご提案させていただきます。参考までに、防災機能を高め、BCP(業務継続計画) を向上させる手段として、「都市ガス中圧導管(以下、中圧導管)を活用したBOSSCGS(停電対応型ガスコージェネレーションシステム) や停電対応の電源自立空調システムの導入」について紹介させていただきます。本システムを導入することで、災害時にも電力・熱(冷暖房・給湯利用) 供給が可能となり、都市機能維持に大きく貢献できると考えます。さらに、中圧導管は、内閣の重要政策に関するRTニリー一つである中央防災会議の首都直下地震対策検討ワーキンググループ(「首都直下地震の被害想定と対策について(最終報告)平成25年12月) において、耐震性が高いことが認められています。</p>	(前ページの続き)

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		頁参 3-8	<p>「4）他都市における防災拠点機能の考え方」にて、「再生可能エネルギーとして、太陽光の利用も実施」との記載がありますが、この記載に加えて、「分散型電源（ガスコージェネレーションシステム）の利用」を追記すべきだと考えます。</p> <p>理由としては、</p> <p>① 発電出力が不安定な再生可能エネルギーの安定した利用などを図るため、ガスコージェネレーションシステムが導入される実績が増えてきており、かながわスマートエネルギー計画では、基本政策で再生可能エネルギーの導入とともに分散型電源の導入が併記されていること。</p> <p>② 建物のBCP（業務継続計画）向上を図るため、耐震性の高い中圧ガス配管を活用したBOSSCGS（停電対応型ガスコージェネレーションシステム）の導入実績も増えてきていることの2点があります。</p>	(前ページの続き)
101	93		<p>## 1. 災害リスクに関する資料の選択基準について (2-1)</p> <p>「2-1:災害リスクの再検証の背景」において、災害想定を選択について「リスクマネジメントの考え方」とあるが、これは内容が明確に定義されておらず恣意的に利用ができる言葉になっている。したがって「対策を講じることで安全性を確保することができることから、災害リスクとして明示しませんでした」という記述が当初の「災害リスク検証」では並存していた。おそらくその後の「災害リスク再検証」において、当初の「リスクマネジメントの考え方」は無効とし、かつ「対策を講じることで安全性を確保することができるものも災害リスクとして明示する」方針が変わったのだろうと素案からは読み取れる。しかし「検証時に参照する災害リスクに関する資料の選択基準」が変わったのであれば、検証の根幹に関わることなので、資料選択のその新たな基準を記載すべきではないか。</p>	資料に関しては、現時点における行政施設用地及び現在地に関する市及び神奈川県が公表したもののうち、現在有効であるものを揃えました。なお、それぞれの公表時期等を明示するとともに、図の中で、関係性を示しています。
102	97	2-2	e-かなマップ、平成30年の最新のものを掲示していない。→再度、正確・最新のデータを示すべき？	e-かなマップについて、現時点で公表されているデータを使用しています。
		2-4	深沢の液状化について、泣塔付近、1ヶ所しか調査していないのですか？昔から危険と小学校でも教えてきた場所なので、厳密に調べるべき。大雑把な報告は×。泣塔は重文。周囲の環境保全は必須です。	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				や基本設計を策定していく中で、詳細に行っていきます。
103	104	第2章より 頁2-4	<p>液状化の想定について</p> <p>1. ボーリング調査結果について、現在地と深沢用地を同一観点から複数のゼネコンと複数の大学から3+6=9点について地盤評価を先ず求め、比較するべきである。</p> <p>2. 深沢用地については、たとえ市庁舎が災害を受けなかったとしても近隣が被災すれば支障は大。</p>	<p>今後、基本計画や基本詳細を策定していく中で、詳細な地盤（ボーリング）調査を行う予定であり、現時点では既存の地盤（ボーリング）調査を参考にすることが適当です。また、本市ではどの場所においても災害リスクが全くない場所は存在しないことから、総合的に判断していくことが重要です。</p>
104	105		<p>・津波による浸水については、当初現在地は浸水が想定されていたが平成30年の県の境川水系洪水想定区域図では逆に深沢地区の方が浸水想定が高く、現在地はその恐れはないとわかり驚きました。ところが、造成や外構工事で浸水対策により安全確保されるので、災害リスクとして明示せず、検証に用いた資料からも、この平成30年版県の想定図は入っていません、古い平成27年版のものが使われています。意図的に排除されているのでは？</p>	<p>基本構想の策定に当たっては、現時点で最新の情報による災害リスクの再検証を行っています（第3章（再検証に用いた資料についてはP.21））。</p>
105	109	本編2-9	<p>第2章 災害リスクの再検証と本庁舎等整 本編2-9</p> <p>2-2 現在地と深沢地域整備事業用地（行政施設用地）で想定される自然災害</p> <p>・④洪水による浸水</p> <p>表 洪水による浸水の想定（滑川水系滑川浸水想定区域図・境川水系洪水浸水想定区域図） 右側：深沢地域整備事業用地（行政施設用地）</p> <p>想定最大規模の「24時間積算雨量632mm」の説明として、「（大半の河川で年超過確率1/1,000程度を上回る設定の降雨）」と記載すると、「年超過確率1/1,000程度を上回る設定」が24時間積算雨量632mmの導出根拠であると誤読してしまいますので、修正願います。県が公表(*1)して</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、前提となる降雨の説明を表中ではなく、欄外の注釈に記載するとともに、説明を追加しました（P.28）。</p> <p>再検証での津波による浸水については、『鎌倉市津波ハザードマップ（平成25年3月鎌倉市）』と『神奈川県津波浸水想定図（平成</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		本編 2-14	<p>いますように「それぞれの地域において過去に観測された最大の降雨量」と記載するのが間違いがないと存じます。そもそも、県が「想定最大規模」に対し「年超過確率 1/1,000」と言う表現を使わない説明を行っているのに、なぜ「年超過確率 1/1,000 程度を上回る」に変換するのでしょうか？(市は何度も指摘されているはずです。)</p> <p>*1 http://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4i/cnt/f3747/documents/837792.pdf</p> <p>本編 2-14 表 災害リスクの検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・③津波による浸水 <p>【鎌倉市津波ハザードマップの浸水想定】</p> <p>鎌倉市津波ハザードマップが基にした平成 24 年の情報は、平成 27 年の津波浸水予測図に比べシミュレーションの精度が低いです。特に七里ヶ浜や稲村ヶ崎等の狭い範囲を津波が駆け上がっていくような個所でかなり差分が出ています。両者は全く異なる条件・論理で行われたシミュレーションという訳ではないので、平成 27 年の【神奈川県津波浸水想定図の浸水想定】をより精度の高い、最新の知見として受け入れるべきです。</p>	27 年 3 月神奈川県』を用いています。
106	115		<p>6. 災害リスクについて再考いただきたい</p> <p>基本構想(素案)の「2-3 防災面から見た本庁舎等整備の考え方」を一読させていただき、ざっくりまとめると「津波で甚大な被害が考えられる現在の本庁舎よりは洪水である程度の被害に抑えられる深沢の方がリスクが低い」と読み取りました。</p> <p>その考え方を否定するつもりはありませんが、全般的に「自然災害が発生する可能性が低い」と断定する記載が見受けられます。また、鎌倉市の基準のみで議論しており、神奈川県であったり、もしくは第三者の民間機関など様々な基準が検討に含まれていないように見受けられます。自然災害についてはどれだけ対策を取っても万全には成り得ないという考え方に立っていただき、リスクと対策のバランスをどこで取るのか、そのバランスを取ったことで、どこまでは防げてどこからはどのような影響が出るのかを再考していただきたいです。</p> <p>市役所移転の最重要課題である「防災拠点としての脆弱性」に「移転して整備する」ことで取り組んでいくわけですから、基本構想(素案)の段階で何かを断定できるというのは検討が不足し</p>	災害リスクの整理については、発災の可能性を断定するものではなく、神奈川県の想定データも踏まえて被災時のより確実な安全性の確保の観点から検証を行っています。

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			ていることの表れだと思ひます。建物の設計や敷地内の立地など、最後の最後まで災害リスク対策は随所まで反映していくべきと考えます。	(前ページの続き)
107	119	2-1 より 2-16 ま で 3-1 より 3-11 ま で 5-17	<p>天災あるいは自然災害と言われる地震、大雨、台風等は時として人々の予想をしない場所、時をもって襲って来ます。地形上、鎌倉は土砂災害も考えられますが、裏山がいつ崩れるか予想したいこともあるようです。多くの人は日々せわしく忙しく働いているのです。津波浸水の海岸沿いの腰越地区、神戸川周辺などは、今回の構想と無関係です。鎌倉と深沢を対比検討されていますが、どれ程の現実的な意味があるかよく分かりません。地震の発生や地殻変動についてもまだまだ未知の部分が多いと聞きます。時と共に改善、進歩があると信じたいのですが、忘れた頃にやってくる天災が、どうか、分かりません。</p> <p>庁舎の基本的理念は賛成ですが、防災時対応も含めれば、それぞれの地域の従来庁舎も活用する必要があり、なぜならば天災がどの地域に、全市的に壊滅するのか、限定的なのか、深沢の拠点、本庁舎と云って、徒歩で行けないこともありうる。そうした場合、これまでの支所機能を整備、充実させることも必要でないだろうか。深沢に庁舎を建設するも良いが、市内の各所の庁舎が防災的には一個所潰れても、他が機能出来るような、分散的に考えるのは、どうでしょうか。現在においても、腰越行政センターから深沢ないし鎌倉へ出向くのは負担感があり、行政サービスが腰越を窓口にしてすべて用が足りるようになればと思う。議会、議場のスペースをとるにしても、質素で良いのではないか。そのほうが一般市民から敬意を受けると思う。</p> <p>5-17 JR や藤沢市と協議中の村岡新駅(仮称)の実現性がいかほどか、よくわかりません。柏尾川は昔日はたびたび氾濫を生じていましたが、治水が将来にわたって不安がないのでしょうか。用地造成の際に整備するとありますが・・・</p>	<p>全市的な防災対策に関するご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p> <p>本庁舎における各執務室等のスペースについては、今後、基本計画や基本設計を策定していく中で、いただいたご意見を参考に、具体的な検討を進めていきます。</p> <p>洪水による浸水については、土地区画整理事業で行う造成や、建設時の外構工事により対策を講じることで、安全性の確保ができます。今後、基本計画や基本設計を策定していく中で、より具体的に対策を検討します。</p>

○ 本庁舎の移転後の現在地の利活用

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
108	14		<p>②現市庁舎の跡地利用を至急に具体的に提示して、市民サービスの低下がない事、又跡地利用が魅力的である事を市民に強く広報して下さい。</p> <p>以上</p>	<p>本庁舎の移転後の現在地の利活用については、令和元年度からその基本構想の策定に着手する予定です。現在地については、本庁舎移転後も一定の行政サービスが維持できるように、窓口機能を設置する予定のほか、公共施設再編計画の実現や民間機能の導入などにより、賑わいの創出や憩いの場の整備を目指します。</p> <p>本庁舎の整備とあわせて、現在地の利活用の取組についても、周知に努めます。</p>
109	18		<p>3. 現庁舎の跡地利用について</p> <p>高齢者のための施設ではなく子供のための施設を作して下さい。具体的には御成中学校を跡地に再建して下さい。</p> <p>現庁舎の場所は元々御成中学校の有った場所です。御成中学校の現校舎は、昔立ち退きのため、現市庁舎の少し前に建てられました。</p> <p>従って市庁舎同様老朽化が進んでいます。駅近くに素敵な御成中学校ができれば、入学目指して学区内に引っ越して来られる方も増えると思います。</p> <p>毎日中学校に通う教職員・生徒・関係者数千人の事を優先して考えて下さい。年に数回市役所に足を運ぶ人の都合など後回しで良いです。</p> <p>今後25年で私ども団塊の世代は死に絶え、高齢化率は天井を打ちます。その後は高齢者施設が余って困るようになります。そのようなものを作らないで下さい。</p> <p>以上</p>	<p>本庁舎の移転後の現在地の利活用については、『鎌倉市公的不動産利活用推進方針（平成30年3月に策定）』において、利活用の基本方針を「市民サービスの提供・公共施設再編と民間機能の導入による賑わいや憩いの創出」と定め、これを実現していくため、令和元年度から、その基本構想の策定に着手していきます。今後も、周知に取り組むとともに市民の皆さんのご意見を伺いながら、</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				より具体的な現在地の利活用に 関し、検討していきます。
110	19		次に、鎌倉市は5つの地域がありますが、その中心となっているのが鎌倉地域と大船地域であり、その2つの行政機関、大船行政センター、現鎌倉市役所の本庁舎移転に伴う今後の活用ですが、具体的にどのようなになるのか市民に届いていないのが現状です。官民連携と記載がありますが、民間と連携することで、何が変わり変わらないのか、その点をはっきりしていないと思います。個人的には、民間との連携する際、子ども、またそのご家族、保育関連の施設に関連するような連携を取れたらいいなと思っています。また、鎌倉地域の市民からは、本庁舎移転して鎌倉体育館まで移転したら、深沢までは体育館は通わないかなという声も事実聞いております。そうした声も踏まえて具体的に体育館をどうする、跡地はどうするなどしっかりと市民に説明してほしいと思います。	本庁舎の整備に当たっては、引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いながら、取り組んでいきます
111	21		(2) 現在地の利用 鎌倉駅周辺に、一息つく場所がありません。木陰でお弁当が食べれる屋外空間があると良いと思います。そこに手洗い、オムツ交換ができる場所は必須です。 子育て中の30代の子供夫婦が(市街から)遊びに来ますが、「鎌倉はオムツ換えのスペースがない」とぼやいています。	本庁舎の移転後の現在地の利活用については、令和元年度からその基本構想の策定に着手する予定です。いただいたご意見を参考にいたします。
112	24		3、現庁舎跡地について。 ①土地は定期賃貸借(50年 or 60年)とし、建物は民間企業に建築、運営してもらおう。これは、社会の変遷が激しいので、50or60年後の次世代に活用の選択肢を残しておくため。 ②必要な公共部分(支所、図書館、保育園、児童の学習センター、鎌倉学習センター等)は民間企業からリースバックで賃借する。)・・2, 3階 ③1階は民間の店舗等に賃貸し、鎌倉駅東口の活性化につなげる。 ④屋上は、周辺市民や観光客への津波発生時の避難場所とし、鎌倉のランドマーク化し宣伝する。可能ならば、屋上から裏山への「避難橋」も検討する。 ⑤少ない資金で、収入も考えた低コスト運営をし、かつ時代の変遷による次世代の選択肢も残すようにすると良いではありませんか。	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			以上、将来を見据えた計画、実行を速やかに推進して、平塚市役所や茅ヶ崎市役所、藤沢市役所との「遅れ」を取り戻すことを切にお願いします。	(前ページの続き)
113	26		<p>4. 鎌倉への産業呼び込みについて</p> <p>観光資源、住環境の良さに加え、過去の大船地区に多くあった製造業拠点の魅力から、近年には鎌倉地区でさえ IT 産業や住みながらリモートオフィスへの対応などいわゆるサービス産業の魅力も出ているように聞いています。このような産業は過去の三菱電機、資生堂といった大企業ではなく、小さいながらネットワークでつながる小型な知的サービス産業であり、鎌倉はその集積地として可能性が大きいと思います。そこで働く人たちはダイバーシティが当たり前、家族を大事にし、自然の環境に恵まれたところで働くことに生きがいをもつ筈です。それには鎌倉はピッタリな場を提供できるはずです。本庁舎、現庁舎はそれらの「元気いっぱい、国籍性別関係のない」人達が気持ちよく働き、市民と溶け込みあう場として是非提供して頂きたいと思います。</p>	<p>本庁舎の移転後の現在地の利活用については、令和元年度からその基本構想の策定に着手する予定です。いただいたご意見を参考にいたします。</p>
114	32		<p>市役所本庁舎の深沢地区への移転に賛同します。</p> <p>個人的に現庁舎の抱える問題、課題をクリアするには、移転するのが最善の策と思われるからです。</p> <p>一方で、現庁舎の跡地をどう利用するかについては、新庁舎を深沢へ移転させることと同じぐらい、具体的、かつ詳細にご説明いただくことを希望します。</p> <p>各種事務作業を深沢で行うことに何ら問題はないですが、現庁舎のロケーションはまさに古都鎌倉の薫り高き、市民が利用するには格好の、唯一無比の自治スペースだと思われれます。</p> <p>そこに、鎌倉市民が誇れるような公的自治スペースをいったい、どんな内容で作るのかを、茫漠とした抽象的な内容でなく、より具体的なリアルなイメージを提示することで、新庁舎の深沢移転を軸とした整備事業は多くの賛同を得て成就すると考えます。</p> <p>新庁舎の深沢移転と現庁舎跡地利用は、まさにこの大プロジェクトの両輪をなすものとして、どうか整備を行っていただくよう希望します。</p>	<p>本庁舎の移転後の現在地の利活用については、令和元年度からその基本構想の策定に着手する予定です。</p> <p>本庁舎の整備と現在地の利活用を並行して進めていくことを示すため、整備スケジュールについて、現在地の利活用のスケジュールとその他のスケジュールを追加しました (P. 60)。</p> <p>本庁舎の整備とあわせて、現在地の利活用についても、その取組を市民の皆さんに知っていただけるよう、周知に努めます。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
115	39		2 一般市民の市役所へ訪れる階は圧倒的に一階が多いのでそのセクションは残ればよい。	本庁舎の移転後の現在地の利活用については、令和元年度からその基本構想の策定に着手する予定です。現在地については、本庁舎移転後も一定の行政サービスが維持できるように、窓口機能を設置する予定のほか、公共施設再編計画の実現や民間機能の導入などにより、賑わいの創出や憩いの場の整備を目指します。
116	59		本題ですが、仮に深沢に移転したとして、現市役所跡地の活用について、以前広報かまくらで観光誘致の大型バスの駐車場などと記載されていたと思いますが、絶対にやめて下さい。佐助に住んでおりますが、観光客の増加に伴い、交通渋滞・交通安全・騒音・観光ゴミ・不審者などで日々暮らしに不安があります。これ以上観光客が増えたら生活が今以上に脅かされます。観光客が増えても何の得もしない市民がいることをどうか忘れないで下さい。	平成 30 年度に行った市民対話拡張ワークショップにおいて、バス駐車スペースという意見があったものです。 本庁舎の移転後の現在地の利活用については、『鎌倉市公的不動産利活用推進方針（平成 30 年 3 月に策定）』において、利活用の基本方針を「市民サービスの提供・公共施設再編と民間機能の導入による賑わいや憩いの創出」と定め、これを実現していくため、令和元年度から、その基本構想の策定に着手していきます。
117	61	5-8	現在地におけるまちづくり 現在地については、1階を民間に貸し出し、2階を行政センター、3階・4階に図書館・社協・	本庁舎の移転後の跡地に関しては、利活用の基本方針はあるも

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>きらら・NPO センター等を集約するという考えだろうがせめて床面積だけでも集計してみせてほしい。きららのホールなど作れますか？</p>	<p>のの、現在の建物を残すのか、新しく建設するのかについて、現時点では決定しておりません。現在地の利活用については、令和元年度からその基本構想の策定に着手する予定です。</p>
118	74		<p>現本庁舎跡地には、緑豊かな公園を造って欲しい。 鎌倉には、子供を安心して遊ばせられる場所、訪れた観光客がホッと一息着く場所が身近にありません。 郊外にある鎌倉より代々木公園、井の頭公園など都内の方がかえって充実しています。 無駄な「箱物」は最小限にし、樹木、芝生に覆われた広い空間。 このような場所があれば鎌倉の魅力も増すのではないのでしょうか。 「箱物」は基本いりません。深沢に足を運べば良いのです。 ニューヨークのセントラルパークのように市の「顔」となるような魅力的な場所を望みます。</p>	<p>本庁舎の移転後の現在地の利活用については、令和元年度からその基本構想の策定に着手する予定です。いただいたご意見を参考にいたします。</p>
119	104	第1章より 頁1-1 以降	<p>1. 耐震工事を重ねる事により、必要な強度を確保する。 2. 地下室の浸水対策として自家発電などの施設を地上化する 3. 施設を取り壊すのではなく図書館や生涯学習センターに再利用を考えるのであれば、上記の手入は欠かせないのではなからうか？</p>	<p>本庁舎の移転後の跡地に関しては、利活用の基本方針はあるものの、現在の建物を残すのか、新しく建設するのかについて、現時点では決定しておりません。いただいたご意見は、令和元年度から検討を開始する跡地の基本構想策定の際に、参考にいたします。</p>
120	107	5-9、5-10	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館について、現在地での図書館に中央図書館機能をもたせることはスペース的に不可能。若し移転するのであれば、深沢の本庁舎あるいは隣接地に中央図書館、公文書館、議会図書室機能を設置するのがふさわしい。 ・現在地駐車場スペースは、今小路西遺跡の発掘調査そして、遺跡公園として活用することがふ 	<p>現在の中央図書館の床面積は約 2,600 m²で、現在の本庁舎の床面積は約 12,000 m²あります。このことから、現在地で図書館機能</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			さわしい。	のスペースを確保することは可能です。また、現在地の利活用については、平成 30 年 3 月に策定した『鎌倉市公的不動産利活用推進方針』において、利活用の基本方針を「市民サービスの提供・公共施設再編と民間機能の導入による賑わいや憩いの創出」と定め、これを実現していくため、令和元年度から、その基本構想の策定に着手していきます。
121	112	3-4~7	<p>そもそも、深沢での整備が予定される本庁舎は、市役所として求められる機能をフルスペックで装備すべきなのだろうか。</p> <p>深沢と御成現在地に庁舎として 2 カ所設けることは、行政効率からして望ましいものではない。しかし、たとえ JR 東海道線の新駅をつくっても、深沢行政施設用地の交通アクセスが不便であることには変わりはなく、本庁舎は深沢に整備するとしても、市民活動や市民交流の全市的な拠点は、御成現在地にこそ整備されるべきである。</p> <p>基本方針として 6 項目があがっているが、「⑤市民に寄り添った対応ができる本庁舎」における「市民の学びや集い、交流」等については、御成現在地を全市的な拠点とし、深沢に整備する本庁舎においては、地域拠点の規模に留めるか、1 階ロビーの活用・フリースペースの活用ということを行えばよいと考える。</p> <p>「③鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを生かせる本庁舎」についても同様で、「本市固有の自然や歴史といった要素を尊重し、それらを感じられるような配慮や空間の創出」は、御成現在地の施設整備においてこそ配慮すべきものであり、深沢においては③への配慮のために経費をかけることなく、②の「コンパクトで効率的な本庁舎」、④の「民間資金を呼び込む本庁舎」に徹することが合理的である。</p>	<p>基本方針については、市民対話等で出たご意見を踏まえ、本庁舎として整備する建物に重要な要素を掲げています。</p> <p>本庁舎の移転後の現在地については、鎌倉拠点としての役割を示しており (P. 45)、平成 30 年 3 月に策定した『鎌倉市公的不動産利活用推進方針 (平成 30 年 3 月策定)』でその利活用の基本方針を「市民サービスの提供・公共施設再編と民間機能の導入による賑わいや憩いの創出」と定め、これを実現していくため、令和元年度から、その基本構想の策定に着</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		5-8~10	<p>「深沢で整備する本庁舎に、市役所として求められる機能をフルスペックで装備する必要はない」ということは、すなわち、御成現在地に整備する施設と併せて考えた方が良く、ということである。本庁舎整備基本構想と御成現在地の基本構想は、同時並行で検討されるべきだ。</p> <p>「3) 現在地におけるまちづくり」については、基本方針(3-2-2)のところで既に述べたとおり、御成現在地の整備構想を5-9 ページのようなイメージ図ではなく、より具体的な内容で示す必要があり、そのための十分な検討を行うべきである。また、現在地整備の基本構想の形成過程情報は、本件本庁舎等整備基本構想(素案)から基本構想へと策定を進めていく過程において、逐次勘案していくことが必要である。</p> <p>2018年10月実施の拡張ワークショップ第2部で現在地の利活用について話し合われた際、「基本方針に示している市民の相談・手続のための窓口や市民活動の拠点、シェアオフィスに代表される働く場などに関する意向は見られませんでした。一方、基本方針に示していない機能として、防災機能や観光機能などが挙げられました」とあるが、第2部の参加者は約20人に過ぎず、その約半分が市民対話の固定メンバーであった。今後、より広範な市民意見の聴取に努めるべきであると考えます。</p>	<p>手していきます。</p> <p>今後は、新庁舎と現在地の役割を明確にしながら、それぞれ連携を図り、より多くの市民の皆さんからのご意見をいただきつつ、事業を進めていきます。</p> <p>なお、本庁舎の整備と現在地の利活用を並行して進めていくことを示すため、整備スケジュールについて、現在地の利活用のスケジュールとその他のスケジュールを追加しました(P.60)。</p>

○ スケジュール

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
122	109	本編 6-2	<p>本編 6-2 第6章 今後の進め方 本編 6-2 整備の検討の進め方 2) 整備スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2028年度に「開庁予定」となっていますが、その前の「事業者工事」を2027年度末に余裕のある形で完了し、2028年度のはじめ(4月)から新庁舎での運用を開始するのでしょうか？それとも、2027年度末までを「事業者工事」期間とし、2028年度中に順次に引っ越しを行って運用に入るという事でしょうか？「開庁予定」が他の作業期間と同様に幅(1年間)を持って書かれている意味が分かりません。⇒図中で「運用開始」はどこに当たりますか？ ・市庁舎位置の変更に関する議会議決はどの工程間で行うのでしょうか？ 	<p>現時点では、令和10年度(2028年度)の開庁予定としていますが、具体的に何月に開庁するかを決定していません。</p> <p>本庁舎の位置を定める条例の制定について市議会に諮る時期は、基本計画や基本設計を策定していく中で、検討の進捗にあわせて議決を得ていきたいと考えています。</p>
123	123		もう少し工期を短く、早急に実現することを期待したい。	<p>本庁舎の整備スケジュールについては、深沢地域整備事業(土地区画整理事業)との連携を図り、令和10年度(2028年度)の開庁を目指し、着実に進めていきます。</p>

【事業の進め方に関する意見】

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
124	115		<p>2. 市民への情報公開方法について改善してほしい</p> <p>広報かまくらにて移転が決定したように掲載したことで反対署名を集める運動が起こり、8000名を超える署名が集まったことは、私と同じような思いを持つ方々の意思表示かと思えます。</p> <p>行政側目線では約17万人のうちの8000名と捉えられるかもしれませんが、一市民の目線では「鎌倉市役所移転問題をまだ認知していない市民も大勢いらっしゃるのではないか」と認識しております。</p> <p>これを基本構想（素案）のページに照らし合わせると、「1-2 これまでの検討経緯」で「移転して整備する」ことが既に決定事項として策定されていることが分かります。「移転して整備する」方針は、市民対話やパブリックコメントを何回も設け、年月をかけてまとめた、とのことですが、それが広報かまくらに掲載されたことで、これだけの反発があったということは市民全体のコンセンサスが取れておらず、少なからず行政側の進め方に不備があったのではないのでしょうか？</p> <p>広報かまくらの1面に掲載して問題となったことはむしろ良かったかもしれません。市役所の場所は市民生活に直接の影響を与えます。そのような内容については今後同様の対応をしていただけたらと思います。</p>	<p>本庁舎整備に向けた取組に当たり、これまで、市民対話、出前講座やふれあい地域懇談会、パブリックコメントなどの実施による市民の皆さんの意見収集や、委員会の公開、広報紙、市ホームページ、公共施設再編ニュースの発行などによる周知を図ってきたところです（P.2～5）。今回のパブリックコメントの実施に当たっては、従来の広報紙及び市ホームページの掲載に加え、公共施設再編ニュースの全戸配付やSNSを活用した情報発信による周知を図りました。本庁舎の整備に当たっては、引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いながら、取り組んでいきます。</p>
125	49	p 1-5	<p>移転の是非に関しては、素人が簡単に判断できませんが、市政eモニターアンケートやこのパブリックコメントの実施も、知らない市民の方が多いうのは問題です。数百万円もかければ告知は可能です。移転費用から捻出すべきです。予算配分の不透明さが、より移転反対という動きにつながっているという側面に気づいた方が、市長として徳だと思う。</p>	
126	65		<p>とても大きな事案の割に必要な情報の露出が少なすぎる。広報かまくらの使い方にも疑問がある。雑多で必要のない情報が多い。号外にしてでも、今回の移転については、もっと詳細を載せて、市民からの意見を得るべき。</p>	
127	106		<p>もっと多くの意見を取り入れて慎重な検討によって進めた方が良いと考えます。</p>	
128	76		<p>4. 総合的な意見</p> <p>これまで再編計画策定から満3年、全市民的な合意はできていないように思います。市民の意見</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			が賛否分かれているように感じ、もう少し時間をかけて市民等の意見を聞き、検討を重ねるよう にしていきたい。	(前ページの続き)
129	77		最後に、住民投票実施は見おくられましたが、市民からよせられる声、こういう文章を書く機会 のないまま、意見をよせられない住民の声をあつめ、ひとつひとつ検証し、誠実に回答する。と いうことをして下さい。多くの市民が知らないまま、ことをすすめないで下さい。各自治会に説 明にまわるとい覚悟を持ってとりくんで下さい。 第1章で、あたかもたくさん通知したかのように書かれていますが、周囲で知っている人はわず かです。全市民がかかわることです。より一層の努力をのぞみます。 ↓参考文献(序盤で述べていたカタカナ語について) 井上ひさし 「日本語観察ノート」より抜 粋(8枚)	
130	90		「パブリックコメント」を募集して市民の意見を聞くという手続きは踏んだとして、深沢移転を 既成化しようとするのでしょうか、これほどの問題ならば「住民投票」を実施すべきであり、議 会で否決したことに怒りを感じている市民は大勢います。 「鎌倉のブランド力向上」には笑いました。庁舎整備とは関係ないし、鎌倉のネームバリューは 現状でも十分で、こんなくだらない見栄は市民として恥ずかしいです。	
131	97	6-1	出前講座、一度出席したが、10名ぐらいしか参加者がいなかった。800名に説明したなんて全然 ダメ。もっと慎重に話を進めて、次の市長まで先延ばししてほしい。それから、多額の税金を使 うのだから、住民投票は是非すべきだと思う(周知してもらうためにも)。	
132	100		2018年5月1日号広報かまくらで深沢への本庁舎移転が決定したとあり驚きました。今回の(事 案)で市は2014年から準備をし、パブリックコメント、結論ありきのための市民対話を行い、移 転へ向けた手続きを進めてきたという事実がただ判明したということです。 2018年の市民対話では、今回の移転を初めて知った市民達が異を唱えると意見も取り上げられず そのうち参加しなくなりました。せっかく参加を希望したのに整備委員会へはこのような状態は 報告されず、市の方針に合う意見ばかりです。(事案)は市民の意見が充分とは言えない。 移転を一般市民にきちんと理解してもらいたいなら、正しい情報を市が出しそれに基づいて検討 し今一度立ち止まって、一般市民の声を聴くべきです。	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			議事録、傍聴 等より	(前ページの続き)
133	102	6-1	これまでも市民対話はなされてきた経緯はありますが、参加者数などまだ不十分です。この問題が市民の関心、周知の点で課題が多いと思われます。もっと市民の声に耳を傾けて計画を進めていただくことを要望します。昨年の住民投票の結果は、単に深沢移転に賛成反対ではなく、市の進め方についての是非の意志表示も含まれていると推察しています。	
134	25		[提案] ①反対の署名運動がありましたが、それを行政はどう捉えているのか疑問に思っています。もし「深沢移転」を進めるのであればその前に住民投票で民意を確かめてください。	本庁舎の整備に当たっては、「①現在地での建替え、②現在の本庁舎の長寿命化、③移転して整備」の3パターンについて比較し、建物の床面積や、高さに関する法的制限、防災面、まちづくりの視点などから総合的に判断した結果、「③移転して整備することとし(『鎌倉市本庁舎整備方針(平成29年3月策定)』)、その移転先について、「①敷地は原則として市有地であること、②床面積25,000㎡~30,000㎡の本庁舎が整備できる土地の面積を有すること、③整備方針の基本的な考え方(安全性・利便性・経済性・まちづくり)にそぐうこと」などを条件に検討した結果、深沢地域整備事業用地(行政施設用地)とした経緯があります(『鎌倉市公的不動産利活用推進方針(平成30
135	34		住民投票で民意を確かめるべきです。	
136	61	6-1	市民との対話や意向の把握 今回素案が提示されたので、ようやく議論ができる段階になった。一方では行政計画としては決定だと広報されている。パブリックコメントにしても、素案に対するものだし、また、いかなるコメントも一連の手続きの一環でしかない。その無力感はどこからくるのだろうか。「鎌倉市の市役所は旧鎌倉にあるべきだ」という主張と「鎌倉市の市役所は人口中心(の近く)にあるべきだ」という主張は両立しない。宅地開発の結果、人口に関するかぎり、旧鎌倉は少数派であり、今後も変化しないであろう。市長にせよ、議会の多数派にせよ、支持基盤は旧鎌倉ではない。最大多数の最大幸福を追求するのであれば、旧鎌倉は出番がない。もしも、鎌倉市役所を旧鎌倉におきたいなら旧鎌倉が独立宣言するしかない。	
137	3		市役所本庁舎を新築することに関しては、多くの方が賛同するところだと思う。しかし移転先の選定の仕方が、あまりにも乱暴ではなかったか? 選挙で民意を聴くこともなく、ワークショップやカフェでの市民対話も参加者数を考えると十分とは言えない。 個人的には移転にも反対はしないが、きちんと候補地を挙げて市民がその選定に参加できる形で行うべきではないか。深沢は土地があっても、アクセスが悪すぎる。道路も混雑し、JRの駅からも甚だ遠い。鎌倉地域の住人には大変行きづらく、時間もかかる場所である。そこに作るには事務センター程度で良かったと思う。	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>鎌倉は JR 横須賀線を拠点にまちが形成されている。深沢地域を開発することに異存はないが、本庁舎は鎌倉駅または大船駅から徒歩圏で車でも行きやすいところにするべきであろう。大船駅周辺には行政センターや資生堂跡地の一部、消防署など駅から近い場所もある。鎌倉も現在地での建て替え等、やりようは必ずである。そうした場所を候補に今一度入れて市民も参加できるやり方で先行するのが、フェアではないか。</p> <p>そういった意味で、最初から深沢ありきで、そこの災害の可能性（の低さ）を言い訳のように追加しただけの本構想は、公正さにも説得力にも欠けていると言わざるを得ない。</p>	<p>年 3 月策定』(P.2～5)。</p> <p>それぞれの検討過程において、市民対話、出前講座やふれあい地域懇談会、パブリックコメントなどの実施による市民の皆さんのご意見の収集、委員会の公開、広報紙や市ホームページ、公共施設再編計画ニュースの発行などによる周知に努めてきました。</p> <p>本庁舎の整備に当たっては、引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いながら、取り組んでいきます。</p>
138	36		<p>まず第一に、鎌倉市役所が鎌倉市の中心にないことへの違和感があります。なぜ、現在地での津波対策をした市役所のためかえを考えないのでしょうか。移転して豪華な市庁舎を作ることと建て替えとの費用の比較、天災時の被災者の救済を考えると現地での建て替えの方が意味があると思います。また、この意見募集方法にしても意図的に出しにくくしていると思えます。深沢の土地も川の氾濫危険地であり、差が不透明です。広報も全く不十分！</p> <p>とにかく、住民投票で賛否を問うべきです。こんなこと勝手に市民不在で決めることは許されません。</p>	
139	112	1-6, 7 2-15, 16	<p>本庁舎等整備委員会では「本庁舎のあるべき姿(基本理念)」について、市民対話では「本庁舎のありたい姿」について話し合わせ、後者を前者に反映させるということであった。しかし、市民対話については 30 人のメンバーの参加をもって多様な意見の吸い上げになったとは言えず、逆に固定メンバーで対話を重ねたことで、関心に特定の方向性が生じた可能性もある(拡張ワークショップも、2 部構成の延べ参加者数 44 名にとどまった)。また、整備委員会においては、委員の中で話し合うべきことや議論の方向性の共有化ができないで終わった印象を持っている。検討体制としては、十分であったとは言えない。</p> <p>「防災面から見た本庁舎等整備の考え方」の記載内容は、概ね納得するところである。</p> <p>しかし、市民から深沢地域整備事業用地の災害リスクへの大きな懸念を寄せられたことを受けて「災害危険性の検証」を行った第 3 回、4 回整備委員会、及び(所管は異なるが)深沢地区まち</p>	<p>一昨年に実施した人数の倍となる 2,000 名(無作為抽出)の市民の方々の希望者を募り、開催した市民対話については、固定の参加者で複数回実施することで、より深く対話を重ねて行うということに重きを置くとともに、公募による参加者を交えて拡張ワークショップを開催し、固定の参加者以外のご意見も伺ってきまし</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			づくり方針実現検討委員会防災部会においては、防災一般論や既存データの確認にとどまらず、深沢地域整備事業用地の現地の状況・特性を踏まえた検証と、市民から寄せられている懸念への説明責任を果たす議論が行われるべきではなかったか。	た。アンケートの調査結果や委員会の検討状況を共有するなどの検討体制を進めており、これらのご意見について委員会で議論し、基本理念や基本方針をまとめてきています。
140	83	1-5	<p>「鎌倉市本庁舎等整備基本構想」(以下「素案」という)は、次の9点(もう7点は、<i>整理番号182参照</i>)から問題があり、撤回を申し入れる次第である。</p> <p>(1) 検討の経緯が市民合意ではないこと。</p> <p>市は「市民対話」を重ねてきたと素案に記しているが、市民は、無作為に抽出した有志にすぎず、広く市民の意見を聞いたとは、言い難い。素案には拡張ワークショップで広く公募市民の意見も聞いたと書いているが、私自身このワークショップに参加したものの、「移転反対」を意見表明したところ、会場から排除された経緯がある。とてもさまざまな意見を聞いたとは言いがたい。</p> <p>私たちは、本庁舎整備(移転)を問う住民投票の実施を呼びかけ署名を集めた。住民投票条例制定の直接請求だったが、1カ月の期間に8270名の署名を有権者から集めることができた。本庁舎整備に疑問の市民がそれだけ多いという実態をこの直接請求は示していると考え。民意は本庁舎整備(移転)反対を表明しているのである。</p> <p>(2) 市議会の合意形成もなされていないこと。</p> <p>本来本庁舎整備(移転)は議会の議論を経て行われるべきである。しかし、鎌倉市議会では、特別委員会等を設置してこの問題を議論したことが一切ない。</p> <p>地方自治法第4条に定める庁舎位置条例の決議もまだなされていない。今回の素案は一人歩きしている感が強い。</p>	<p>本庁舎整備に向けた取組に当たり、これまで、市民対話、出前講座やふれあい地域懇談会、パブリックコメントなどの実施による市民の皆さんの意見収集や、委員会の公開、広報紙、市ホームページ、公共施設再編ニュースの発行などによる周知を図ってきたところ(P.2~5)。</p> <p>また、これまで学識経験者等で構成する委員会を設置する条例の制定や、必要な予算について、市議会の承認を得た上で行ってきています。更に、その検討状況については、適宜、市議会に報告してきており、特に重要な政策決定である「移転して整備する方針」や「深沢地域整備事業用地を移転先とする方針」を決めた際には、全員協議会で報告を行いました。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				<p>た。</p> <p>本庁舎の位置を定める条例の制定について市議会に諮る時期は、基本計画や基本設計を策定していく中で、検討の進捗にあわせて議決を得ていきたいと考えています。</p>
141	85		<p>人口減少が見込まれる中、現在鎌倉市の広報・鎌倉市公共施設再編計画NEWSで示されている内容では言葉が主体で、本庁舎の新規建設の基準・前提となる条件がわかりません。</p> <p>以下について今後広報で発表して市民がわかりやすいように数値・前提の公表をして“見える化”を進めて頂きたいと思います。</p> <p>1、2028年開庁目標とのことですが、市会議員のちらしに市民人口の将来予測について2030年11.5万人、50年9.5万人と記述があります。新庁舎建設に際して前提としている人口動態の公表、人口減少によるサービス対象となる市民の減少、AIの普及による窓口業務の大幅減少などを加味した必要とされる市職員数を明確にして市庁舎の必要面積を公開する。(コンパクトの根拠を見える化)</p> <p>2、前提となる人口減少予測による市の歳入・歳出見通しを2030年、35年、40年、45年と年度別に明確にし、市庁舎移転を行った際の財政健全性の公表。</p> <p>3、市役所深沢移転に際して本庁舎建設費用と周辺整備費用の個別開示。</p> <p>4、新市庁舎への公共交通アクセス評価と対策・費用の公表。</p> <p>藤沢市の新駅誘致・費用を鎌倉市が負担することも表明しており、市庁舎の移転を含めて鎌倉市の財政健全性を危惧します。</p> <p>また、新庁舎開庁2028年の前提で、それまでの9年間現行市庁舎に震度6以上でも機能する災害本部のスペース確保が求められる。その対策はどうなっているのでしょうか？災害は開庁を待ってはくれません。その間の防災対策を含めて”災害に強い鎌倉”に向けての政策を同時に開示して頂きたいと思います。</p>	<p>床面積については、25,000㎡を目標(上限)としますが、今後、基本計画を策定していく中で、来庁者の利便性向上や職員の作業の効率化などを考慮し、将来を見据えた適正規模の更なる検討を進めていきます。</p> <p>現在の本庁舎における防災対策に関するご意見につきましては、担当部署と情報共有いたします。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
142	103	第1章	<p>① 鎌倉市としては 100 年に一度の一大計画だが予算規模提案や財源提案もともに提案があつてしかるべき。第4章規模やコストをじっくり読んだが、納得できない。財源は？市民サービスの低下？減額？子孫へのつけ？新駅構想含め膨大と考える。是非、パブコメをHPに掲載されるとき、回答をいただきたい。ここの記載では収まらない付随したものが必要。跡地活用、関連公共施設など同時進行の予算計上でなければ、全容に異議ありとなったら、ここの実行だけ先行もおかしなこと。鎌倉市まちづくりの全容が必要です、</p> <p>② これまでパブコメに応じて担当課が回答を行うHPを見ると、市提案に応じた回答ばかりで、市民の不当賛同が得られなく、次第に世論は無関心層が増加する・現にしている。市提案の意に沿わないものに対してきちんと反論されて公表されれば、議論が深まるのでは？</p> <p>③ 今回もまた、パブコメ後、何通集まった報告で終わりにならないように願う。それには、パブコメに出された意見に寄り沿い、気持ちが通じる市政であってほしい。市提案のどの部分の提案を変えたか、具体的に見えることを望む。</p> <p>④ 市民憲章に基づいて、市民が自由闊達に意見を出しているのを、以上のような受け止めがなければ、パブコメ数も減るのではないかと、現状を危惧する。</p> <p>⑤ 出された市の資料を読むと、深沢は液状化なし、津波の心配もない、浸水の問題は、市役所建設地に工事をすれば大丈夫、しかし、現在地は津波浸水、液状化あり危険など、市民の認識と乖離しているのではないかと。事実と、何故違うことが延々と述べられているのか、不思議だ。</p> <p>⑥ 大自然災害、激震が起きた時、市役所が果たす役割、市民対応などが、災害列島 1995 年～2018 年までの体験と教訓が、実際のものから離れているのではないかと。この企画を作った中枢に、災害体験者が何人いるのだろうか。ボランティアに行った、災害地の講演を聞いた、文書を読んだ方と、実際経験した者との意識には大きなずれがある。外部から援助の手が伸びるまでの時間帯に起きた事実、生き残った被災者の教訓の神髄がある。——ことをご存知でしょうか。</p> <p>⑦ JR 新駅構想をドッキングさせても、鎌倉市の交通網の中心に深沢はならず、無駄支出権化。</p> <p>① 本庁舎の整備が必要なことは、だれも異論はない。</p> <p>② それなのに、なぜ市が示されるこのような案に対して異論が出て日に日に高くなるのか。理由は次の通りです。市はどんどん進めることで後悔を子孫に残す。そんなに急がず、じっくり大</p>	<p>本庁舎整備に当たっては、これまで段階を踏んで進め、その過程においては、市民対話、出前講座やふれあい地域懇談会、パブリックコメントなどの実施による市民の皆さんの意見収集や、委員会の公開、広報紙、市ホームページ、公共施設再編ニュースの発行などによる周知を図ってきたことをご理解願います (P. 2～5)。</p> <p>深沢地域整備事業用地 (行政施設用地) で想定される自然災害については、第3章に記載のとおり、敷地の一部で液状化の危険度が高いことや、想定最大規模の降雨では洪水による浸水が想定されるという結果を出した上で、業務継続性や防災拠点としての安全性の確保を念頭に置き、その対応策を検討しています。(P. 34～35)</p> <p>引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いなが</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		むすび	<p>方の市民が賛同できる官民一体の街づくりをしていただくことを望む。</p> <p>③ ここで立ち止まって再出発をする勇気を持ってほしい。</p> <p>④ 立ち止まってすべき最初のスタートは、100年先を見通して「どんな鎌倉の街づくりが良いか」を、鎌倉、大船、玉縄、深沢、腰越地域にボトムアップで市民の声を百出していく機会を市民とともに創る勇気を持ってほしい。そこから市と市民の協働できる方向が出てくる。</p> <p>担当者は種類と数字を上げそれは今までやったと説明に書いてあるが、市民の心に響かない。</p> <p>⑤ 今のやり方はトップダウン方式で、多くの市民の声が反映されていない。イラストを出しても「どんな鎌倉の街づくりが良いか」の声が市民から出たものでなく上の説明を聞く機会だ、</p> <p>⑥ 市民を主体者にして、「100年先を見通してどんな鎌倉にしたいか」聞いたことがあるだろうか。</p> <p>5地域の共通項目と、その地域独特の要求を掴めば、鎌倉、大船、玉縄、深沢、腰越地域で市民の声は、百出しまとめていけば、合意が作り易い。</p> <p>今は、トップダウン方式で僅かな人を町内会が集め市長対話をした回数や、市が抽出した集まりなど、地域とは無関係の計画となって、無気力なつぶやきが地域を覆い、今日を迎えている。</p> <p>急がば回れ—市民が集まり、言いたがる会合を、声集めを大胆にやり直すにはテーマが市民の要求から出発し、計画に収斂する力量が市の担当者に求められている。多くの市民は「市民の声が反映されていない。市民要求が担当者の説明に感じられない」と、感じている。</p> <p>イラストを出してもほとんどの市民が乗ってこない現実を直視すべき。ワークショップしかり。各地域の住民と無関係に事を進めている典型が、本庁舎等整備計画である。</p> <p>① 以上を置き去りにした今回の「基本構想」に市民の夢が膨らまないのはおわかりでしょうか。</p> <p>② 100年さき、鎌倉市民と市役所は実に『日本に、世界に誇る鎌倉を築いた』と尊敬される基本構想を、ここで立ち止まって作り直しましょう。2019年の歴史を協働で創りましょう。</p>	ら、取り組んでいきます。
143	121	5-5	<p>役所の方々のこの「視点とコンセプト」にかかわる意気込みは感じられましたが、きれいにまとまりすぎているとも思いました。</p> <p>「視点とコンセプト」に表された文言の裏付けが、どのように組み立てられて実行に移されて行くのか見えない。具体的な形、数字などが見える化されてくるのは先の事だと思うが。決定の数</p>	本庁舎の整備については、基本構想策定後、基本計画、基本設計を策定していきますが、いずれの検討過程においても、市民の皆さま

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>字を市民に出す前に、5-10にある市民の意向が、その数字にどのように反映されたものになっているのか、市民にチェックの機会がありますか。</p> <p>「大和のシリウス」は良いとは思わないが、他の市町に出かけるとできるだけ複合施設に足を運ぶことにしている。二宮町生涯学習センターラディアンは最近訪れた中ではよかった。</p> <p>私は、おそらく深沢本庁舎まで行く用事はないと思っています。「ビジョン6つの要素」に掲げた中身を執行するに際して、役所が絵空事に終わらせない取組をしてください。今こんなことをやっているという取り組みを見える形にしてください。現市役所のロビーに進行状況を貼りだすとか。具体的にわかるように知らせてください。</p> <p>今回、これからの鎌倉を担っていく若方々への発信はどのようにされましたか。30歳、40歳の数人はこのパブリックコメントを知りませんでした。仕事で忙しい人たちではありますが彼らに知ってもらう必要は大いにあります。スマホをほとんどの人が持っているでしょう。そこから何とかならなかったのでしょうか。かれらの税金を使ってやる事業でもあります。</p>	<p>んのご意見を伺い、市ホームページや広報紙などで周知を図りながら、取組を進めていきます。</p> <p>今回のパブリックコメントの実施に当たっては、従来の広報紙及び市ホームページの掲載に加え、公共施設再編ニュースの全戸配付やSNSを活用した情報発信による周知を図りました。</p> <p>本庁舎の整備に当たっては、引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いながら、取り組んでいきます。</p>
144	86		<p>(3) 計画の進め方</p> <p>1) 誰のための開発プロジェクトか？ 市長のためか？市議員のためか？市役所職員のためか？デベロッパーのためか？ゼネコンのためか？</p> <p>現段階ではごく一部の市民しか知らずに計画が進んでいる。このままでは市民のためのプロジェクトとは言えない。</p> <p>平成29年4月の市議会議員選挙の選挙公報を見ても、大多数の候補者はこのプロジェクトに触れていない。平成29年の市長選挙でもこれを前面にたてて戦ったとは言えない。これでは、市民の承認がないままに計画が進んでいると言わざるを得ない。そこで、市民の一部が住民投票条例の直接請求・したところ、市議会で否決されてしまった。これでは、市民の意見は計画に反映</p>	<p>本庁舎整備に当たり、これまで、市民対話、出前講座やふれあい地域懇談会、パブリックコメントなどの実施による市民の皆さんの意見収集や、委員会の公開、広報紙、市ホームページ、公共施設再編ニュースの発行などによる周知を図ってきたところ（P.2～5）。引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>されない。一時立ち止まるべきである。</p> <p>2) 計画手法</p> <p>計画の進め方に二つの方法がある。一つは現状の問題点を分析し、解決を考える進み方。第二は、目標を設定してそれを実現する道を探る進み方。両者共にあいまって、すぐれた計画ができる。現在の計画の進め方は、第一の進め方が不足しており、抽象的な、きれいな言葉が多く、数字が少ない。</p> <p>また、参加型開発という言葉がある。住民などステークホルダーが参加して計画を作り上げていく手法である。現在、市役所は市民に広報などで呼びかけ、ワークショップなどをやっていて歓迎するところであるが、第一の進め方が欠けており、地につかない、ふわふわした結果となっている。市全体でのワークショップもよいが、地区ごとに密度の濃い集会をより数多く開催すべきである。</p>	<p>かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いながら、取り組んでいきます。</p>
145	19		<p>また、深沢地域の新しいライフスタイルの形成ですが、深沢地域への本庁移転以外の具体的なビジョンも市民には理解把握出来てないと思われます。本庁舎移転と同時に、深沢地域をどのように再開発をしていくのか、交通事情も含め今一度、検討し市民に提示していただきたいと思います。</p> <p>最後になりますが、本庁舎移転にあたって住民投票条例案は否決されました。しかし言い換えれば、本庁舎再考してほしいという市民が条例案を出せるぐらいはいるということになります。本庁舎移転によって賛成反対はあると思いますし、市民の税金を投入することになるのかなと思います。できる限り双方が納得いく形で進んでほしいです。そのためには、鎌倉市公務員、またその事業に関わる方々の丁寧な説明が必要だと思います。観光都市ではありますが大切なのは市民です。市民がいなければ市は成り立ちません。そのような点も踏まえて移転構想に対し、検討して頂けたらと思います。よろしくお願いします。</p>	<p>深沢地域のまちづくりに関するご意見については、担当部署へ情報を提供いたします。</p> <p>本庁舎の整備に当たっては、引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いながら、取り組んでいきます。</p>
146	60	P 3 - 6	<p>私は、鎌倉市山崎から腰越に転居して39年になります。腰越行政センターは、支所としての機能のほか、学習センター・図書館があります。そのどれもが、市民としてなくてはならないものとして利用しています。</p> <p>本庁舎が移転した場合、腰越行政センターの建物や機能・規模・サービスはそのまま残るので</p>	<p>本庁舎の移転整備により、市民サービスの低下を招かぬよう、基本方針「⑤市民に寄り添った対応ができる本庁舎」(P.14)を踏ま</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>しょうか。「地域拠点校」と書かれている内容がどのようなものか、近所の人に聞いてもわかりません。もし、これまで行われていた行政サービスが縮小されるようでしたら困ります。こうしたことを住民に明らかにしないまま計画が進められているようでは、「住民無視」と言っても過言ではないように思います。</p> <p>ゴミの有料化の際には腰越地域でも説明会を行い、丁寧な説明がなされました。こうした取り組みを行い、市民の声を本庁舎移転問題にも反映させていただきたいです。これは、腰越地区と同様の問題をかかえる玉縄地区の問題でもあると思います。よろしく願いいたします。</p>	<p>え、地域のまちづくりとの連携を考慮しながら進めていきます。また、『鎌倉市公共施設再編計画（平成27年3月策定）』では、各地域の支所にある地域活動支援機能を地域拠点校に、戸籍等証明書の交付やその他の窓口機能は本庁舎などに集約することとしており、すでに一部の証明書（住民票と印鑑登録証明書の写し）については、コンビニエンスストアでの交付に取り組んでいます。行政サービス機能は、新たな本庁舎のほか、大船地域や鎌倉地域の現在地で確保していきます（第5章）。</p> <p>本庁舎の整備に当たっては、引き続き、様々な手法を活用し、市民の皆さんへの分かりやすい情報提供等に努めるとともに、新たな本庁舎整備に生かせるよう、皆さまのご意見を伺いながら、取り組んでいきます。</p> <p>（参考）地域拠点校とは、今後、市内の公共施設の老朽化が進む一方、人口減少や厳しい財政状況</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				<p>が見込まれ、現存する全ての公共施設を維持・更新していくことが困難な中で、サービス内容は維持しつつ、施設の整備や維持にかかるコストを削減するため、これまでは目的や対象者ごとに整備されていた公共施設（例：子育て関連施設、高齢者福祉施設、社会教育関連施設）を、地域の拠点となる学校施設の大規模改修や建替え時に、多世代が多目的に利用できる多世代交流スペースとして機能を集約、複合化していくものです。</p>

【移転に関する意見】

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
147	2		主として市役所の深沢移転についての件だと思いますが 時代の流れとあきらめればいいのかもしれませんが 鎌倉から本庁舎が深沢に移転してしまう のには寂しさを禁じえません せめて市長の執務室は鎌倉にそのまま残してほしいと思います でないと鎌倉のアイデンティティーを失うような気がしてなりません	<p>いただいたご意見に対し、経過 や検討内容に対するご理解をい ただくため、経過等について掲載 いたします。</p> <p>○本庁舎再整備の背景と経緯 本市では、人口増加とともに市 民ニーズを踏まえながら、公共施 設の建設を進めてきましたが、現 在では築 30 年を超える公共施設 が半数以上を占め、大規模改修や 建替えが急務となっています。し かし、人口減少が予想されている ことや昨今の厳しい財政状況の 中では、全ての施設を維持・更新 することが困難な状況にあるた め、「鎌倉の魅力を継承しつつ、 次世代に過大な負担を残さな い。」ことを前提として、新しい 時代に合った価値を提供でき るよう公共施設のあり方を見直す ため、平成 18 年度から公共施設 再編の具体的な検討を進めてい ます。平成 24 年 3 月に『鎌倉市 公共施設白書』を策定後、平成 24</p>
148	7		現在の場所で補修すれば十分 何故なら市庁舎が震災で壊れるとするなら それ以上に市民の被害が大きくて（市庁舎より古い 市民の建屋が多いはず！）市庁舎からの対応が不可能となるはずで。従って対策本部より各支 所から災害援助が出来るような構想にすべきである。 新築予算は福祉、高齢者対策に預金して 下さい。 今後紙による書類の時代は激減するので建物のスペースはコンパクトで十分なので深 沢みたいな広い土地が利用できるなら平屋かせいぜい 2 階建であれば経費節減になるとしま す&人口減も考慮して下さい。	
149	12		深沢の新庁舎は河川の氾濫への備えが考慮されていないようで心配です。	
150	15		本庁舎の移転、新築については反対です。 理由は以下のとおり。 1・なぜ深沢なのか？安全面からみて現在の本庁舎の地域と格段に差があるわけではない。大地 震や最大級の台風が来れば、深沢でも川が氾濫し浸水する可能性も大いにあり得る。 2・1の可能性を否定出来ないのに、現在の場所から移転して新築し、多くの費用をかける必要 があるのか。かかる費用は建て替えだけではない。引っ越しにも多くの費用がかかるはず。 3・古都鎌倉ならではの、在るものを大事に使い、できる限りリサイクルで環境問題に配慮した 市庁舎にして欲しい。 4・多くの都市の市庁舎はメインの駅近くにある。鎌倉市役所もそうであってほしいし、深沢に あることで、大変に不便になる方々が増えると思慮。 以上	
151	16		鎌倉市本庁舎等整備基本構想（素案）に関して、意見を述べます。基本的に現在の本庁舎の位置 が良いと思います。理由は、以下の 2 点です。 （1）鎌倉駅から近く、利用者の便利が良い。	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>(2) 移転する場合、費用負担が大きく、貴重な税金をそんなことに使うのはもったいない。災害時の資料喪失などの心配が移転理由にあると思いますが、資料の保管庫として別の場所を使い、そこに電子データもバックアップしておけば良いでしょう。</p> <p>災害時のオペレーションは、同様にバックアップ用の仮施設を用意することで対応すれば良く、事前に莫大な費用をかけて新庁舎を作る意義は少ないと思われます。引っ越しに伴う、業務量の増加や費用も考慮する必要があります。新庁舎を喜ぶのは建築業者だけでしょう。</p> <p>地方の財政状況が裕福なところなら、それなりに費用をかける意義もあると思いますが、鎌倉市の財政がそんなに良いとは思えません。(もし余裕があるのであれば、税金を減額してもらいたいです。あるいは、高齢者や障害者の医療や福祉を、隣接する横浜市程度にあげてもらいたいです。)</p>	<p>年度に学識経験者や公共的団体が推薦する者で構成する鎌倉市公共施設再編計画策定委員会を設置し、公共施設の再編を効果的かつ効率的に推進するため、議論をしていただき、平成 25 年 4 月に『鎌倉市公共施設再編計画基本方針』、平成 27 年 3 月に『鎌倉市公共施設再編計画』を策定しました。</p>
152	17		<p>本庁舎づくりの基本構想を 6 つの要素で示されていますが、全く誤った要素に基づく基本構想づくりであり、説得力がありません。原点に立ち戻って基本構想を作り直すべきです。以下にその理由を述べます。</p> <p>1. まず最優先に考えるべきは、「安全安心」と「費用負担」の問題です。</p> <p>(1) 「安全安心」の問題については、現在地と移転候補に挙げられている深沢地区とどちらが安全安心な場所であるかの議論が全くされていません。</p> <p>年々自然災害の規模と頻度が増大している中、深沢地区が現在地よりも安全安心な場所であるという説得力ある説明が全くされていません。柏尾川が氾濫し移転候補地の深沢地区が浸水する可能性が有ることが公に公表されていながら、このことを伏せていた市の対応に対しても不信感を拭えません。最優先されるべき「安全安心」が等閑にされているとしか思えません。本庁舎づくりの最重要判断基準は、現在地と深沢地区でどちらがより安全な場所かにより決められるべきです。</p> <p>(2) 「費用負担」の問題については、市の資料では、当初予算の 180 億円を 150 億円に圧縮して本庁舎を建設するとしています。現在地に立て替えた場合と深沢地区に移転した場合の費用負担の比較がされていません。移転候補地の深沢地区は現在地に比べ交通不便な所です。この為、市は JR の新駅を作ることを藤沢市と共に進めようとしています。この新駅誘致のため</p>	<p>○現在の本庁舎の課題</p> <p>このうち、昭和 44 年に整備した本庁舎は、整備から約 50 年が経過し、建物や設備の老朽化への対応が大きな課題となっており、また、行政需要の増大に伴う職員数の増加等から本庁舎だけでは執務スペースが狭小となり、分庁舎の建設や一部執務室の敷地外への移転などを進めた結果、業務の非効率化が見られるとともに市民の利用にも支障をきたしています。</p> <p>加えて、神奈川県が公表している津波浸水想定範囲内に敷地</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>の費用はこの150億円に含まれているのでしょうか。新駅と庁舎を結ぶ柏尾川にかかる橋の建設費用は含まれているのでしょうか。これから、少子高齢化が進み市の財政は益々厳しくなることは目に見えています。多くの市町村の庁舎が、身の丈に合わない立派な建物であることに違和感を覚えています。箱物行政の弊害だと思います。この150億円の金額は、鎌倉市の財政規模から全く問題のない範囲の金額か否かの判断資料も示されていません。市民に多少の不便をかけても、現在の庁舎を利用して、費用を極力抑える方策も検討されるべきです。</p> <p>2. 最後に市が示した6つの要素について意見を述べます。</p> <p>(1) 要素1について(移転候補地の深沢地区について)、市長の説明では、鎌倉地域、大船地域、玉縄地域、腰越地域から略等距離に有るので市庁舎の場所として好ましい旨の説明があったと記憶しています。しかし、この発想は、神奈川県庁所在地を戸塚区や綾瀬市に移すことを勧めるに等しい議論だと思います。神奈川県庁所在地は、海側の中区の現在位置にあることが、最もふさわしい場所であると同様に、鎌倉市役所の庁舎は、鎌倉地域の現在地が最もふさわしい場所と考えます。</p> <p>この点は、要素3の鎌倉の自然や歴史を感じさせることや、要素5の交通アクセスが良く市民に寄り添った庁舎であることや、要素6の誰もが利用しやすい事にもつながる点だと思います。</p>	<p>の一部が含まれていることや、平成17年までに実施した耐震改修工事により、Is値(※)10.6の耐震性能を確保し震度6クラスの地震に際して建物が倒壊又は崩壊する危険性は低いものの、業務継続に求められる通常の1.5倍のIs値0.9の耐震性能は有しておらず、大規模な地震が発生した場合の業務継続に不安があることなどを課題として捉えています。</p> <p>こうしたことから、平成27年3月に策定した『鎌倉市公共施設再編計画』において、「現在地建替え」、「現在地長寿命化」、「その他の用地への移転」の方策などについて検討し、平成28年度末までに将来の整備方針を決定することとしました。</p> <p>(※) 建物の強度や粘りに加え、その形状や経年状況を考慮した耐震指標。Is値が大きいほど耐震性が高い。</p> <p>○「移転して整備する」方針を決</p>
153	20		<p>鎌倉市役所は深沢に来なくていい。鎌倉市役所なのだから、鎌倉にあるべき。現在地に立て直すことを希望します。6つの要素に『市民対話で出たご意見』に反対意見がないのは変です。また、新駅も不要。使わないのに、私の税金から費用が出るなんて嫌です。武田薬品の為の新駅だと聞きました。バスで通勤すればいいだけのこと。意見を言っても潰されるだけとは思いますが、一応書き込みました。津波なんて、深沢にいたって来る時は来ます。バスとモノレールの混雑ぶりが目に浮かびます。モノレールって『次の便を…』と言うアナウンスないですよ。重量オーバーで落ちたら怖いです。</p>	
154	25		<p>鎌倉市役所本庁舎の深沢地区への移転に反対です。</p> <p>「鎌倉市役所が何故、深沢へ移転？」という気持ちでいっぱいです。深沢は、「広い土地がある」「防災拠点として適当」。それよりも住民が利用し易いことの方が大事だと思います。鎌倉市民の多くはどこの地区に住んでいても日頃の買い物を除けば、鎌倉駅か大船駅を経由して行動しま</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>す。深沢へは、モノレールかバスを使わなければ行かれません。日頃、深沢に行くことなど皆無です。藤沢市役所が新しくなっていますが、その時に「大庭地区に移転」みたいな感じです。</p> <p>②現在の地に鎌倉市役所本庁舎を建てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場を一時閉鎖して、駐車場に新しい本庁舎を建て、その後旧本庁舎を取り壊し駐車場とする。 ・深沢地区には、議会機能・防災センター（パソコンのサーバー、他）等の機能をもつ建物を作る。 <p>鎌倉（現市役所）と深沢に機能を分ければ、鎌倉（現市役所）をコンパクトかつ市民に使い易い施設に出来ると思います。ダブルにすることで災害時のバックアップにもなります。いくらIT化が進んでも、何かあれば手続きに行かなければならないことも多いし、分からないことがある時近ければ気軽に相談に行けます。どうぞ市民が利用し易い鎌倉駅そばの本庁舎を移転しないでください。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>	<p>定した理由</p> <p>平成 27 年度に「本庁舎機能更新に係る基礎調査 ～本庁舎整備方針策定に向けて～」を実施し、現在の本庁舎が抱える課題、求められる機能・性能、必要な庁舎面積、配慮すべき条件等の整理を行った上で、平成 28 年度に学識経験者や公共的団体が推薦する者で構成する鎌倉市本庁舎整備方針策定委員会（以下「策定委員会」といいます。）を設置し、必要となる床面積 25,000 ～ 30,000 m²（総務省基準等に基づき算出）に対してどのような本庁舎の整備パターンが考えられるか、「現在地建替え」、「現在地長寿命化」、「その他の用地への移転」の方策をベースとして、「防災・減災」、「機能・性能」、「まちづくり」及び「時間・コスト」の観点から検討していただきました。</p> <p>その結果、現在地での整備では、①地震等の直接的な被害による本庁舎の機能停止だけでなく、道路の寸断により庁舎周辺道路</p>
155	29		<p>本庁舎整備基本構想は移転しない方向で再考すべきと考えます。</p> <p>理由 ①基本構想に 財源を明確に説明していない。現市財政状況（市債残高が一般会計 355 億円、特別会計は市 HP を見たがいくら分からない）では新庁舎事業費に 166 億円を支出する余裕はないと考えます。②職員の増加対策は更なる市民サービス 向上の為、各支所 等へ職員を分散配置すれば良いと考えます。③「老朽化」及び「災害時に 頼れる本庁舎」は現庁舎を改修すれば良いと考えます。素案で庁舎 IS 値が 0.9 を有していないと記載があるが既耐震改修工事の不備を認めたこととなります。また津波と洪水の浸水被害は現庁舎も深沢もほぼ同等と考えます。</p>	
156	30	5-5	<p>基本的に公共施設は（特に高齢者や障害者など弱い立場の人）生活している地域の歩いて行けるところにあるべきと考えます。今ある支所の窓口を充実させ（専門職配置、保育園入園手続きなど）る方を優先させて欲しい（三つの拠点中心→今の支所中心）。</p> <p>今までの委員会や対話をしてきた結果、深沢に移転する計画と伺いましたが、今一度、市民の生活にとって市役所や窓口業務のあり方について考えた計画にしてほしいと考えます。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
157	34		<p>鎌倉市役所本庁舎の深沢地区への移転に反対です。</p> <p>深沢には、「広い土地がある」「防災拠点として適当」等。それよりも住民が利用し易いことの方が大事だと思います。鎌倉市民の多くは日頃の買い物を除けば、鎌倉駅か大船駅を經由して行動します。深沢へは、モノレールかバスを使わなければ行かれませんか。深沢に行くことなど皆無です。</p> <p>現在の地に本庁舎を建てるために駐車場を一時閉鎖して、駐車場に新しい本庁舎を建て、その後旧本庁舎を取り壊し駐車場とする。</p> <p>深沢地区には、議会機能・防災センター（パソコンのサーバー、他）等の機能をもつ建物を作る。</p>	<p>の通行に支障が生じ、庁舎が孤立して機能不全となるおそれや、市域全域に対する災害への対応が困難な事態に陥る可能性も考えられ、災害時の対応力・受援力の発揮など災害応急対策活動には適さないこと。②風致地区による建物の高さ制限（10m）により高層化ができないことや、周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されているため、遺構に影響を与えないためには最大でも2階建ての高さの軽量の建築物とする必要があり、本庁舎としての機能を維持するために必要な床面積が確保できないこと。③分庁舎や仮庁舎の整備や仮庁舎への引っ越し費用等も必要となり、移転に比べ多額の費用がかかることなどから、「本庁舎は移転して整備する」との方針が策定委員会から市長へ提言され、平成29年3月に「本庁舎は移転して整備する」ことを含む『鎌倉市本庁舎整備方針』を策定しました。</p>
158	35		<p>市庁舎は、現敷地内での建て替えが望ましいと考えます。鎌倉は海に近く、どこでも多かれ少なかれ危険です。現地の方が少しは安全です（基本構想、データが変ですね）</p> <p>泣き塔、見て初めて気づきましたが、高い所にありますね。浸水を避けるためだと思います。安らかに眠っていただくのが良いと思います。</p>	
159	38		<p>鎌倉市役所本庁舎移転問題については反対であります。その理由は財政が豊かでないにもかかわらず、どうして市庁舎の建設を優先させるのか理解に苦しみます。</p> <p>数百億円を使い新駅を推進し市庁舎建設には市民の反対が相当数と思われまます。</p> <p>ゴミ焼却場問題も解決せず、新規場所を棚上げにし他の自治体の合意もないのに処分するという考えは無責任であります。</p> <p>その場合費用は莫大であり市民は粗大ゴミ等の処分にも不便で更なる負担増であり、この問題が優勢されるべきです</p> <p>よって</p> <p>市役所は現状のまま耐震工事等で補強すれば十分である</p>	
160	40		<ul style="list-style-type: none"> ・本庁舎の移転をなぜ深沢へこだわるのか？理由を知りたい。アクセスも不便であり、まだ「大船駅」から近距離ならば納得がいく。 ・鎌倉市に産業がない為、都内勤務者にとってはなるべく鎌倉駅・大船駅のそばにあって欲しい。 <p>何かあった時に、仕事と両立することが出来ない。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<ul style="list-style-type: none"> ・もし、本庁舎を移転させた場合に、現庁舎ではどのような手続きは可能なのか？等の具体的な取扱い業務が分かりづらい。(広報誌でも分からない) 年金やハローワークに関しても、鎌倉は「藤沢市管轄」なので、藤沢まで行かないとならない不便な点の改善等も踏まえて考察して欲しい。 ・鎌倉市に産業がない為、都内勤務者にとってはなるべく鎌倉駅・大船駅のそばにあって欲しい。何かあった時に、仕事と両立することが出来ない。 	<p>○移転先を「深沢地域整備事業用地(行政施設用地)」とした理由</p> <p>本市では、『鎌倉市本庁舎整備方針』を受け、本庁舎の移転は、まちづくり、地域経済、市民サービス等に大きな影響を与えるため、本庁舎単体で捉えるのではなく、広くまちづくりの視点を持って検討することが必要であることから、平成 29 年度に、鎌倉市公的不動産利活用推進委員会の中で、他の公的不動産の利活用やその効果を含めて全市的な視点から適地の検討を行い、平成 30 年 3 月に策定した『鎌倉市公的不動産利活用推進方針』において、本庁舎の移転先を深沢地域整備事業用地内の行政施設用地(以下「行政施設用地」といいます。)としました。</p> <p>その検討に当たっては、原則として市有地であることや、必要となる床面積 25,000~30,000 m²の本庁舎が整備できる土地の面積を有することなどの移転整備候補地抽出の基本的な考え方に基</p>
161	46		<p>深沢地区への移転ありきということでなし崩し的に移転計画を強引に推し進めていることに反対します。</p> <p>市は広報の中で「人口減少が予想されていること、昨今の厳しい財政状況の中では。。。」と状況を認識しながら、移転費用捻出に対する極めて楽観的な認識のもとに(民間資金が呼び込めるとしているがなんの裏づけもない。建設費用も移転候補地の水害対策の土地の嵩上げ費用なども十分に考慮していないのに等々)、計画を進めており、このままでは将来、鎌倉市の財政が破綻してしまう恐れがあります。</p> <p>老朽化ということで本庁舎を建て直すという必要性は理解します。但し、深沢地区への移転ということには賛成出来ません。私は半世紀以上、鎌倉に住んできていますが、鎌倉の私の友人の殆どが深沢地区を移転候補地としたことに納得していません。市議会の賛成は得られませんでした。移転に関する住民投票の要求があれだけの盛り上がりを見せたことも、如何に市民の反対が強いかを示しています。この市民の声を市としては十分に認識すべきです。</p> <p>アクセスの悪さ、水害に対する脆弱な立地等から深沢地区は候補地としては望ましくありません。この際、候補地や建設予算の再考を含めて、移転構想をゼロベースから見直すべきと考えます。</p>	
162	47		<p>市としての説明、解説を拝読しました。膨大な説明書を作られた担当職員の方には、敬意を表します。</p> <p>しかし、その努力とは裏腹に、肝心の「移転した場合の市民全員の影響(デメリット)」については、ほとんど触れられておらず、市民不在で作られたものにしか読めず、残念に思います。」</p> <p>よって、この説明では、全市民への理解を得ることは、難しいと思います。一見、丁寧な説明を</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>行っているようにも見えますが、今までの経緯や、現在の解説文を読む限り、市民からの素朴な疑問にはまじめに答えてはいません。</p> <p>① 大多数の市民が、「深沢地区への市役所本庁舎の移転を希望している」のかを明確な証拠とともに示してください。例えば、市民一人一人から出された「移転を望む市民の嘆願書」（せめて有権者の半数以上）や「市民全員（有権者）に対して実施した住民投票の経過と結果」など。市役所本庁舎移転という重要問題からすれば、市は、方向性を決める前に、必ず市民全員に問いかけを行う義務があります。その方法や過程なくして、市民の大多数が移転を望んでいるとは言い難いです。</p> <p>② 移転に関するアンケートを来庁者に行ったとの説明がありますが、短期間にごく少ない来庁者に「仮定」の問題として行っただけで、市役所本庁舎移転が現実問題なったとした場合の、市民からの反響は変わってくると思います。</p> <p>③ 説明文から読み取ることができるものは、「何が何でも深沢地区に市役所本庁舎の移転する」という頑なな姿勢です。</p> <p>④ 説明文は、「深沢地区へ移転して建設した場合」と「現在地での建て替え」の比較形式をとっていますが、全ての項目に関して、「深沢地区へ移転して建設した場合のメリット」と「現在地での建て替えの場合のデメリット」という比較になっています。市長が移転推進の立場であるので、仕方がないことなのかもしれませんが、ひいき目なしの市民の立場で読んでみると、すごく不自然で、一方的な説明です。</p> <p>⑤ 歴史のある鎌倉からして、市役所の設置場所には特に配慮すべきです。古都鎌倉にふさわしい、場所と建物を置くべきです。単に、建てやすい場所に建物を移して、近代的に見える建物を造ればよい、というものではありません。</p> <p>⑥ 深沢地区は、鎌倉市の中心になりえません。中心市街地はJR 鎌倉駅周辺であり、JR 横須賀線やJR 湘南新宿ラインを利用して東京、横浜からも直通で来ることができる鎌倉市を代表する駅「鎌倉駅」から近い場所が最適です。</p> <p>⑦ 将来、深沢地区を市の中心部にするために、鎌倉市を代表する駅、文化施設、商業、観光、官公署、金融機関を含めてすべてを現鎌倉地区から深沢地区に移転させる気なのか具体的に示</p>	<p>づき、まずは、梶原四丁目用地（野村総合研究所跡地）及び行政施設用地を候補地とし、市民の利便性及び全市的なまちづくりの視点から評価を行いました。</p> <p>また、市民の利便性の視点では、市域全体に対し効率的にバランスの良い行政サービスの提供が可能であるかの検討を行い、鎌倉駅周辺、大船駅周辺、深沢地域の3拠点における行政サービスの提供が、市民の利便性の維持とサービス提供の効率化の面で優れていること、深沢地域は人口重心が位置するなど、行政施設用地がより多くの市民にサービスを提供することに適した場所であるとの結論に至りました。</p> <p>次に、全市的なまちづくりの視点では、人口減少等が進行する中、都市機能が集積する場所で行政サービスを提供することは、まちの暮らしやすさの向上、行政サービスに係るコストの削減につながることから、鎌倉駅周辺、大船駅周辺、深沢地域の三つの都市</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>されていません。この移転により「市の全体的な発展」や「毎日の市民生活でどんな影響を及ぼすのか」を、真剣に考えているのかが、説明文では読み取れません。</p> <p>⑧ 移転の理由の一つに防災面を挙げていますが、津波や浸水は、現在の市庁舎や深沢地区だけの問題ではありません。材木座から腰越に至る海岸線の地域ほか、柏尾川、滑川などの河川周辺地区や、市内には、たくさんの山、がけ、そして建物も、当然防災対策の必要性があります。深沢地区へ市役所本庁舎を移転したとしても、その他の地区は、防災面も置き去りのまま不安は残ります。言い方を変えれば、「市役所さえ安全なところへ移転すればよい。その他の地区については、「市民は、自分の力で防災を考えなさい。」というような、冷たい行政です。</p> <p>⑨ もう一つ、市民の一人として、どうしても聞きたいことがあります。それは、市役所本庁舎の移転について、市役所で働く非常勤事務嘱託員を含めた、すべての職員の意向です。ほぼ毎日市庁舎で生活する（執務する）人たちが、ただ単に「新しい庁舎で仕事をしたい」とは思っていないと思います。私は、少なくとも大多数の職員は、現在よりも通勤が面倒になると推測します。通勤費も今まで以上に係ると思います。ぜひ、公正な調査をしていただき、その結果を示していただきたいです。職員が、市役所本庁舎の移転を望んでいるのか、または、望んでいないのか、全市民だけでなく、職員にも行ってほしいです。</p> <p>⑩ 現市役所の1階部分の窓口事務は、移転後でも現在地に残すので、市民には不便をかけない、と言っていますが、移転決定後にどうなるのか、信用できません。仮に、ある事務手続きをする場合に、深沢の庁舎でないと、手続きはできない、ということになれば、移転には反対です。不便になるだけです。私には何のメリットもない。住居地からわざわざ時間と労力と費用をかけて、深沢に出向くのは難儀です。これから、市民や来庁者が高齢化すれば、身体が動きにくくなり、自動車を運転する機会もなくなり（運転免許証の返納など）ます。これからは、バスや電車、タクシーだけが頼りなのに、移転してしまったら、費用負担や労力は数倍かかり、不便この上ないです。現在のように、市役所に行きながら、銀行や郵便局にも行き、クリニックにも寄って、ストアや商店で買い物も済ませる、というわけにはいかなくなります。</p> <p>⑪ 以上により、私にとって、深沢地区への市役所本庁舎移転のメリットは、何もなく、移転は</p>	<p>拠点に行政サービスを配置することが望ましく、また、行政施設用地に本庁舎機能を整備することで、周辺に一定の機能が集積することや賑わいの創出などを想定すると、梶原四丁目用地と比べて、今後、新たなまちづくりを進める行政施設用地の方が優位性が高いとの結論に至りました。</p> <p>更に、こうした視点に加え、行政施設用地に本庁舎が移転した場合、総合体育館や消防本部と連携した整備等を行うことにより、建設コスト削減や、官民連携の手法の導入による費用負担の縮減が可能になります。そして、深沢地域に本庁舎を移転整備し、深沢地域のまちづくりを推進することで、他の公的不動産の利活用のポテンシャルを高め、更に鎌倉駅周辺拠点や大船駅周辺拠点それぞれの資源や魅力、都市機能に磨きをかけることで、鎌倉市全体の都市機能の強化やまちの魅力向上につながることを期待できる</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			反対です。	ことから、行政施設用地を移転先としています。
163	50		移転ありきで進んでいる。新駅と市役所移転は別問題として考えるべき。市役所業務を分散化させて、本庁舎を現在の場所に置く。古都鎌倉に相応しい事を最優先に正しいデータに基づき議論すべきと考えます。 色々傍聴させて頂きましたが、有識者の方々に高い謝礼は無駄使いと考えます。	○本庁舎移転後の現在地について
164	51		基本構想の根拠がフェイクなので移転反対 基本構想の根拠そのものが「深沢ありきで」でデータ操作されて、基本構想が制作されているので移転は反対。目くらましの基本構想。 (傍聴。市民対話出席。情報公開請求をして解かった事実) (2-1~16) 「災害想定」-深沢は安全という「フェイク情報のもと」市が移転決定。決定時に市民に地盤。特定都市河川指定河川、洪水浸水想定地域図。などの防災情報を市民に明らかにしないまま、市だけで移転決定した。 (4-1~5) 「建設費比較」-深沢事業用地の地盤は30m~50m 杭を打たないと基盤に届かない。地盤などの問題が計算されていない。2m下には地下水脈がある。建設費166億はフェイク。(工賃は増える。) 故に優位性が見いだせない。一階の機能を現在地に残したうえ、IT 時代になるのに現在より大きな市庁舎は不必要。 (5-3~18) 「交通利便性の比較」-現在地より深沢事業用地の方が利便性が良いと結論つけているが、深沢はモノレールの整備。道路の整備。などが必要で、時差通勤の必要性などを鑑みても、現市庁舎の方が利便性がある。深沢利便性の優位のフェイク。 (6-1~2) 「市民対話」一本庁舎移転を討論した際の根拠情報がフェイク 1)「深沢地域の洪水浸水域の情報が隠されていた」、2)「本庁舎は最大津波時に浸水しない情	本庁舎が移転した後の現在地には、市民サービス機能(相談・手続窓口)を維持するほか、ホール(生涯学習センター)、図書館、ミーティングスペースなど、鎌倉地域における公共施設の再編により、市民の生涯学習、活動の拠点化を目指します。 また、これらのほかに、民間機能の導入による賑わいや憩いの創出及び鎌倉のブランド力向上・新たなライフスタイルの提案・「住みたいまち鎌倉」の実現を目指し、鎌倉駅直近において様々な魅力を発信していきます。 ○建設費用について 近年の建設費の状況を踏まえ、床面積1㎡当たりの建設単価を60万円と設定し、『鎌倉市本庁舎

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>報を隠した」、3)「移転工費根拠の現庁舎新築費用の不明瞭」</p> <p>○市だけで移転決定しただけなのに、法的に決定したかのように印象操作。「深沢移転前提」での市民対話。</p> <p>○深沢移転賛成派の市民数人が当初より入り、コンサルタントと共に「市民を誘導」している市民対話。</p> <p>○反対の意見は公の資料には載せないで、参加市民みんなが賛成のように印象操して広報。アライバイ作りだけの市民対話。反対の人の意見は無視。市民対話を公募しても反対の人は議論に参加もさせないで排除する市民対話。</p> <p>(1-1~6)</p> <p>○市民合意がなされていない。今までの移転に関するアンケートなどによる市民の大多数の反対意見が無視されている。</p> <p>「市議会の決定を得ていない」</p> <p>市議会の決定を得ないで、「深沢移転決定」として、税金がコンサルタントに支払われ企画されていることは、市長が変われば変わる計画になるので多額な税金の無駄使い。</p> <p>結論一市役所移転は反対。</p> <p>○再度の「正確なデータによる比較検討」を望む。</p> <p>○深沢事業用地は、まちの事情に合ったまちづくり、ウェルネスな親水公園やグラウンド、広い防災拠点、などの検討を希望。</p> <p>○持続可能なまちづくりには河川や自然を生かしたまちづくりが提唱されている。</p>	<p>整備方針』では本庁舎に必要な床面積を 30,000 m²とした場合の工事費の概算金額を 180 億円と算出しました。しかし、基本構想(素案)ではコンパクト化を考え、床面積を 25,000 m²を上限として検討を進めることとし、工事費の概算金額を 150 億円としています。</p> <p>この工事費については、市債と本庁舎整備基金を活用し、残りを一般財源で賄う予定ですが、今後、市費の投入を極力抑えるため、公共施設の再編や本庁舎のコンパクト化のほか、民間の資金やノウハウの活用により、民間事業者が建物を整備する手法も視野に入れて、取組を進めていきます。</p>
165	52		<p>(1) 基本計画と投資計画の立案：長期間国際機関(世銀・アジ銀等)が行ってきた公共投資の評価と実行のステップは、①長期開発計画の策定、②個々の公共投資プロジェクトの選定、③プロジェクトの費用・便益分析、④基本設計、⑤詳細設計、⑥プロジェクトの実施、⑦モニタリング、⑧事後評価である。</p> <p>この公共投資プロジェクトの枠組みから考えると、以下の問題点が指摘されるべきと考える。鎌倉市の 166.6 億円と推計される大規模な本庁舎整備投資計画は、第 3 期基本計画の中で既に検討されるべき規模の公共投資計画である。しかも第 4 期計画の策定業務の準備の段階でも取り上げ</p>	<p>○深沢地域整備事業用地(行政施設用地)の災害リスクに関する再検証について</p> <p>移転先の決定後、行政施設用地の防災面に関する不安の声があったことから、基本構想(素案)作成に当たり、改めて、最新のデ</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>ておらず、不可解である。</p> <p>(2) 鎌倉市市庁舎及び各種関連施設の稼働率の現状分析の必要性：個々の公共投資プロジェクトを選定する場合、十分な現状分析が不可欠であるが、参照した文献・資料からは深沢移転計画の策定プロセスが不明確である。先ず致命的な欠陥は、鎌倉市の現存する施設の利用状況・稼働率の分析が欠けていることである。特に人口の約50%が居住している鎌倉・大船地区に比較して約14.5%の人口が居住する玉縄地域にある施設、玉縄行政センター（支所・学習センター・図書館）、玉縄子育て支援センター、玉縄青少年センター等の稼働状況が極端に低いと観察される。また小規模な鎌倉市市民の潜在的な武道愛好者に比較して鎌倉武道館の施設は極端に規模が大きいと判断される。これら施設を有効に活用すれば鎌倉市市庁舎の過密状態は改善されると判断される。</p> <p>(3) 代替案の費用・便益分析による比較分析： 公共投資プロジェクトの場合、複数の代替案のプロジェクトの費用・便益分析が不可欠であるが、国吉委員会の報告書の分析では不十分であると判断される。特に現在本庁舎に過剰に集中している市職員、特に日常の住民サービスに関係のない都市調整・調整・景観関係の職員を現存する各種施設、特に学習センターに分散配置すれば、本庁舎の移転計画も抜本的に変わってくる。</p> <p>(4) 選出された投資計画の詳細な費用・便益分析の必要性： 166.6億円と推計される深沢移転計画案を鎌倉市民に説明するため詳細な費用便益調査（別名、F/S、Feasibility Study）の実施は不可欠であり、市行政当局は、その結果を鎌倉市議会に報告し、計画の賛否を受けるべきである。一般的に、調査規模は投資規模の数パーセント以上（1パーセントで、1.7億円規模以上）と言われている。この調査では、①詳細な代替案の分析、②費用対効果分析、③資金計画を含む必要がある。市庁舎移転計画の場合、代替案の便益の計量分析は困難となるので、判断基準は「最小費用原則」となる。しかし計量可能な費用・便益は可能な限り推計されるべきである。（例：市民の移動時間ロスと交通費の増大等）。</p> <p>(5) 資金計画の財政シミュレーションの必要性： 市庁舎深沢地区移転計画は50年に一度あるか無いかの投資計画と判断されるが、166.6億円の推定投資金額の資金計画が不明である。市当局は民間資金を活用するPFIを検討しているようだ</p>	<p>ータを用いて、防災面に関する再検証を行いました。</p> <p>本市では、地震によって引き起こされる建物や施設の被害に加え、津波や土砂災害、液状化、大規模降雨による洪水浸水や内水氾濫、土砂災害等が災害のリスクとして想定されますが、災害リスクが全くない場所は存在しないため、比較的災害リスクが少ない場所で、それにどう対処できるかが重要であると考えています。</p> <p>本庁舎の移転先としている行政施設用地は、津波による浸水の想定はありませんが、一部で液状化の可能性が高い箇所が存在しています。また、平成30年1月に神奈川県が公表した想定し得る最大規模の降雨（24時間積算雨量：632mm）による境川水系洪水浸水想定区域図では、洪水による浸水が想定されています。想定される災害については、深沢地域整備事業用地で予定している区画整理事業における造成に加え、建築時の外構工事（整地等）等によ</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>が、民間資金を活用する場合、①詳細なF/S（費用・便益分析）、②資金計画、③長期的な財政状態の予測が不可欠である。現在の鎌倉市庁舎の所在地（御成町）は鎌倉市の1等地であり、民活活用の資金計画は中世都市鎌倉の文化行政の見地から妥当ではない。</p> <p>（6）市民集会の役割： 市行政当局は過去複数回市民集会を開催し、今後も複数回住民との対話集会を計画している。しかしこれら対話集会参加市民は鎌倉市住民の代表ではない。これらの市民集会は、「基本計画」の策定の段階で参考にすべきで、詳細な費用・便益分析が終了していない段階で開催するのは不適當である。市民集会を開催する目的が不明である。</p> <p>（7）市庁舎移転と防災対策 市当局の説明では、防災対策が市庁舎移転の主要な目的となっている。しかし市当局は先ず、①防災対策の長期計画の策定、②具体的な対策の実施、③地域での防災訓練の実施等を実行すべきである。災害のリスク対策の基本は、「リスクの分散」であり、基本的には、災害対策機能を各種鎌倉市の市庁舎等関連施設に分散させるのが妥当と考えられる。</p> <p>（8）市庁舎の深沢移転に反対する署名運動の結果の尊重 条例案は市議会で否決されたが、署名者は8270人に達し、これ等住民の意見・意志は無視できない。</p> <p>（9）深沢地域整備事業用地の開発計画 市庁舎移転計画は、深沢地域整備事業用地の開発計画が策定された後に検討されるべきである。この計画は大船・藤沢間にJR新駅を建設する計画と密接に関連してくる。藤沢市民の反対もあり不確定要素がある。</p> <p>（10）中世都市鎌倉市の拠点としての市庁舎 市庁舎は中世都市鎌倉のシンボルであり、住民サービスの拠点であり、移転には反対する。</p>	<p>り対策を講じていきます。</p> <p>「鎌倉市本庁舎等整備委員会」や「鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会」に設置した「防災部会」において、防災の専門家に議論していただいた中でも、現在地より深沢地域整備事業用地（行政施設用地）の方が優位性があるとの結論に至りました。</p> <p>（第3章）</p> <p>○本庁舎の整備に関する主な取組について</p> <p>基本構想（素案）や第1章にもあるように、これまで本市では本庁舎整備に関する取組について、広報紙、市ホームページ、市民対話、シンポジウム、説明会、出前講座やふれあい地域懇談会、パブリックコメントの実施など可能な限りの手法を尽くして情報提供等を行ってきています。引き続き、情報提供等に努めていきます。</p> <p>○行政計画との関係について</p>
166	53		<p>鎌倉市の市役所移転について問題点を指摘します。</p> <p>まず立地。</p> <p>♪が2つもつく地名に移転とは東日本大震災に学んでない愚。</p> <p>現在の市役所の立地が危険というのが神社も近く。2階を1階的にペDESTリアン改装すれば良い。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>つぎにSDG's観点。 今時の縮小社会に開発という手法で大きな建物を建てる愚。 既存資産をメンテナンス運用できない行政には新しい建物などもったい。既存の組み合わせで改善する創意工夫がない。 最後に時代錯誤。 フレキシブルな勤務も電子化もこれだけ進んだ現在。一カ所の箱モノにこだわる愚。 既存建物改修+大船地域などでは賃貸増床。コワーキング空間+在宅リモート勤務へ。 ゼロベースで見直していきましょう。 さらに必要であれば他に分散した資産（野村跡地など）で工夫。 そんなにあちら側に行きたいのであれば旧鎌倉を残し。大船深沢手広地区は藤沢市に吸収してもらえばいい。 旧鎌倉は逗子葉山と合併して細々と中身のある地域にします。</p>	<p>基本構想（素案）は、『第3次鎌倉市総合計画』を筆頭に、『鎌倉市都市マスタープラン』、『鎌倉市公共施設再編計画』、『鎌倉市地域防災計画』など、本市の将来都市像やまちづくり、災害対策などに関する行政計画を踏まえた上で、それらと関係する部分を照らし合わせながら作成しました。</p> <p>これらの経過等があったこと及び基本構想策定にご理解願います。</p>
167	56		<p>素案全体に納得がゆきません。</p> <p>●そもそも住民の多くによる署名があった事実を無視しています。市役所が深沢に移転してしまうことで、市民全体の負担が今後どれだけ増えるかを考慮すべき。深沢へ移転した後の市民の市役所へのアクセスを真剣に考えているのでしょうか？その費用的時間的負担はどうなるのでしょうか？</p> <p>●災害の問題はより深刻です。神奈川県が柏尾川の洪水の危険性を指摘していることを知りながら、市役所および市長はそれを隠して、深沢ありきで移転計画を進めようとしたことがバレたわけです。それに対して市民への謝罪はない。ごみ袋有料化と同じです。あれもゴミの戸別収集をする対価だと言われて導入され、戸別収集は今もない。これでは詐欺も同然だが、いまだにそれについて謝罪もない。</p> <p>●現在の市役所について津波の危険性があることが指摘されていますが、それよりも、柏尾川の洪水で移転後の市役所が浸水するリスクの方がはるかに高い。本気でそのリスクを検討したのでしょうか？ 県がハザードマップで柏尾川の洪水のリスクを指摘していることを隠したくらいですから、素案がそのリスクを真剣に検討したとは私にはとうてい思えません。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>●新庁舎建設の費用負担の問題をどう考えるのか。市町村自治体で見て、全国的にも突出して高い鎌倉市役所職員の給与。それをさらに引き上げたりもしている。財政状況に鑑み、全体をなんとかすることをもっと考えてはどうか？ そこまで深沢ありきで通したいか。あまりにも図々しい話だと思います。</p>	(前ページの続き)
168	57		<p>参考資料の e モニターへのアンケート結果を見たが、市庁舎の深沢移転に対する疑念の声が多数あった。しかし今もって市はこれらの声に誠実に回答したとはいいがたい。</p> <p>アンケートそのものが深沢への市庁舎移転・現庁舎の再利用を前提としたものでありそもそも不公正である。</p> <p>また、深沢への市庁舎移転にあたり、周辺道路の整備や地盤改良が必要になるが、その費用を市庁舎の建設に必要な費用に計上しないのはアンフェアである。市庁舎・周辺の開発いずれにしても市民の税金からまかなわれるのだから、深沢の再開発計画そのものを白紙撤回すべきだと考える。</p>	
169	58		<p>本庁舎等整備基本構想</p> <p>なぜ不便な場所に移転するのか理解できない。</p> <p>職員も JR だけでなく、モノレールの交通費もかかる。</p> <p>定期代の税金もかかる。</p> <p>モノレールは混まないというが、混みます。ましてあの付近に大学を建てるならなおさらです。</p> <p>住民投票もあったように、深沢に賛成する市民は反対する人に比して少ない。新しい道路など根本的に作らなければ、不便なままに役所だけ不便な場所に移転しても意味がない。</p> <p>市役所は JR 駅のあるところ、特に今後人口が最も多い地区である大船にするべきである。 そうでなければ鎌倉と大船で分散するべきである。観光関連、など、鎌倉に関連する部は鎌倉にして、実務機能は大船にすべきである。大船は佐々木泰三『水の出る街、大船』にあるように本来きちんと開発されれば、横浜に匹敵する街になるのであるのに、市が土地を勝手に民間に売り渡し、開発計画がとん挫したことが今の状況を作り出している。</p> <p>参考 URL</p> <p>hamarepo.com/story.php?page_no=1&story_id=2796</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
170	59		<p>パブリックコメントという気が遠くなるような事をされて、お忙しいと思いますが、私もこの機会に一つだけお伝えしたいことがあります参加させていただきたいと思います。</p> <p>深沢に市役所移転は費用対効果・利便性の点で疑問を持っております。現市役所を立て直し深沢には市役所ではなく別の施設を作るべきと思っております。</p>	(前ページの続き)
171	62		<p>市庁舎深沢地区移転構想についてコメントします。私は「移転には反対」の立場です。</p> <p>1. 松尾市長の matsuonet 掲載の画像+記述文言には問題ありと思う。</p> <p>①冒頭に「移転して整備する方針に決定」とあるが これは市長の意向を既成事実化の如く誘導する表現であるとすれば問題。</p> <p>②市庁(=市庁舎)の「象徴的な側面が全く無視」されて 読者視点を予算額・人口重心点に誘導している。 人口重心は 再開発余地の少ない旧市内地域ではなく宅地開発余地が大きかった周縁地域に在ることは当然である。 行政サービスが周縁地域に行き届いていないという事であれば それは突然生じた問題ではなく これまでの市行政の怠慢の問題であろう。 周縁人口重心地域に行政サービス分庁舎設置などを行って解決すべき問題であろう。</p> <p>③翻って 深沢の移転構想地域は地震津波浸水など自然災害に対して安全との神話は 既に科学的調査結果で覆された筈。</p> <p>2. 災害時の切れ目ない行政サービス機能を確保する・・・これも移転論の目玉のようであるが・・・</p> <p>①これは上記前項の1-③によって既に成り立ち得ない論点である。</p> <p>②重要な「災害時の行政サービス」の優先順位は何か。 それは消防署・警察署などの実動部署の筈である。 これ等を現在の「海に近い立地」から 災害に少しでも安全で・・・固い地盤の地域に移すことである。 救護・施療施設も同様。 これが喫緊の課題であり これを看過するのは行政の怠慢。</p> <p>3. 市庁舎は現在地に於いて「相当程度の耐震性を確保した新庁舎に建替え・・・合理的な範囲の高層化」が正解であろう。 現在地の地盤は強固と理解している。</p> <p>① 災害に喘ぐ周辺在住市民の避難先としても活用できる。</p> <p>② 庁舎の合理的範囲での高層化は条例により特認すべし。これで「手狭論」も消える。</p> <p>③ 市は災害の不安から逃げ出すのではなく 積極的救援機能確保の目的に叶った「現存地で建</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>替えられる新市庁舎」に周辺市民と共に留まるべきである。 これにより市庁舎の「文化的象徴」の側面も確保され 古都鎌倉のイメージも効果的に存続し得る。</p> <p>④予算面で知恵を絞ることも当然。 然乍ら現存地での新庁舎建替え支出は少なくとも「捨て金」にはならない。</p> <p>⑤ 災害に安全とは言えない深沢の市有地を開発したければ・・・</p> <p>A) それは別の視点から開発計画を策定しては如何。</p> <p>B) 然乍ら 深沢でのスタジアム建設などの夢は果たして実現性があるのか疑問。</p> <p>4. 夢（上記の3-⑤-B）を追って市庁舎まで移転すると 移転費用は「捨て金」になり兼ねない。</p> <p>5. 深沢地区の「災害時に安全神話」が科学的論拠で履えたのなら それでも深沢移転構想を推進する背景に何があるのか？。矢張り人口重心地域主義偏重の物理的側面しか考えないのか？ それともほかに何かが・・・？</p>	(前ページの続き)
172	63	P4-3 、 p5-17 など	市本庁舎は、市のシンボルである、歴史的、地域的に見て現在の位置にあるべき。	
173	68		<p>鎌倉本庁舎移転について</p> <p>鎌倉市庁舎移転については当初津波があった場合に浸水により機能不全になるので移転すると市から懇談会時に説明がありました。</p> <p>しかし、県の調査報告により現在地より移転先の深沢の方が浸水地域で現在の場所はほとんど浸水がないとされているので移転の必要性が無くなった。</p> <p>要素</p> <p>①現在市庁舎は耐震工事も完了している</p> <p>②鎌倉の自然や歴史を感じるのには現在の場所の方が最適で、深沢は昔の鎌倉ではない。</p> <p>・鎌倉市は四国の黒潮町のように、まず市民の生命を守るために何をすべきか考える必要がある。</p> <p>・現在の市の津波が来た場合、高い所に逃げる以外何も考えていない。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<ul style="list-style-type: none"> ・材木座でも避難訓練終了後のアンケートでも高齢者は名越や一中に逃げるのは不可能という回答が多くみられる。 ・鎌倉市は意味のない市庁舎の移転に 150 億以上のお金を使うのであれば、まず第一に住民の命を守るために何ができるのかを考えるのが一番先と思います。 ・深沢はモノレールがあるものの、現在地と比較すると極めて不便 	(前ページの続き)
174	69		<p>もう一つ、コンパクトな市役所を目指しているなら、御成の現地でも考えられるのではないのかな？</p> <p>どうしても今の構想は納得いなくて 20 日迄に何としても一筆啓上したかった。</p> <p>かしこ</p> <p>乱文乱筆お許しの程。</p>	
175	70	P1-3 概要版 P2-3	1. 概要版 P2 の図には本庁舎が 2 つあるが、現サービスレベル(立地を含む)の維持、業務の高度化、効率化のためには、現立地への基幹業務の集約が必要。	
176	72		<p>鎌倉市役所本庁舎の深沢 J R 操車場跡地への移転について、反対します。理由は以下の通り。</p> <p>1、立地の災害時における危険性</p> <p>移転の理由とし災害時の安全性が掲げられていますが、以下の観点から当該土地は災害時の危険性を持っています。</p> <p>古来、柏尾川は暴れ川として知られています。そのため悪い龍が住むと伝えられ、龍の口、龍口寺といった地名の名もそのことに由来しています。これは、大雨の時に柏尾川の水が本流の境川への流入が滞り水嵩が増すバックウォーター現象を引き起こすことに原因があります。治水工事が行われたとは言え、大雨の時には柏尾川はしばしば決壊寸前まで増水することは市民はみな知っています。</p> <p>雨ばかりではなく、津波の遡上の危険性もあります。東日本大震災では、津波が海から 2 k m 以上川を遡る現象があちこちで見られました。南三陸町を鎌倉に例えれば、浄明寺あたりまで津波が来たこととなります。</p> <p>こうした大雨、津波の災害について、市の計画では非常に甘い見通ししか述べられておらず、計</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>画の根本を疑わざるを得ません。</p> <p>災害時に公共施設が救助活動の拠点となることは言うまでもありません。それは公共施設単体で成り立つものではなく、大型車が行き来できる道路で結ばれて機能するものです。深沢周辺の道路は、柏尾川の氾濫危険地域を通過しています。道路が寸断されれば計画されている新市庁舎も孤立し、救助活動など及びもつかなくなる恐れがあります。</p> <p>2、交通インフラの不備</p> <p>計画では本庁舎のみならずスタジアムや住宅等が計画されていますが、そこへ至る具体的な移動手段は示されていません。湘南モノレールは、通勤時は非常に混雑することを知っている市民は、沿線住民以外ではそう多くはないはずですが。またモノレールは高架のため、バリアフリーや輸送容量も既に限界と聞いています。東海道新駅といいますが、多くの市民にとっては何度もの乗り換えを要し、不便になります。以上の通り、深沢に市の施設を集中させることは多くの市民にとって障害となります。</p> <p>深沢の開発自体は必要ならあってもよいが、市庁舎の移転が必ずしも伴わなければならないものではありません。目先の経済とは別に、市庁舎は長いスパンで考えねばなりません。利便性、安全性を考えれば、市庁舎は大船の松竹撮影所跡、資生堂工場跡の方が適当だと思います。問題があれば、時間をかけて議論を深めていく努力が必要です。今の計画のように、目先のことばかりを考え、多くの市民の知らぬ間に進められてゆく市庁舎移転には賛成できません。</p>	(前ページの続き)
177	73		<p>基本構想に関して、そもそも嘘の情報に基づいて作られていて「基本構想に値しない」。正しい構想は正しい情報に基づかなければつくれません。</p> <p>小学生でも解る論理。</p> <p>白紙に戻して正確な情報による計画見直しをすべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現市役所は津波で50センチ浸水する。→敷地の一部で50センチ。 <p>深沢事業用地が0.5～4m浸水する浸水想定図が市民に指摘されるまで隠されていた。→市民指摘により昨年10月に公報かまくらで市長が謝罪。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液状化や地盤の軟弱さが隠蔽されている。 ・市議会の議決もしていない。(市民無視) 	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>等々全てが問題だらけで、ただただ、「市長が移転したいだけ」としか思えないずさんさ。コンサルタントを使い多額の税金を投入して、いかにもな資料を作成し市民に啓蒙していることはとても容認できない。</p> <p>鎌倉市の恥。再度正確な真実の情報にもとづいてやり直さなければ、市民や他の市町村に対して恥ずかしくないですか？</p> <p>基本構想と言う土台が腐っていれば、上に立つ者は簡単に崩れます。</p> <p>やり直すほかないでしょう。</p>	(前ページの続き)
178	77		<p>1,2 章通してわかるのは、現住地、深沢、ともにそれなりのリスクを抱えた土地だ、ということです。そんな中、なぜ敢えて移転する必要があるのかよく理解できないままです。</p> <p>5 章を読むと、とにもかくにも深沢を新しい再開発の拠点にしたい、という市長の願望がわかります。しかし、高齢化、少子化、の進む今、私が望むのは、市内のどこに住んでいても、大きな距離を移動しなくても、市民サービスが受けられ、相談に出かけることができ、災害の時に防災拠点が近くにある、ということ。まずはそういう小中の拠点を整備してほしい。</p> <p>第5章で深沢移転の際の交通についてのシミュレーションがあります。しかし、市役所に出かける市民の時間、交通費の検証はありません。商業施設が近くにあり、何かと出かける機会の多い現在地と、市役所に行くためだけにモノレール、バスを使わざるをえない市民の負担についても検証が必要です。</p> <p>窓口業務が近くにいるなら、役場まで行く機会は減るかもしれない。しかし、市民が見守るべき議会が遠くなるのは地域の民主主義にとって、とてもよくないと思います。</p> <p>まちづくりについて</p> <p>ここが意味不明、イメージカタカナ語の氾濫する章ですが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉拠点「フランド力向上」という言葉があります。 <p>私も、おそらくほかの市民も、落ち着いた暮らしを求めている、それは環境、縁の保全、歴史ある街並みの保全のことであって、フランド力を高めて金儲けしよう、ということではありません。歴史もみどりも金儲けの種、という思想が透けて見えてあさましいです。</p> <p>- 大船拠点について 「人口を支える活力としての拠点」というのは、ここで人口増を目指す、</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>という意味でしょうか。そのあとの数行は、産業を呼び込む、というように読めます。はっきり、具体的に書いてください。</p> <p>役所が書くのなら、どのような産業を呼び込むのか、まだ人口を増やすのなら、住宅政策、子育てなどの福祉政策を提示すべきでしょう。</p> <p>・深沢拠点について</p> <p>「新しいライフスタイル」「新たな価値」とは一体どういうスタイルでどういう価値なのでしょう？人間は通常、夜寝て、食事を日に三度とります。ライフスタイルなど、そう簡単に変えられません。気軽にカタカナを並べて、実質具体的なことを提示しないのは一体何なのでしょう。深沢に新駅ができて、商業施設を呼び込んで、お金を落としてくれたらいいな。市役所を持っていけば、そのお手伝いができる！と市長および市役所はお考えになったのでしょうか。しかし、それはこのまちが住宅地として発展した昭和の発想です。30年、40年後を考えたら、より現実的な、地に足のついた、施策を提案すべきです。東京、大阪のような大都市でもデパートが閉店する昨今です。</p> <p>一時代前のような大型商業施設に人が集まりにぎわう街づくりを夢見る市長に市民が巻き込まれ、市民の大切なお金がつき込まれるのはどうにも承服しかねます。</p>	(前ページの続き)
179	79		<p>素案読みました。深沢移転ありきで書かれています。あれだけの反対運動があったのに一言とも触れていません。市長、職員の傲岸不遜な市民無視の態度に怒りを感じます。</p> <p>深沢の問題点</p> <p>川沿いの元沼沢地ですから大量の杭を打つ費用を計上しなければなりません。多分数十億円でしょう。新コスト150億にはそれが入っていません。これを隠して公表するのは土木に無知な市民だから大丈夫だという馬鹿にした態度です。</p> <p>ではどうすべきか；</p> <p>新しくなるのは10年以上先でしょう。今のような集中行政の形態は消えつつあると考えます。デパートからコンビニに変わったのと同じです。分散すべきです。通信インフラは想像を絶する勢いで変貌していくでしょう。市職員が皆一つのビルで働く時代は終わりを告げるでしょう。空家を活かしそこに通信インフラを敷き、半分は自動もしくはロボットに任せる。残りの半</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>分は人の判断を必要とするもの/人が対面で話さなければならない事に対してのみ人を配置する。10年後の人口減少を考えれば壊せない大きな設備ではなくいつでも引き払える空家の改修で十分でしょう。これを30から40か所に設け人口の増減に応じて増減させればよい。議会だけは現在地に残せば良いと思います。</p> <p>10年、20年先の鎌倉は溢れかえる高齢者と若い外国人ワーカーが主たる構成員になるはずで。深沢に場所を設け元気な高齢者に外国人教育（日本語、日本文化）を任せれば良い。</p> <p>今日本が経済で遅れを取り、技術でも追いつかれつつあるのは企業家を育てる社会的環境が劣っているからです。深沢でこれを提供する。欧米の成功した企業家は皆ガレージのような小さい空間で思考し、物造り始め大企業にまで発展させました。そういう小さな空間の集合体を深沢整備地に創り全国の若者、若き外国人に提供したらどうでしょう。当初は赤字ですがいずれ大きな経済効果をもたらすはずで。</p> <p>商業施設、マンションで元を取ろうと言う発想は時代遅れです。辻堂、大船、東戸塚のモールと戦っても勝てません。何度も言いますが今立派で大きな構築物は数十年後は人口減と共に廃墟となり取り壊すことすらコストの面で出来なくなります。小さくしっかりしたものをたくさん作り、融通無碍に時代に対応可能とすべきです。 以上</p>	(前ページの続き)
180	80		<p>私は市役所本庁舎の移転に反対です。理由は下記のとおりです。</p> <p>①都市計画の問題</p> <p>鎌倉の中心市街地は市役所を中心にして発展してきた典型的なコンパクトシティです。</p> <p>長い年月をかけて積み重ねてきた行政、交通、商業業務、観光、宗教等の多機能な施設を集積し、非常に利便性が高く、賑わいのある中心市街地を形成しています。コンパクトシティの中心的存在である市役所が移転すればコンパクトシティの一角が崩れ都市は衰退へ向かうのではないかと危惧しています。市役所を中心部から郊外へ移転し、衰退した事例はたくさんあります。</p> <p>本庁移転の問題は集中都市核(コンパクトシティ)から分散都市核への都市計画上重要な方針変更です。鎌倉の都市計画は古都保存、緑地保存等、高く評価されています。本当に市役所を移転してよいか、将来に禍根を残さないように、もっと都市計画のメリット、デメリットを地道に検討する必要があると思います。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>②地方分権時代の市役所の役割の問題</p> <p>2000年に地方分権一括法が成立して20年が経過し、都市計画等地方分権はある程度進行していますが、いずれ地方分権が確立する時代が到来すると考えられます。その時市役所は今まで以上に市民生活にとって必要不可欠な重要な存在になります。ヨーロッパの地方分権は20年進んでいるといわれますが、どの都市でも市役所は市民に愛され都市の中心に存在しています。市役所と市民との関係はより親密になりますので、市役所が不便なところに移転すると地方分権時代に市役所の役割を果たせなくなります。市役所は移転せず市民と一体となって鎌倉独自の文化を築いてゆくことが期待されます。</p> <p>③人口減少、高齢化、市の財政の問題</p> <p>鎌倉の人口は年々減少し、高齢化も増加しています。市の統計によれば、人口は現在17万人が2060年には12万人に減少し、高齢化率は現在30%が2040年には40%になると推計されています。このような時に本庁舎を移転すれば、火に油を注ぐように衰退の道を進むこと間違いありません。また、市財政も年々税収は減少しており、老朽化した都市基盤の改修が必要であり、財政にそれほど余裕はないと思われます。市役所移転は莫大な費用がかかります。鎌倉市の一般会計は年間約600億円です。本庁舎移転に160億はかかるようですが、そのほかにも道路等の都市基盤整備、柏尾川の浸水対策費用、地盤改良事業、新駅設置の負担金等莫大な費用がかかり、市の素案どおりに実施すれば莫大な借財を残すことになるのではないかと心配です。詳細な経営計画書も公表してほしいと思っています。</p> <p>以上が、本庁舎移転に反対する主な理由です。</p> <p>④本庁舎を移転しない場合の対応策の意見</p> <p>市役所の機能は人口減少と共に縮小されるべきです。現在の市役所の業務のうち、民間でできることはできるかぎり廃止し、残った業務もできるだけ民間事業者やNPO等の外部機関へ業務委託をすすめ、市役所業務をスリムにし、削減すべきであると思います。現在の市役所の位置は市役所機能、生涯学習センター機能、図書館機能及びNPOセンター機能を十分まかなえる広さを持っていると思います。現在の庁舎を耐震補強し、駐車場を含めた空地に生涯学習センター等の機能を集約し、下層部を駐車場にし、上層部を事務機能にするのが現実的であり、コストのかからな</p>	(前ページの続き)

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>い方法であると思います。</p> <p>空間的にたりなければ、都市計画の用途地域を変更し、高層化し、防災機能を強化することもできます。市役所は市民の象徴的な存在ですからできることです。さらに将来的には、人口減少に伴う児童数、生徒数の減少状況を見つつ、小中学校の学区、統廃合を検討し、御成小学校を廃校にして、校舎等を利活用することも可能ではないかと思ひます。さらに深沢地区の計画では武田薬品、湘南鎌倉総合病院、藤沢市と協力して、医療関連の最先端産業拠点として整備することには賛成です。</p> <p>深沢地区の最大の弱点は周囲の道路が狭く弱く、陸の孤島になっていることです。地区計画のシンボル道路を柏尾川と JR 東海道線をまたぎ、横浜-藤沢道路と直結することが肝要であると思ひます。それさえ実現すれば事業は成功すると思ひます。</p>	(前ページの続き)
181	82	5-17	<p>そも、この少子高齢化の時代、交通不便な所に市の顔である市役所を移転するというに(そこに新しい街を造るということ)どうも市議会で十分な議論もなされぬまま、今迄既にどれほどの血税を使って来たのか。行政を含む市長は、そんな権限があるのでしょうか。広報の私物化はやめて下さい。移転ありきで(新駅まで)、余りにも非現実的です。</p> <p>本庁舎へのアクセス：モノレール or バスの職員の運賃はどれ程かかるのかそれも税金です。</p>	
182	83	2-1 2-10	<p>(3) 災害リスクの検討が間違っていること。</p> <p>素案では、鎌倉市ハザードマップをもとに本庁舎の敷地の大半が、明応型地震発生後に0・5メートル未満の津波にみまわれると記している。しかし、2015年3月に神奈川県が発表した新たな津波浸水想定図では、本庁舎は全く津波浸水の及ぶ可能性がないと判明した。第3分庁舎で、わずかに浸水が想定されるだけである。鎌倉市ハザードマップを根拠に本庁舎は、津波に対する脆弱性が高いので、整備(移転)すべきとした根拠が間違っている。つまり、現在の本庁舎は津波で被害を受けるので、災害発生時に司令塔としての機能を果たし得ないとした素案の根拠が間違っているのである。</p> <p>一方、本庁舎の整備予定地(移転先)の深沢整備事業用地の柏尾川による洪水浸水のリスクの検討は、被害を過小評価している。2018年1月に県が告示した境川水系洪水浸水想定区域図では、深沢整備事業用地で、想定しうる最大規模の降雨発生時に0・5から5メートルの洪水が発</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>生ずるとしている。しかるに、素案では、地質調査による検討が全く生かされていない。平成29年度村岡・深沢地区まちづくり実現方策検討調査業務では村岡地区の東海道線の脇の3カ所のボーリング調査をしており、「4メートル以下の深度でN値が30以上の結果となった」と記している。しかし、中高層建築物を建てるのなら、N値50が5メートル連続する層の存在を確認する必要がある。平成23年度深沢地区事業化推進検討業務では、6カ所のボーリング調査が行われ、10から15メートル付近から22から27メートル付近までの間にN値10にも満たない軟弱な地盤の存在が明らかになっている。また、平成27年3月発行の「e-かなマップ」では、本件本庁舎整備予定地のほとんどが「液状化の可能性が高い」とされている。これらのことから本庁舎整備予定地に中高層建築物を建てるには、長さ30メートルの支持杭を何十本も立てなければならないとの指摘が専門家からされている。にもかかわらず、素案には、このリスクの検討が全くない。地質調査に一切触れていない素案は問題である。</p> <p>(4) 土壌汚染に触れていないこと。</p> <p>市では、平成28年1月から3月にかけて、深沢地域事業用地土壌汚染対策処理等業務を実施している。それによると、深沢地域事業用地の北東側で大気浮遊物質の測定を行ったところ、1地点から土壌汚染対策法により環境省が示す指針値を超過した水銀が検出されている。さらに、土壌汚染対策法に規定されている土壌溶出量基準値を超過している汚染物質（フッ素、六価クロム、水銀）が、表層から0.55メートルの範囲で2地区、表層から1.00メートルの範囲で2地区から検出されている。また、平成24年12月から25年1月まで、深沢事業用地の東側の徳州会スポーツセンターならびにゲートボール場があった場所で、鉛ほか土壌汚染対策法により指定されている13の特定有害物質の指定基準超過の有無を調べたところ30メートル四方の4区画と10メートル四方の9区画で、溶出量指定値の最大2.6から5.1倍、含有量で指定基準値の最大3.2倍の値が検出されている。市では、土の入れ替えを行い、土壌汚染対策を講じたとしているが、対策工事後に第三者機関による測定等を行っていないため、現在汚染がなくなったのかどうか不明である。素案では、このことに全く触れていない。市民も多数出入りする本庁舎をここに造るのであれば、安全性を担保する必要がある。素案はこのことも検証が不十分であると言える。</p>	(前ページの続き)

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		5-17	<p>(5) アクセスの問題点がクリアされていないこと。</p> <p>素案では、「村岡新駅（仮称）」の設置にともない「村岡地区のネットワーク形成をはかる」としているが、県知事と2市長が参加する「村岡新駅（仮称） 設置協議会」は、地方自治法に定めた議会の議決も得ておらず、単なる任意団体にすぎない。新駅にかかる160億円の予算についても全く実現性のない絵にかいた餅にすぎない。</p> <p>湘南モノレールの利用についても、「時差－出勤により影響を回避する」と記しているが、利用客を過小評価している。路線バスによるアクセスも検討しているが、これも実態に則していない。</p>	(前ページの続き)
		5-15	<p>深沢事業地域への自動車、バイク等の乗り入れに関しても、「本庁舎の移転による周辺交差点への混雑の影響はないものと想定できます」とする素案の分析は、甘い予測であると考え。「混雑度は車両数を交差点北側で238台、南側で226台追加」と分析するが、この根拠が不明確である。不明確な車両台数をもとに「混雑度は1・0未満」と断定した素案は、科学的数値をもとに分析したデータとは言い難い。</p>	
		4-1	<p>(6) 本庁舎床面積の算定予測が間違っていること。</p> <p>素案では、新しい本庁舎の床面積を25,000平方メートルと予測して150億円の建設費を見積もっている。</p> <p>当初案より5,000平方メートルコンパクトにしたとしているが、これは人口17万人の都市の既存庁舎の床面積を基準にしたにすぎず、将来IT化がさらに進み、職員数の減少が見込めること、並びに在宅での仕事消化がみこめること（在宅オフィス化の推進）などを計算に入れておらず、床面積の更なる減少が期待できることを考えていない。新庁舎の床面積は、現在の本庁舎の面積よりさらに少ない面積で可能と言える。</p>	
		4-3	<p>(7) コスト計算力が甘いこと。</p> <p>前記の建設費を加えた本庁舎整備に関する事業費を素案は166億円と算出しているが、(3)</p>	
		5	<p>(4) に指摘したように、液状化に対応して30メートルの支持杭を何十本も打つ費用や、土壌汚染対策の費用等を計算に入れておらず、コスト計算が間違っている。</p> <p>鎌倉市では、本庁舎整備の予算の積み立てはわずか5億円しか毎年しておらず、財源が明確に</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
		3-9	<p>示されていない。国庫補助金はないにもかかわらず、「研究していく」と記した素案はおかしい。</p> <p>地方債に関しても、市民の債務になるのだから明確に毎年の利息等を示すべきであるにもかかわらず、一切触れていない。「基金、地方債及び国庫補助の不足分に、一般財源を充当します」と書いた素案は、市民にウソをついたものと言える。国庫補助は将来にわたり期待できないのであるから、事実を記載すべきである。</p> <p>(8) 本庁舎機能に災害対策を入れたことの疑問</p> <p>素案では、本庁舎に防災拠点機能を付与すると記している。しかし、災害時に深沢事業用地からでは、旧鎌倉市街地に入るアクセスが確保できず、防災の拠点として新しい本庁舎から職員を派遣することは極めて困難と予想できる。このリスクを書いていない素案はおかしい。また、支援物資が搬入される災害指定道路から離れた場所に新本庁舎は位置しており、この点からも、災害対策本部となり得ない。このことを検証すべきである。</p>	(前ページの続き)
		3-11	<p>(9) 公共施設再編計画のマイナス要因に言及していないこと。</p> <p>素案では、現在の分庁舎におかれている窓口業務はコンビニエンスストアが担い、図書館、生涯学習センター機能は「拠点校が担う」と記している。市民生活に重大な影響が出る公共施設再編計画に関して、きちんとリスクを分析していない素案は不十分なものと言わざるを得ない。「民間のノウハウを生かすため、民間機能の導入もしていきます」と素案は書いているが、どのように民間のノウハウを生かすのか具体的な分析が一切なく、あまりにおそまつである。</p> <p>以上述べたように、素案は一つ一つ市民の疑問に明確に答える内容になっておらず、きわめてざさんな内容である。これを撤回することを求める次第である。また、素案の作成業者には委託費の返還を求める。</p>	
183	86		<p>1. 基本構想に関する基本的な疑問</p> <p>(1) 本庁舎現在地での建設</p> <p>1) 本庁舎の改修という代替案の検討が必要</p> <p>本庁舎の構造は未だ耐震性は問題がないという報告があり、少しずつ補強することにより、構造を長持ちさせる案を検討する必要がある。未だ新設を急ぐ必要はない。</p> <p>2) 本庁舎を現在地で新築する案も検討すべきである。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>本庁舎の現在地では地震の際に浸水の恐れがあるという懸念は神奈川県公表（平成 30 年）のハザードマップにより消えたはずであるのに、現在地の立地を認めないのはおかしい。</p> <p>3) 本庁舎を現在地で新築するには、必要な建築面積がとれないということが言われているが、建築面積を縮小すればよい。コストも大幅に安くなる。まず現状の延べ床面積 14,000 m²で検討したらどうか。</p> <p>①A I 等合理化により必要面積は減る。 ②市の将来人口は減少するのは明らかである。 ③そのような背景で職員数が減らないのはおかしい。 ④駐車場の面積を減らすか、立体化する。</p> <p>4) 支所のネットワーク化。現在、本庁舎以外に腰越、深沢、大船、玉縄の支所があり、市民サービスに役立っている、これらの支所に適切な職能と権限を与え、本庁舎の負担を軽くすることができる。現構想では、腰越と玉縄の拠点化をやめて、深沢の機能を強化すると言うまったく逆の計画となっている。これでは住民に不便を強いることとなる。</p> <p>（2）深沢地区立地の問題点</p> <p>1) 深沢地区が前提のごとく計画が進んでいるが、何も知らない市民も多く、承認の手続きもとられていない。フィードバック回路もない。</p> <p>2) 深沢の地理的位置が市役所にふさわしくない。藤沢市との境界に近いいわば辺境の地である。鎌倉のチベットである。歴史的・文化的な背景もなく、市の玄関にふさわしくない。単に、洪水畔に浸水する、地震の際に液状化する大きな土地があると言うだけである。もともとは国鉄の土地であり、国民の土地であったので、真に市民のために使われるべき土地であり、金儲けにはふさわしくない。</p> <p>3) 民間商業施設と同時に開発を考えているようであるが、PPPやPFI等の横文字の手法に一気をつけなければ、日本の各地、世界の各地で失敗している轍を踏むことになる。</p> <p>4) 深沢地区には交通インフラがみじめなほど乏しい。湘南モノレールは朝のピーク時には容量を越えている。単線であるので容量を増やすこともできない。モノレール下の道路も朝のピーク時に渋滞している。拡幅等の改良も難しい。商業施設ができればそれらの交通も増加する。科学</p>	(前ページの続き)

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>的な交通の調査と予測・計画が不足している。</p> <p>2. 6つの基本計画要素のコメント</p> <p>鎌倉市公共施設再編計画 NEWS No. 25 に基づいて、コメントを述べる。</p> <p>(1) 現在の庁舎使用を基本として、耐震性を高める。 駐車場スペースを利用して低層とする。津波対策のために裏山へ避難通路を建設。観光客特に外国人へのリスクマネジメントを計画する必要がある。</p> <p>(2) 可能な限りコンパクトで、低廉な庁舎。 現在の予算 150 億円は建設費だが、建設費は昂騰を続けており、その他の費用も膨らんで2倍ほどになることを恐れる。規模を縮小すること。技術革新で職員数は減少。住民数の減少は避けられない。 一般会計予算 600 億円の自治体が 1,500 億円から 3,000 億円のプロジェクトをやろうとしているのは、無謀である。借金をして、次世代の財政負担としてはならない。華美で高価な建物・設備はいらない。その費用を他の予算にまわす。 土建屋だけが喜ぶものはいらない。</p> <p>(3) 鎌倉の自然や歴史を尊重するならば、本庁舎の位置は現在の鎌倉地区である。 文化、教育に関する先進的な機関、イベントの誘致。市庁舎のデザインもコンパクトで、伝統的な木造建築に挑戦してみてもどうか。</p> <p>(4) 民間資金の活用は失敗例も多く、決して推薦できない。 民間資金の導入でプロジェクトが肥大化することを恐れる。アウトソーシングが結局コスト肥大のもととなる。民間でテレワークをやるのはよいが、市役所職員がやる必要はない。</p> <p>(5) 市民に寄り添った対応ができることが条件であるならば、交通の便のよい、現在の鎌倉地区となる。 弱者に寄り添う市民サービスを心がけてほしい。高齢者から運転免許を取り上げるなら、その代替としての公共交通の整備が必要。バス、デマンドバス網の整備と補助。電動三輪車の補助等。</p> <p>(6) 誰にも利用しやすい庁舎が条件であるならば、位置は現在の鎌倉地区となる。</p>	(前ページの続き)

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			庁舎ばかりでなく、観光地においても多言語のインフォメーション機能が必要。多機能トイレの設置は必須である。	(前ページの続き)
184	87		<p>1) 本庁舎づくりのビジョン</p> <p>「多様化する市民のニーズ」への対応について、これまで「市民の要望」への対応がいかに遅かったか、「市」は先ず、よく反省する必要がある。私は、「本庁舎づくり」とは『市民への対応』と同義であり、【適切で早い対応 づくり】と考えます。この為には、従来の「一極集中」から『地域密着』に質・量とも更に進め、【地域拠点】を充実させる必要があります。現在の6地域と調整の為の会議機能としての中央庁舎を整備することです。少なくとも、「防災拠点機能」は6地域に持たせ、中央庁舎には必要ないと考えます。「消防本部機能」についても、『統合』ではなく、地域拠点に【分散】すべきです。それこそ、「地域活動支援機能・地域図書館・地域学習センター機能等」は、各地域拠点での充実を促進するべきで、統合など進めるべきではない。</p> <p>2) 本庁舎の在り方</p> <p>機能は、基本的に、【地域拠点】に分散する。市民生活が向上出来る情報発信等の基地として整備する。不便な所に移動せずに、市民が最も使い易い現庁舎位置に再構築すれば良い。</p> <p>3) 本庁舎の位置</p> <p>構想素案には、「深沢地区」に新設の意図が見えるが、市の都合だけで動いているようだが、【市民の合意】を得ていない中で、パブコメを求めて、市に都合の良いコメントを求めるのは、時代錯誤の動きと取られても仕方ない所。当該地は、自然災害や、汚染物質の存在など、未解決対策事項が依然として存在する。今後、これらの問題を先ず検証し、有効な対策を打つ事が先決と考えます。</p> <p>4) 新庁舎建設</p> <p>「機能充実」の大義名分のために、どれほどの費用を掛けるのか、『費用対効果』の検証を十分に実施した上での提案なら良いが、”素案”の中からは、【住みやすい鎌倉の将来像】が残念ながら、全く、見えて来ない。再考を求めるものです。</p> <p>以上</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
185	90		<p>本庁舎の深沢移転には反対です。現庁舎の場所で整備すべきです。</p> <p>「基本構想」では「深沢移転ありき」の論調が目立ち、現庁舎の建物と場所の問題点を無理に屁理屈をつけ、深沢移転に意識誘導しようとしているように見えます。深沢は地名が示す通り元は海だった沖積地で、地盤も悪く洪水の危険が現庁舎よりも高いのは誰でもわかることです。こんな資料を作らされた担当者も気の毒です。</p> <p>「深沢地域は人口重心が位置する」というのは、嘘もしくはこじつけです。地図で見ても市のはずれなのに誰がこんなことを信じますか？ 県や藤沢市を巻き込み「村岡新駅」とからめて開発しようとしています。あんなところに駅は要りません。いまだに「高度成長」や「日本列島改造論」の類の昭和の亡霊にとりつかれているとは、日本中の笑いものになります。財源の根拠もないのに餅の絵ばかり描いて無駄遣いをしたがるのは中央政府も同じですが、無責任もいいところです。</p>	(前ページの続き)
186	91		<p>市役所移転に反対です。現在地駐車場に建設した方が良く考えます。津波対策として、高層の市役所であれば、避難場所になります。旧市内の市民も避難できます。このまま移転では、旧市内の市民は置き去りです。対策として高層市役所建設を希望します。また、高齢化人口減少のなかコンパクトな市政にしていくべきです。予算はどこから捻出しますか。市民への負担がありますか？新駅建設費用も含め、内訳を明らかにしてください。予算の面からも移転でなく現在地建設で予算も減少できます。深沢地区開発は、別件として誘致したらいいです。川の遡上の可能性もあります。洪水もありうることです。適した場所ではありません。</p>	
187	92		<p>市役所移転に反対です。津波対策として現在地の駐車場に建設を希望します。旧市内に津波が来たとしても避難場所として高層市役所にすれば旧市内住民も避難することができます。今のままでは市民は何の対策もされずに流されるだけです。一般住民は、風致地区で高層はたてられません。遠くに行けない高齢者も避難できます。深沢地区は、津波の遡上、洪水の可能性があり、適地とは、言い難いです。近辺は、近年冠水しましたね。今後も人口減少、高齢化で市政もコンパクトにすべきなのに、移転で費用がかさみます。新駅の負担金や建設費は、どこから予算を捻出しますか。深沢地区は、別件として誘致して行けばいいです。深沢地区には、モールを作るなら、その中に分館を作ればいいです。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
188	94		<p>1) 建設場所は現在地に建て替える</p> <p>2) 仮庁舎は現在の自動車置場を利用する</p> <p>3) 現在の庁舎を撤去してその所へ地上 10 階地下 2 階の鉄骨鉄筋構造で建設する</p> <p>4) 各階の使用方法</p> <p>8 階（1～8）は市が計画する通常業務機能のできる階とし</p> <p>地下一階は消防本部関連の階</p> <p>地下二階は各階関連の設備の集約場所</p> <p>5) 9 階 10 階は災害時非常時に使用可能な空間の階として多目的階とする</p> <p>6) 屋上にはヘリコプターの発着設備を造る</p> <p>7) 建設費用について</p> <p>新庁舎を深沢建設をしないので、村岡新駅には鎌倉市は賛同しない、よってその費用を一部流用する。</p> <p>庁舎建て替えに少しは有利となる。</p>	(前ページの続き)
189	96		<p>本編 4-2 建設費と財源の想定では「財源」として「想定される種類」、までしか検討されていません。市の財政への影響についての検討がないのでコメントのしようがありません。本来、移転先や庁舎の機能を決定する前に検討すべき事項ではないでしょうか？鎌倉は現状ですら上記のような財政状況ですから、市庁舎移転には反対です。</p>	
190	98		<p>本庁舎は現在の御成町のままだがよい。</p> <p>大変なお金を掛けてわざわざ不便なところに移転することには反対です。</p>	
191	99		<p>不便な場所への移転は反対です。</p>	
192	101	P2-1	<p>現在地で通常業務をしながら空いている場所に建築する</p> <p>駅に近く鎌倉市の中心である深沢は大きな川のすぐそばで藤沢市と同じ有害物質のあった低湿地帯です。</p> <p>市役所に災害リスクがあるなら市民は全滅です。自分たちだけ安全なところへ逃げないで下さい。</p>	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
193	103	第2章 第3章 第4章 第5章 まとめて	<p>① 災害リスクは読めば読むほど疑問が膨らみついていけない。事実を明らかにして再出発すべき。</p> <p>② 災害リスクから見ると、深沢は危なくないので、鎌倉の街を変えてしまう本庁舎機能の集中、そこに新市街地を作り、新駅まで設ける市担当者の説明に、これまで多くの時間と公費を使ってすすめられたが、この企画に、何故多くの市民が乗ってこないのだろうか。</p> <p>現在地と深沢の災害リスクの説明に、多くの市民は疑問を感じ、納得していない。</p> <p>市の担当者が描く鎌倉の将来の絵に不安を感じ、市民は燃えないどころか怒りがくすぶる。</p> <p>③ 災害リスクが現在地に比べ心配がないという深沢には、広い土地があるのだから、運動場や災害時の物資置き場等面積が必要な物を設置し、深沢地域のセンターにしたらよい。消防署も体育館も、作ればよいが、鎌倉の地形と、極端に道路が発達していない鎌倉市には5地域に、市役所機能、消防署、体育館、文化施設機能、福祉施設機能が完備され、本庁舎は簡素で市民が使いやすい鎌倉駅、大船駅周辺にあるのが常識で、深沢に持って行くのは災害、土地構造、交通について考えても、無理がある。</p> <p>④、「いざ災害時」に機能を果たさないのは災害から72時間誰の援助もなく住民が助け合うための機能は5地域に存在しなければ、命を救うことはできない。激震、津波、大規模災害時に直接現地で体験した者から見れば、深沢に向かう道はいくら整備しても不可能で、通信機器による災害本部を設けたいなら、受信発信基地として存在すればよい。実際は5地区のセンターが実態的災害拠点になる。</p> <p>深沢に広い立派な体育館を建てても、災害時避難場所にはなれず、平常時に立派なスポーツ大会ができる場でしかない。又は全国から集まる物資の一次置き場になるくらいだが、そこから鎌倉他の4地域に運搬するのも大変なことだ。</p> <p>5地域に体育設備を作り、公立校の体育館とプールとともに避難所、平時は地域住民の健康寿命を保障する場、文化・スポーツ交流の場と機能する場所づくりこそ市民の生きる力になる。</p> <p>⑤「土地の履歴書」が、災害時に生死を分けることは、ご存知だろうか。深沢に巨額な資金を投入して立派な本庁舎を建て人口減少鎌倉市の高級住宅地建設の地層改造までできず、各地の僅かな一例を見ると、阪神淡路震災の高機能最先端神戸市民病院の液状化、中国地方の風水害によ</p>	(前ページの続き)

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>る地域の壊滅、東日本地震の浦安市、久喜市にいたる液状化をあげるまでもなく、道の左右で盛土、切り土の明暗を分けた事実は、災害に実際直面したものは、自分の近くで体験している。杭打ち、盛土でバラ色の住宅地に続く本庁舎、他の公共施設、新住宅街の建設はありえない。もっと、鎌倉に生きる海岸部～内陸部に生きる住民の生命、財産、福祉を守る地方自治の本旨に戻って鑑みれば、新駅まで提案してバラ色の深沢新市街地の夢を、莫大な投資でゼネコンに依拠する計画は捨て、5 地域が共同して必要な物を老朽化に対応しながら再構築した方が、市役所は住民とともに夢を描き信頼関係を作り、災害に強く、歴史を守り、生活を生かすまちづくりになるのではないか。</p> <p>⑥ 開発は自然に謙虚でなければならない。</p> <p>⑦ 近現代の歴史建造物は、遺跡しか残っていない鎌倉にとって、どちらの保存も大事で、それらは今生きている住民の福祉と共存が必要だ。5 地域にはそれぞれの歴史があり、市是となる平和都市宣言と市民憲章はお飾りでなく、今のテーマを述べている。</p> <p>⑧ 市長室、議会棟含む本庁舎が災害時司令塔になること以外はない。交通困難な鎌倉の地形から5 地域の市役所機能の充実こそ求められる。コンパクトな新市庁舎と書いているが、コンパクトな5 地域市役所機能を策定し、市内どこに住もうと同じ福祉と生活が保障される、高齢化と子どもたちと働く大人の街を描いたらどうか。</p> <p>⑨ 各学校は子どもの学ぶ場とともに校区内住民の命を守る場として長寿命化、冷暖房、トイレの現代的改修、施設の改善と建物の耐震化、デイケア、福祉施設の5 地域での充実が災害で力を発揮する。温水プールは障害を持つ市民の大切な場(他市の経験をご存知か)、そこに共同する市民と子どもの姿を全国から学んではどうか。未病は測定だけではない。</p> <p>⑩ 津波の来ない激震だけでも、市内の診療所、病院の耐震化が進んでいるかどうか、住民の命を守る。それがないと薬品庫の崩壊、診療不可能が続出し助かる命をなくし、手当てができない現実が災害時にはある。体験者の話を聞いて下さい。</p> <p>⑪ 市内にセンターとなる芸術、図書、文化、福祉施設の設置は深く考え、場所の設定は重要だ。</p> <p>⑫ 同時に5 地域に必ず設置が必要な行政、文化、図書、体育、集会、福祉施設をどう設けるか、十分に各地域で意見を聞き、設置すれば、本庁舎は小さくなくても運営できる。</p>	(前ページの続き)

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
194	106		本庁舎を移転する理由について、移転先の土地の安全性について疑問があります。また、現在の庁舎の補修や改修によっての問題の解決について、その可能性についての検討が不十分だと思います。	(前ページの続き)
195	108		基本構想について そもそも2つの局舎を建てること自体に問題あり。 これからの高齢化社会を展望すれば、如何に負担を少なくしていくか考えることが喫緊の課題であると思う。 2つの建物の費用、維持費など後世に負担を負わせるべきではない。 良いことばかり並べているが、本局が不便な所に行くのも高齢者にとって大きな問題であろう。 将来をきちんと考えて今やるべきことは何か基本に帰って検討していただきたい。	
196	110		市役所移転についての反対意見を述べさせていただきます。 市民としては充分納得のいく説明を聞く機会すらありませんでした。 市議の話やレポートなどから情報を得ましたが私たちが意見を述べる機会がありません。 市からの情報も一方的なら、パブコメも又一方通行です。 市役所は市民にとって非常に大事な場所です。市民に聞かずして市長主導で決定する事に、他の意図を感じざるを得ません。誰のトクになるのでしょうか。少なくとも市民ではありません。地震対策、津波対策という理由は、既に理由にならないことが判明しています。 高齢化の最先端に行く鎌倉で、市役所が JR の駅近くから移転するのは狂気の沙汰と言ってもいいでしょう。 出来るかどうか分からない村岡新駅を前提には市民は納得できません。 常に財政難を聞かされている鎌倉市民としては、この財源が、いくらで何処にあるのか。その出費と行政への影響は、納税者として私たちに示して頂かなくては、これも納得がいきません。 丁寧な説明と、双方向の意見交換を望みます。	
197	115		1. 市役所は鎌倉駅近くにあってほしい 市役所は市を象徴する存在であり、行政と市民の窓口となる場所と捉えております。鎌倉市民の一人として「市役所は鎌倉駅近くにあってほしい」という思いがあります。	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
198	116	全ページ	<p>深沢への移転が既成事実であるかのような前提から作られた今回の素案であり、一市民として案自体に納得できない。</p> <p>今回の素案は市側の一方的な意見・希望であり、市民の合意が得られたものではない。市の予算、すなわち税金を使用し広報などで市側の一方的な意見を市民に押し付けており納得できない。深沢への移転ありきで計画がどんどん進められていくことに危惧する。きちんと市民の声を聞いて欲しい。これから鎌倉市も人口減少、これによる市職員の減少も見込まれる。大きな入れ物は不要であり、大きな入れ物のための移転も不要である。</p> <p>深沢の再開発ではなく、現在の場所を生かし、鎌倉の歴史・文化を大切にしたい。庁舎の整備を行って欲しい。なお、素案には災害時の観光客保護の視点が無いが、どのように対処するのか？</p>	(前ページの続き)
199	120		<p>老朽化による防災拠点としての脆弱性から、建て替えについてはやむを得ないと考えますが、村岡新駅の設置を含む、深沢 JR 跡地への本庁舎移転については反対します。</p> <p>年 2 回納税のため深沢支所を利用しますが毎回市職員の暇そうな姿を目にします。鎌倉市職員数は現在の半分以下で十分なのではないのでしょうか？</p> <p>新本庁舎は 5000 m² 縮小されるとのことですが、職員数を縮小し更にコンパクトにして下さい。鎌倉市は観光以外の新たな産業に乏しいですし、人口が大幅に増える見込みもありません。なので本庁舎もコンパクトで充分です。</p> <p>まずは市職員の半減、コンパクトな本庁舎を今建っている場所山側に土台をかさ上げし建て替える(高層化も可)。これが本庁舎整備に対する私の意見です。</p>	
200	122		<p>市役所本庁舎の移転の話を聞き、旧 JR 用地が候補地であると知った。しかしあの場所は市の中心から大きくはずれ、数百メートル先は藤沢市である。市民が役所に行く時は、交通機関は JR 大船駅から湘南モノレールかバスになり、大変不便になる。市役所を中心として交通網の整備が必要となる。現支所を活用させ、必要なら増設しても良いのではないか。最近まで聞いていた玉縄支所、腰越支所の縮小か廃止は撤回し、逆に規模拡大すべきだ。</p>	

【その他の意見】

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
201	13		<p>⑥ 湘南モノレール・湘南深澤駅の改築</p> <p>市役所アクセス用交通機関のひとつとなる同駅は、現時点で狭いホームと階段のみの駅舎であり、子連れの主婦や高齢者が乗降できる実体に無い。敷地の一部をモノレール駅舎に提供し、駅舎から直接市役所エントランスに直結するデッキ、通路、昇降エレベーター・エスカレーターを備えた駅前広場の新設を考慮されたい。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、担当部署と情報共有させていただくとともに、モノレールに関するご意見につきましては、湘南モノレール株式会社と協議してまいります。</p>
202	44	3-1～ 5-17①	<p>全敷地のブロック分け段階のため、今のところは評価できません。</p> <p>各施設の概略配置が決まった段階でないとコメントはできません。</p> <p>さらに進捗しないと、評価しにくいです。</p> <p>モノレールのプラットホームが狭小のためホームドアなどが無いと危険です。視覚障害者への対応が急務です。</p>	<p>本庁舎の整備に当たっては、深沢地域整備事業（土地区画整理事業）の担当部署と連携を図りながら取り組んでいます。いただいたご意見を踏まえ、事業進捗にあわせて、より一層の周知に努めます。</p> <p>また、モノレールのプラットホームに関するご意見につきましては、湘南モノレール株式会社と協議してまいります。</p>
203	75		<p>本庁舎等整備基本構想に関連して、藤沢市村岡に JR の駅誘致に鎌倉市が税金にて負担する事に反対致します。</p> <p>仮に本庁舎が深沢に移転することになった場合でも、市民の利用交通手段は、大船からモノレール、江ノ島や西鎌倉からモノレールで深沢駅に行く、またはバスの利用が便利なので、あまりメリットの無い駅誘致に税金を投入して欲しく有りません。</p> <p>また、橋建設にも税金を使って欲しく有りません。</p> <p>ゴミ処理も自分達で出したゴミは自市内で処理するのが当たり前の事です。こちらに税金を投入することが先決と思います。</p>	<p>村岡新駅（仮称）については、現時点で想定し得る状況を担当部署から聞き取り、記載しています。</p> <p>また、いただいたご意見につきましては、担当部署と情報共有いたします。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
204	76	第5章 本庁舎等 整備とま ちづくり 5-11~15 深沢地域 へのアク セスを含 む交通手 段につい て	<p>1. 村岡新駅の設置が既定条件に組み込まれていることが大きな問題と考えます。 新駅設置に関しては、反対です。市役所新設に加え新たに鎌倉市の財政負担が将来にわたり課せられること、市民に将来的に負の遺産になることの懸念と市民の合意が得られているのか疑問。 多額の投資をするだけ市民にそれほど利益が及ばない。 村岡新駅の建設問題は切り離していただきたい。 本庁舎整備に関連して市民サービスや市民活動の場の拡充を求めている市民として、集約化を懸念する。市民活動の場が近隣の自治体に比べても少ない。市民活動団体は、他市に比べても多いと聞いている。集約化ではなく地域分散型を希望する。一方でコンビニでの住民票等の発行を推進するとしているが、マイナンバーの提示が条件、このことにも異議がある。 蛇足ながら、このままだと災害等の問題が残るが、ではなぜ由比ガ浜地域に複数の公共施設を建設したのか、疑問を持った。 以上</p>	<p>村岡新駅（仮称）については、現時点で想定し得る状況を担当部署から聞き取り、記載しています。 また、本庁舎整備により、市民活動の場を集約化することは考えておりません。新たな本庁舎には市民活動スペースを設け、各地域の行政センター（地域拠点校）等との連携を更に強め、市民同士がつながる市民活動のネットワーク化を目指します。</p>
205	38		新駅構想も何の意味もなく白紙にするべきである	<p>村岡新駅（仮称）については、現時点で想定し得る状況を担当部署から聞き取り、記載しています。</p>
206	101	P5-17	まちづくり 村岡新駅にも税負担はしないで下さい。	
207	104	第5章よ り頁 2-17	<p>ここでは、「本庁舎へのアクセス」として村岡新駅について期待しているが実現に疑問が</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東海道本線の藤沢と大船約 4.5km のところに新駅を設けると、1.5 分程度余分に輸送時間が増えて、ラッシュ時の輸送力が低下する。 2. 輸送を維持するためには、車両を投入しなくてはならない。朝のラッシュ 7 時～8 時に 6～7 両必要になる。 3. JR は乗車数を集計しているが、予測数で納得できる？ 	
208	105		・村岡新駅にはちょっとしか触れていないが、初めから市庁舎移転とセットに深沢地区を開発しようという意図が感じられる。	
209	115		5. 村岡新駅（仮称）を基本構想（素案）に記載するのはいかがなものでしょうか 新駅設置は鎌倉市だけでどうこうできる話ではないはず。良さそうに見える未確定の話を鎌倉市役所移転の基本構想（素案）に並べるのは「取らぬ狸の皮算用」ではないでしょうか？	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
210	21		蛇足ながら、周辺のマンションや一般住宅に「節度を持った建築デザインをお願いします」ことも地味ですがすべきと思います。 その為には、市として「こうしたい」なる「グランドデザイン」が必要ですが。	本庁舎の整備に当たっては、深沢地域整備事業（土地区画整理事業）の担当部署と連携を図りながら取り組んでいます。いただいたご意見につきましては、担当部署と情報共有いたします。
211	33		湘南Tサイトのような文化的でスマートな施設が併設されると嬉しい。さらに映画館も併設されると嬉しい。 建築家槇文彦氏がアーバンデザインを手掛けた金沢シーサイドタウン並木団地のように、深沢再開発地域全体も含めて専門家にデザインを依頼してみれば素敵な街並みになりそう。	
212	51		「防災」——浸水想定地域なのに深沢の地域事情を考察検討されていない。いわゆる、一般の防災に関しての浅い検討しかされていない防災部会。「ハードの防災は無理なので、ソフト。個人で貯水池を作る。自治会が協働して洪水の度に逃げる」などが防災対策という防災部会の結論だが、こんなあやうい都市計画にトータル税金約1000億投入していいのか。補助金が出ると言うが、未定の上、補助金も税金ということをお忘れしている。 (1-1～6) 「深沢まちづくり推進委員会」-市の意見以外は無視。 ○市の素案以外のコンセプトは無視。 ○「ウエルネス」なのに、まちのシンボルが「道路と橋」という矛盾。森の中を歩いて道ができる方がコンセプトに合う。などの意見は無視。「いわゆる箱もの開発」。災害の多い時代に、地域の特性を無視した箱もの開発は「持続可能なまちづくり」ではない。 ○「マンション建設には不適切な地盤」「洪水情報」を真剣に検討しないで、机上でまち作りが計画されている。 (以下再掲載) 結論—市役所移転は反対。 ○再度の「正確なデータによる比較検討」を望む。 ○深沢事業用地は、まちの事情に合ったまちづくり、ウエルネスな親水公園やグランド、広い防災拠点、などの検討を希望。 ○持続可能なまちづくりには河川や自然を生かしたまちづくりが提唱されている。	

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
213	107	3-2	・ なき塔遺跡、陣出遺跡の詳細な発掘調査が必要	(前ページの続き)
214	78		<p>深沢地域整備と湘南深沢新駅・市庁舎移転について</p> <p>深沢地区を外から見ると広大な土地を有効活用したいとは誰しも思うことだろう。</p> <p>1. しかし、このあたりで行われているような駅舎にルミネのようなショッピングモール、周辺にも大型商業施設、周辺には雑多な商店街そして集合住宅、狭小な個人住宅と言った日本のどこにでもある駅前の様相にはしたくない。古都鎌倉にふさわしい伝統と誰でもが住みたくなる、自然環境の良さとモダンを組み合わせたい町づくりを提案したい。</p> <p>2. この先百年単位で、再生可能社会にしていくために、時代の変遷があっても魅力的な町並みを作りたい。大規模な土地がある今、そうした構想が可能なチャンスだ。市の構想にざっと目を通すと心配な点がある。</p> <p>3. まず人々が日々安全、安心、快適に暮らせる土台が必要だ。聞くところによると雨が降ると水たまりが出来るそうだ。市庁舎だけ土盛りしただけでは済まない、その周辺をピロテーや駐車場にするが、他の自治体でよく見かけるように、地下に貯水槽をもうけて近くの柏尾川の治水とも共用できる施設を作るべきだろう。災害時の避難場所としても必要なことだ。</p> <p>4. 高層の集合住宅を建てるそうだがこれは絶対やめてもらいたい。日本人の住宅は狭小で、この先、人口減も起こる。すでに空き家が増えその処理に困っている。住環境の向上を目指し、ゆとりのある戸建て住宅と2階程度の低層にすべきだ。</p> <p>5. ウェルネス施設を作るのは結構だが、温浴温水プールにマシントレーニングでなく自然な林間コース、様々なスポーツに対応できるアリーナを設け市民の健康増進・体力増進に役立てたい。ここで、普通はごみ処理施設を併設しその排熱を利用するのが正しい方法だ。山崎のプールを利用していたが水質が悪く、嫌になった。民間に任せると利益を出そうとして水替えをけちる傾向がある。</p> <p>6. 「未病の改善」や「ヘルスケア・ニューフロンテア」等は藤沢側にあるので鎌倉には要らない。</p> <p>7. 災害があった場合の避難施設を作るのは結構だが、日頃使いながら転用できることが大切だ。</p> <p>8. 市長は焼却施設を持たないで燃やすごみは処理費を払って市外で焼却すると言っているが、地方自治の倫理（「鎌倉はそんなに偉いのか」との声が上がっている）。と市外の自治体に頼る不安</p>	<p>本庁舎の整備に当たっては、深沢地域整備事業（土地区画整理事業）と連携を図りながら取り組んでいきます。</p> <p>いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p> <p>(参考) 深沢地域整備事業において、必要な規模の雨水貯留機能の整備を計画するなど、洪水浸水対策について検討しています。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			定さは否めない。実際、逗子市・葉山町との合意は出来ていない。運搬車の走行が増え交通渋滞やCO2の増加がさげられない。と言うことで5と併せて最新式の機能を備えた必要最小限の大きさで住民の納得のいくつまり、市役所の隣で、付近への環境配慮があり、市民の意識改革を含めた話し合いを通じて処理施設を作って欲しい。	(前ページの続き)
215	80		JR 東海道線の新駅設置に努力され、実現されることを期待しています。JR より買収された用地は基盤整備のうえ、医療関連の最先端産業を誘致するとともに、バイオ関連のインキュベーター機能の育成、援助が鎌倉市の役割であると思います。 本庁舎の移転は必ずしも必要ではないと思います。本庁舎移転がなくても成功すると思います。以上悪文悪筆で読みづらいかと存じますが、取り急ぎ意見書を提出します。悪しからず。	いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。
216	81	1-6 5-6 5-17②	都市マスタープランでは、市庁舎深沢移転や村岡新駅設置は具体的な計画として盛り込まれていない。本庁舎等を独立した検討事項とするだけでなく、再度都市マスタープラン的な都市総合計画の中で検討してほしい。特に村岡新駅藤沢市側の湘南アイパークは国、県のバックアップを得て民主導型の展開が急速に進んで、すでに武田薬品の色彩は軽減されて、40社以上のベンチャーから医薬事業メーカーがテナントとして集結しているが、黒岩県知事のプレゼンでは、湘南アイパークを核に村岡・深沢地区をヘルスイノベーションの最先端拠点へ、として鎌倉市深沢地区とのリンクが強く意識されている。鎌倉市としても医療福祉、未病対応の先端産業の育成・強化、交通基盤の整備による藤沢市側との連携等鎌倉市の将来産業育成計画も本庁舎計画に含めて検討を急いでほしい。 人とまちのヘルシーエイジング、鎌倉深沢ウェルネススクエアの実現は鎌倉市の産業育成の面からも好ましいものであるが、国と県が推進する湘南アイパーク構想とリンクして鎌倉側の事業計画（大学研究所の誘致、ベンチャー会社の育成等）も急いで具現化する必要がある。 本庁舎移転に合わせて、従来検討不備であった玉縄地区の交通問題を鎌倉市交通問題検討会等に取り上げてほしい。委員会メンバーに神奈中バスが入っていないことや市民委員も玉縄地区を考えるメンバーを強化してほしい。鎌倉の交通問題は鎌倉地域の渋滞だけでなく、免許返上高齢者の代替公共交通問題が急速にクローズアップされる次期が迫っている。	本庁舎については、『鎌倉市公的不動産利活用推進方針(平成30年3月策定)』において、『鎌倉市都市マスタープラン』も踏まえ、検討してきています。 いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
217	93		<p>## 2. 保存する文書の電子化と倉庫面積の縮小について (3-3-2-2)</p> <p>「3-3:本庁舎に導入する機能-2:本庁舎機能の基本的な考え方-2:事務機能」において、「文書の電子化等による文書量のスリム化に伴う倉庫面積の省スペース化」という記述がある。しかし一般に言われるように、電子文書は紙やマイクロフィルムなどと比較すると保存媒体自体の寿命が限られることや、電子文書のほとんどは特定のソフトウェアやハードウェアに依存しているため文書の寿命は IT 市場に左右され、古い電子文書が読み出せなくなる可能性があるなどをはじめとした様々な問題が存在している。もちろん、どこからでもいつでも簡単にアクセスし利用できる文書の増加という電子化による利点は、非常に魅力的で、市民として切実に欲するものである。しかし安易に導入すれば、倉庫面積は減ったが管理費は増えたという本末転倒な事態になりかねないのではとも思う。「基本計画の策定や基本設計等の機会に具体的な検討を行います」と記載されているように今後具体化される項目であり素案に記載の必要はないと思うが、市の公文書管理の全体から見た効果的な文書の電子化を進めるための検討が、どの部署によりどのような計画で進められていくのかを知りたい。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>
218	97	5-1	<p>アイパーク等の深沢開発は良いが、まちづくりは、自然発生的にできるような気もする。鎌倉市は出来るだけ節約して下さい。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>
219	112	3-11	<p>公共施設再編計画においては、「深沢行政センターの機能のうち、窓口機能は本庁舎やコンビニエンスストア等が、地域活動支援機能、図書館、学習センター機能は地域拠点校がそれぞれ担う」とされているところ、地域拠点校への将来的な集約化が考えられていた機能についても、本庁舎整備にあわせた導入を検討するということが記載されている。</p> <p>「本庁舎のありたい姿」について話し合ってもらったりアンケート調査を行ったりすれば、様々な機能への要望が出るのは当然であるが、一方で「コンパクトで効率的な本庁舎」という方針を掲げるのであれば、それと矛盾しないようにはかるべきである。</p> <p>深沢行政センターの老朽化対策については考えなくてはならないが、深沢地域だけ先行して施設整備計画を進めることが、市域全体の公共施設再編のバランスを崩すことにならないように留意するべきだ。少なくとも中央図書館を御成現在地に整備する構想が具体化する前に、深沢の地域</p>	<p>本庁舎の整備により、市民サービスの低下を招かぬよう、基本方針「⑤市民に寄り添った対応ができる本庁舎」(P.14)を踏まえ、地域のまちづくりとの連携を考慮しながら進めていきます。また、『鎌倉市公共施設再編計画(平成27年3月策定)』では、各地域の支所にある地域活動支援機能を地域拠点校に、戸籍等証明書の</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			館の本庁舎移設計画を立案することはない。	交付やその他の窓口機能は本庁舎などに集約することとしており、すでに一部の証明書（住民票と印鑑登録証明書の写し）については、コンビニエンスストアでの交付に取り組んでいます。行政サービス機能は、新たな本庁舎のほか、大船地域や鎌倉地域の現在地で確保していきます（第5章）。
220	64	全体として 5-5	<ul style="list-style-type: none"> この基本構想の冊子を読んでも市民には理解できない。市民からどんな意見を聞きたいのか全くわからない。もっと市民のニーズ調査や市民が生活上どんなことに困難を抱えているのかを調査してほしい。その上で、解決するためにどんな施策が必要なのかを考え実行してほしい。 各行政区毎に市役所機能の充実をしてほしい。高齢化する鎌倉市は今後、歩いて行ける場所に市民の必要な機能を充実させないと、交通手段のない高齢者にとって、深沢地域に立派な建物ができて利用できない地域はどうなるのか心配。免許返納をすすめるためにも方針変更を望む。 	<p>今回のパブリックコメントは、新たな本庁舎の移転整備を進めるに当たって、本市が目指す庁舎像（本庁舎のあるべき姿）を明らかにするなど、基本となる方向性を定めた基本構想（素案）について、市民の皆さんからのご意見を募集したものです。</p> <p>現在の本庁舎は、すでに築50年が経過し、老朽化が進んでおり、防災拠点としての機能不十分、執務スペースの不足による市民サービスの低下などの課題を抱えていることから、様々な視点から検討した結果、深沢地域整備事業用地へ移転して整備することとしました。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				<p>本庁舎の移転整備により、市民サービスの低下を招かぬよう、基本方針「⑤市民に寄り添った対応ができる本庁舎」(P.14)を踏まえ、地域のまちづくりとの連携を考慮しながら進めていきます。また、『鎌倉市公共施設再編計画(平成27年3月策定)』では、各地域の支所にある地域活動支援機能を地域拠点校に、戸籍等証明書の交付やその他の窓口機能は本庁舎などに集約することとしており、すでに一部の証明書(住民票と印鑑登録証明書の写し)については、コンビニエンスストアでの交付に取り組んでいます。行政サービス機能は、新たな本庁舎のほか、大船地域や鎌倉地域の現在地で確保していきます(第5章)。</p>
221	38		<p>ゴミ焼却場は将来的にも鎌倉市の責任で早期に場所を市内のいずれかに決定し推進しなくてはならない 新庁舎として候補に上がった深沢の場所に消防本部やゴミ焼却場を建設する考えもあると思いますがいかがですか 市民あつての行政と考えます</p>	<p>本庁舎の移転先となる深沢地域整備事業用地においては、消防本部や総合体育館、グラウンドの整備も予定しています。いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
222	40		<p>★その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 山崎のゴミ処理場建設が延長された理由が市民としては煙に巻かれているように捉えています。 観光客が増加し、ゴミが増加。トイレを解放しているコンビニやスーパーのトイレもゴミだらけになる(今年のGW)せめて、解放している民間企業も清掃の負担が大きいです。(よって、一部の民間店舗は全面使用禁止になり、住民が不便な思いをする)助成金等の公募で民間企業へもゴミ対策の扶助をしないと、各店舗の業務負担が大きいです。親切心が仇になる結果はこれ以上、市民として見たくないです。 住民のゴミ出しも、仕事と両立することは大変です。分別をキチンとしないで不法投棄していく住民も後を絶たず。私のマンションの管理人さんが「誰が出したか不明」というだけで、業務負担が多くなる、悪循環を招いています。私自身もゴミの削減をしないと、都内から疲れた身体に帰宅してからのゴミ出しは心身疲弊しています。回収業者も疲弊しています。山崎が出来るまでの辛抱と、三年前に市役所の担当から言われましたが、辛抱した結果が延期では、暮らしにくいです。 山崎のゴミ処理場建設延期の理由は本庁舎をどうしても深沢へ建てたいという市長の一存だけの為ですか？予算確保の問題ですか？このまま山崎の空地は今後はどうするのでしょうか？住民が60%削減してくれたから、とって甘えないで頂きたいです！ <p>現在、鎌倉市旧市街地では交通事故(特にひき逃げ、観光客含む)も多発しています。子供達、住民が安心安全に暮らせるように、道路へのカメラの設置や事故予防策の実装。ゴミ出しの負担軽減。住民・業者の負担軽減の実装。</p> <p>等々、生活に近い問題へ予算を回してもらえないでしょうか。納税していても、ほぼ日鎌倉市を不在にしている側にはとても不利益な税金の使い方をされているようで我慢も限界に達しています！</p> <p>今回の広報を見て、早くこの市から引っ越したい気持ちが尚、一層強くなりました。ただただ元気な高齢者へ搾取されているようで、働く中年にとっては将来性が横浜市等と比較し、低い市だと実感している次第です。</p> <p>本庁移転より、もっと先に実装するべき問題は山積みという実感のない市長へは残念です。こん</p>	<p>今回のパブリックコメントは、新たな本庁舎の移転整備を進めるに当たって、本市が目指す庁舎像(本庁舎のあるべき姿)を明らかにするなど、基本となる方向性を定めた基本構想(素案)について、市民の皆さんからのご意見を募集したものです。</p> <p>いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			なでは、藤沢市に負けます。逗子市にも負けます。鎌倉市のブランドは落ちます。 以上	(前ページの続き)
223	61	☆	その他の意見 深沢に本庁舎を移転したとして、50年後、100年後に再び建て替えの時期が来た時にどうするかについて、若干の考慮があるべきだ。たとえば、深沢の行政施設用地のグラウンドの活用を考慮するなど。なぜこのようなことをいうかといえば、現在地の駐車場も当時の考えでは建て替え用地としての活用が考えられていた。今回の検討では、現在地の駐車場は埋蔵文化財があり調査に1年以上かかるから使えないと簡単に結論づけられたが、忘れるなよといたい。どのみち私は生きていないが、一言いっておきたい。(伊勢神宮の式年遷宮は実に合理的な制度です。)	今後、基本計画を策定する際に、いただいたご意見を参考にいたします。
224	63	P4-3、 p5-17 など	(P4・3) 事業費が約 166 億円となっているが、アクセスの一つにまだ(P5-17)、決まってもない「村岡新駅(仮称)」を前提にするなど、ズサン。もしそうなら、「(新駅)には反対だが)その誘致・整備費用が、160 億円など関連費用を含めれば、市の一般会計約 662 億円に匹敵するもの。ゴミ問題など問題が山積している。市民生活に密着したものから解決すべき。	村岡新駅(仮称)については、現時点で想定し得る状況を担当部署から聞き取り、記載しています。 現在の本庁舎は、すでに築 50 年が経過し、老朽化が進んでおり、防災拠点としての機能不十分、執務スペースの不足による市民サービスの低下などの現状を踏まえると、本庁舎の整備は、優先度の高い課題であると考えています。 本庁舎の整備に当たっては、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指すとともに、引き続き、未来を見据えた工夫を検討しながら、市民の皆さんにご

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				理解いただけるよう努めます。
225	67		<p>関係各位、</p> <p>鎌倉市公共施設再編計画 NEWS No. 25 にて配布をされた基本構想を読みましたので意見をお送りします。</p> <p>1, ビジョンの 1 の災害時に頼れる庁舎とありますが、現実には材木座の住人としては想定される 10m 以上の津波の場合、市庁舎に頼る時間も余裕もないと思います。市民の安全を考えるなら、閉鎖した材木座保育園を津波対策で避難所に改造して頂きたいと思います。現時点での鎌倉市の案としては保育園は新市庁舎の建築費用の足しにする目的で売却の可能性がある自治会より聞いています。本庁舎にお金を掛けるよりは、鎌倉海岸に面している材木座や由比ヶ浜には 10m を超える津波から安全に避難が出来る場所がないと理解しています。是非ご検討をお願いしたいと思っています。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>
226	69		<p>前略</p> <p>今までに市役所の職員が考えたり、いろんな方達が推進してきたことかもしれませんが一般市民の耳に入って、なんと侘しい構想なんでしょうか、と思わざるを得ない土地利用法。深沢の広大な地面を企業を優先するような志向はいけないと思う。</p> <p>折角の広大な地面、二度と手に入らない公共の土地ですよ。鎌倉市民にとって良きこと、必要なことを考えていただけないでしょうか？</p> <p>ごみ問題も市長は「住民の努力で 60%減らせた。」と言っていますが、もし深沢の地にマンション群を建てたなら、当然人口増加とともにゴミの量は倍増します。大船地区にも企業が増築していますよね。「ゴミ処理費用支払って・・・」とおっしゃってますが、何故他市に依存するのですか？「ゴミ処理費用」を支払っても受け入れてもらえない時が来る。それなら、全国に先駆け此の広い土地を利用して自力処理、安全、安心な処理施設、再生処理等思考できないでしょうかね。役所のソバにゴミ施設が有るとするのは安全性も訴える事が出来るじゃないですか。</p> <p>市民の多くは災害に強い体制を望んでいますよね。現市役所の移転理由にもありましたよね。でも此の地に於いて、今一どんな対策方法が考えられているのかよくわかりません。</p> <p>藤沢の地に駅を作るために市税を使ってどうして必要なことなのかですか？多くの鎌倉市民にと</p>	<p>いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>って何の役にもたない。</p> <p>鎌倉駅から大船駅で乗り換えて、新駅に降りて何分かかけて深沢へ行きますか？そんな馬鹿げたことはありえないでしょう。</p> <p>ショッピングモール(?) 中途半端なことでも誰が新駅使って行きますか？</p> <p>こんな市税のムダ遣いは許されないとします。再考頂ければ嬉しいし、多くの市民も喜ぶんじゃないですか？</p>	(前ページの続き)
227	89	その他	<p>先に市は、唐突に新ごみ焼却施設計画の中止を発表したが、広域圏での処理施設が確定していない状況では、鎌倉市にもごみ焼却施設は不可欠と考えるのが市民的な常識だと思う。今回の本市庁舎建設にあたってエネルギーセンターを設け、そこに きわめてクリーンでもあるとうたっているごみ焼却施設を設置し新市庁舎の熱源とすべきであろう。省エネにもなり、新しい市庁舎の在り方にもなる。先の見えない焼却施設問題にも一応の決着となるはずである。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>
228	94		<p>8) その他</p> <p>ゴミ問題について、平常時のゴミ処理は長嶋市議員の意見に賛同するが、災害時には多重の家屋の木材や家具が出る焼却炉が必要である。よって安心安全のため焼却炉は自前で設置しなければいけないゴミだらけとなり観光都市とは言えなくなる。</p>	<p>今回のパブリックコメントは、新たな本庁舎の移転整備を進めるに当たって、本市が目指す庁舎像（本庁舎のあるべき姿）を明らかにするなど、基本となる方向性を定めた基本構想（素案）について、市民の皆さんからのご意見を募集したものです。</p> <p>いただいたご意見につきましては、本事業と直接の関係性が見い出せないため、担当部署へ情報</p>

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
				を提供いたします。
229	96		鎌倉市は市所有の「防災灯」の交換もできないほど予算が無い。といわれ防犯灯は3ヶ月以上も消えたままでした。市役所や新たなまちづくりに1000億近い税金を使うのなら、「住民の生活向上のため」の予算をとって欲しい。私達若い世代につけが回ります。そんな「箱ものや開発」に頼るのは古いやり方だと学校でも普通に習っています。	<p>現在の本庁舎は、すでに築50年が経過し、老朽化が進んでおり、防災拠点としての機能不十分、執務スペースの不足による市民サービスの低下などの現状を踏まえると、本庁舎の整備は、優先度の高い課題であると考えています。</p> <p>本庁舎の整備に当たっては、財政負担を軽減できる事業手法で取り組むことを目指すとともに、引き続き、未来を見据えた工夫を検討しながら、市民の皆さんにご理解いただけるよう努めます。</p> <p>いただいたご意見につきましては、担当部署と情報共有いたします。</p>
230	97	5-2	災害時、人口(観光額含む)多いのは、やはり、旧鎌倉地域と思えるので(深沢より?)旧鎌倉災害対策を考えて下さい。	いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。
231	111		また、新しいまちづくりを優先させるよりも電線の地中化などで、歩道を広げ、道路の安全性を高めたり観光地としての景観を改善するなどの検討にお金と時間を使ってほしいと思います。	いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。
232	71		現在の駅周辺の混雑ぶりは皆様ご存じの通りです。 今後増々ますます観光客が来鎌する事は必定と思われます。	今回のパブリックコメントは、新たな本庁舎の移転整備を進め

整理 No	提出 No	原文		考え方
		該当箇所	意見	
			<p>現状はすでに飽和状態であろうと考えておりますので、早急に対策は必要ですが、それはそれとして、鎌倉市及び駅前の整備については JR ともタイアップして将来を見すえた計画を持つべきであると考えておりました。</p> <p>大手不動産会社と共に 3 年前に作成した西口側の御成町計画を本庁舎等整備基本構想の意見として提出します。</p>	<p>るに当たって、本市が目指す庁舎像（本庁舎のあるべき姿）を明らかにするなど、基本となる方向性を定めた基本構想（素案）について、市民の皆さんからのご意見を募集したものです。</p> <p>いただいたご意見につきましては、担当部署へ情報を提供いたします。</p>

【参考意見】（氏名等の必要事項の記載がないもの、提出期限を過ぎて提出のあったもの）

整理 No	提出 No	原文	
		該当箇所	意見
参 考 1	22		<p>鎌倉市は、近く津波で壊滅すると思います。津波は恐らく現市役所の1階へ侵入すると思います。県が予想する最大の津波がそのままに到達すると思います。故に市長の危機感は当然だと思います。正に福島原発災害が発生する前の福島県知事のように大変な危機感を東電に訴えられてたのを思い出します。流石自治体の首長は神懸かるものです。</p> <p>県の最大津波も最低2割程度は想定外誤差として、見込むべきで浜岡原発も当初の壁に対して2割程度更に嵩上げがされました。鎌倉市も現市庁舎の1階は防水板の設置などを検討すべきだと思います。</p> <p>時期は恐らく来年から数年以内に、鎌倉市他湘南地域への大津波、京浜工業地帯への高潮、東京の低地帯が水没となると思います。地震自体は、八王子辺りから神縄断層も含めて相模トラフの大きな地震M8程度になると思います。震度6強は覚悟しないとなりません。しかしながら鎌倉市に関しては、やはり津波に対して万全の対策を考えておくべきです。人さえ死ななければ、市内には国宝もなく復興は寧ろチャンスと考えるべきです。</p> <p>鎌倉の財産は、人であり、世界遺産級だと思います。寧ろ復興後にユニセフに世界文化遺産として申請すべきです。日本人こそが世界遺産級だと思います。そのためには、賢く事前に入念に市内の復興バックアップ基地として深沢の市街地を計画するべきです。</p> <p>おまけ 鎌倉市民こそ、世界遺産級の宝です。市内の隅々まで、様々な店舗が並び一風個性的な店舗など溢れています。彼らの発想力、工夫、ソフトパワーは正に鎌倉人というべきで京都と並び世界遺産級だと思います。武士のふるさとですからプラスして侍的なものが欲しいところですが。それは津波からの復興プランに入れていくべきだと思います。つまり津波地震を利用する心算が宜しいと思います。</p>
参 考 2	27		<p>現在</p> <p>①図書館は不潔、変質者の宝庫となっています。</p> <p>建物ごと取り壊し、バリアフリーで清潔な、誰もが楽しめる、真に文化的なスペースにしたい。</p> <p>②福祉センターの建物内部が陰鬱すぎる。</p> <p>「福祉」ということが、誰にも必要な皆で育てる大切な「公共の幸せ」というものではなく、日陰者の不幸の代名詞に思わせるほど暗すぎる。</p> <p>→環境的には緑に囲まれた特徴を活かしたいが、旧市役所跡地の整備に活かすため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧図書館… 建て替え後、歴史や観光の案内に特化した施設とする或いは売却 ・旧福祉センター…売却 <p>*市役所跡地に、保育所や放課後児童施設を作る。児童保育と児童養護。貧しい家庭の子供も、そうでない子供も、希望すれば一緒</p>

整理	提出	原文	
No	No	該当箇所	意見
			<p>に学べる補修授業スペース。料金は家庭の収入に応じて。大学生やシルバー人材をボランティア或いは雇用する。</p> <p>*老人福祉・高齢者向けサービス事業の、中心を置く。</p> <p>具体的にグループホームやデイサービスなどがあるのもいいと思う。お役所的事務機能だけでなく、そこに生活したり、一日の大半を過ごす方と、お世話する方がいる場所。そこから生まれる安定感と温かさ。</p> <p>*働きながらの子育てを大切に。そして一旦退職しても有効な人材として高齢のかたがたに生き生きと働いていただく、シルバー人材センターを鎌倉の旧市役所跡地に置くことで全ての鎌倉市民に希望をもたらすと思う。老人と子供の交流も行なう。今と将来を考えた文化・福祉の拠点とする。現在の福祉センターの機能も別な階につくる。</p> <p>*図書館</p> <p>仕事の行き帰りの働く世代、または一番図書館を利用する子育て中の若いお父さんお母さん、余暇が生まれた高齢の方が新しい情報や大切なものを探して、心豊かになれる場所として、よい本、音楽、美術、様々な知識をきちんと、整備してほしい。</p> <p>■現在の中央図書館は日本の地方図書館の中でもかなり程度が低い。いくらネット情報が手に入っても、本としての資料の質の違いを大切にしていきたい。</p> <p>*また、新規企業や法人の受け入れや、障害者の方の就労支援なども同じ建物内でできれば、子供たちも、若者も、老人も、働く世代も、辛いときでも、大変なのは自分だけではないと思えるような、そんな触れ合いの生まれる、優しい挨拶の生まれる明るいスペースにしたい。</p> <p>「お役所」の殺伐と用件だけを済ませてさっさと立ち去る寂しい場所ではなくて、そこにいくと、なんとなく心が温まる場所にした</p> <p>い。</p> <p>鎌倉市に大勢いるお年寄りたちが、やがて自分たちももっと年老いて動けなくなったとき、初めて不安で真っ暗な気持ちになるのではなく、こんな風に年を取っても皆で生きていけるのだと信じられる場所を作りたい。</p> <p>そして、今、貧困や孤独に陥りがちな多くの子供たちにも、働く忙しい両親の狭間で、効率と差別ばかりを学ぶのではなく、自分にも他人にも優しく孤独に内向きにならずに生きていく方法があるのだと、感じて欲しい。</p> <p>優しい鎌倉、かつて自然を守った文士たち、戦争に屈せず、人としての尊厳を守った多くのこころ優しい伝統を、ぜひ今の時代だからこそ大切に守り育てたい。</p> <p>そのためなら、働くことも、税金を払うことも、きっと多くの人は厭わないと思う。</p>

整理 No	提出 No	原文	
		該当箇所	意見
参 考 3	31		<p>本庁舎は今の場所で建て替えがよい。深沢地区に反対します。</p> <p>深沢地区の本庁舎建設は鎌倉地区のこれまでの代えがたい歴史を変えるもの。</p> <p>深沢地区が御だでの建て替えより安価とはおもえない。深沢地区の地盤が予定より悪いので土木工事が高価になる。御成の土地を嵩上げして津波対策をしてももとがとれる。</p> <p>新駅構想は本庁舎建設構想と混合せずにやってほしい。</p>
参 考 4	124		<p>(1) 本庁舎の深沢地区移転には賛成致します。</p> <p>(2) J R 村岡駅の新設は現在の大船—藤沢駅間を分断することになり、あまりに駅間距離が短くもなりますので、反対です。</p> <p>(3) それよりも、J R 鎌倉駅を中心として住んで居られる住民の方々の利便性を考慮する見地から、J R 鎌倉駅西口より西へ延びる市役所通りから深沢鎌倉線道路に出て梶原口経由、湘南モノレール深沢駅を経由、鎌倉市本庁舎までの地下鉄またはモノレール等の新設を民間の鉄道会社の出資協力を得てでも実現すべきと考えます。</p> <p>そうして将来は村岡地区まで鉄道を延長、大船駅へと計画されたらと思うのです。</p> <p>地下鉄であれば将来、鎌倉駅東方地区への延長も考えられるでしょう。</p>

【巻末資料】

整理 No50 (提出 No109) の意見

表 本庁舎に必要な面積の算出のための職員数の想定(支所の運用延長)(年度別)

	H27(2015年)	人口減少の 比率(H27比)	H37=R07 (2025年)	人口減少の 比率(H27比)	R12 (2030年)	人口減少の 比率(H27比)	R17 (2035年)	備考
人口(推定値含む)	174,050	0.955679	166,336	0.927067	161,356	0.896587	156,051	有効数字6桁

職階	H27(2015年) 職員数	人口減少の 比率(H27比) *1	H37=R07 (2025年) 職員数	開庁目標 2028年度		支所継続		開庁7年後に 支所集約(案)		備考
				人口減少の 比率(H27比) *1	R12 (2030年) 職員数	人口減少の 比率(H27比) *1	R17 (2035年) 職員数			
特別職・三役	4	1.000	4	1.000	4	1.000	4	4	職員数は 端数を切上げ	
部長・次長級	40	1.000	40	1.000	40	1.000	40	40		
課長級	64	0.9557	62	0.9271	60	0.8966	58	58		
課長補佐・係長級	209	0.9557	200	0.9271	194	0.8966	188	188		
一般職員	405	0.9557	388	0.9271	376	0.8966	364	364		
製図者	63	0.9557	61	0.9271	59	0.8966	57	57		
臨時職員等	367	0.9557	351	0.9271	341	0.8966	330	330		
計(人)	1,152	-	1,106	-	1,074	-	1,041	1,041		
低減数(人)			46		78 <2>		111 <3>			

*1: 職員数に合わせ有効数字を4桁とした

人口(R12、R17): 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

人口(H27、H37)・職員数等: 「鎌倉市本庁舎等整備基本構想(素案)」 参考資料部分(後半)

【移転に関する意見】（整理 No147～200）に対する市の考え方について（表中「考え方」の欄の再掲）

いただいたご意見に対し、経過や検討内容に対するご理解をいただくため、経過等について掲載いたします。

○本庁舎再整備の背景と経緯

本市では、人口増加とともに市民ニーズを踏まえながら、公共施設の建設を進めてきましたが、現在では築 30 年を超える公共施設が半数以上を占め、大規模改修や建替えが急務となっています。しかし、人口減少が予想されていることや昨今の厳しい財政状況の中では、全ての施設を維持・更新することが困難な状況にあるため、「鎌倉の魅力を継承しつつ、次世代に過大な負担を残さない。」ことを前提として、新しい時代に合った価値を提供できるよう公共施設のあり方を見直すため、平成 18 年度から公共施設再編の具体的な検討を進めています。平成 24 年 3 月に『鎌倉市公共施設白書』を策定後、平成 24 年度に学識経験者や公共的団体が推薦する者で構成する鎌倉市公共施設再編計画策定委員会を設置し、公共施設の再編を効果的かつ効率的に推進するため、議論をしていただき、平成 25 年 4 月に『鎌倉市公共施設再編計画基本方針』、平成 27 年 3 月に『鎌倉市公共施設再編計画』を策定しました。

○現在の本庁舎の課題

このうち、昭和 44 年に整備した本庁舎は、整備から約 50 年が経過し、建物や設備の老朽化への対応が大きな課題となっており、また、行政需要の増大に伴う職員数の増加等から本庁舎だけでは執務スペースが狭小となり、分庁舎の建設や一部執務室の敷地外への移転などを進めた結果、業務の非効率化が見られるとともに市民の利用にも支障をきたしています。

加えて、神奈川県が公表している津波浸水想定範囲内に敷地の一部が含まれていることや、平成 17 年までに実施した耐震改修工事により、Is 値(※) 0.6 の耐震性能を確保し震度 6 クラスの地震に際して建物が倒壊又は崩壊す

る危険性は低いものの、業務継続に求められる通常の 1.5 倍の Is 値 0.9 の耐震性能は有しておらず、大規模な地震が発生した場合の業務継続に不安があることなどを課題として捉えています。

こうしたことから、平成 27 年 3 月に策定した『鎌倉市公共施設再編計画』において、「現地在建替え」、「現地在長寿命化」、「その他の用地への移転」の方策などについて検討し、平成 28 年度末までに将来の整備方針を決定することとしました。

(※) 建物の強度や粘りに加え、その形状や経年状況を考慮した耐震指標。Is 値が大きいほど耐震性が高い。

○「移転して整備する」方針を決定した理由

平成 27 年度に「本庁舎機能更新に係る基礎調査 ～本庁舎整備方針策定に向けて～」を実施し、現在の本庁舎が抱える課題、求められる機能・性能、必要な庁舎面積、配慮すべき条件等の整理を行った上で、平成 28 年度に学識経験者や公共的団体が推薦する者で構成する鎌倉市本庁舎整備方針策定委員会（以下「策定委員会」といいます。）を設置し、必要となる床面積 25,000 ～30,000 m²（総務省基準等に基づき算出）に対してどのような本庁舎の整備パターンが考えられるか、「現地在建替え」、「現地在長寿命化」、「その他の用地への移転」の方策をベースとして、「防災・減災」、「機能・性能」、「まちづくり」及び「時間・コスト」の観点から検討していただきました。

その結果、現在地での整備では、①地震等の直接的な被害による本庁舎の機能停止だけでなく、道路の寸断により庁舎周辺道路の通行に支障が生じ、庁舎が孤立して機能不全となるおそれや、市域全域に対する災害への対応が困難な事態に陥る可能性も考えられ、災害時の対応力・受援力の発揮など災

害応急対策活動には適さないこと。②風致地区による建物の高さ制限（10 m）により高層化ができないことや、周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されているため、遺構に影響を与えないためには最大でも2階建ての高さの軽量の建築物とする必要があり、本庁舎としての機能を維持するために必要な床面積が確保できないこと。③分庁舎や仮庁舎の整備や仮庁舎への引っ越し費用等も必要となり、移転に比べ多額の費用がかかることなどから、「本庁舎は移転して整備する」との方針が策定委員会から市長へ提言され、平成29年3月に「本庁舎は移転して整備する」ことを含む『鎌倉市本庁舎整備方針』を策定しました。

○移転先を「深沢地域整備事業用地（行政施設用地）」とした理由

本市では、『鎌倉市本庁舎整備方針』を受け、本庁舎の移転は、まちづくり、地域経済、市民サービス等に大きな影響を与えるため、本庁舎単体で捉えるのではなく、広くまちづくりの視点を持って検討することが必要であることから、平成29年度に、鎌倉市公的不動産利活用推進委員会の中で、他の公的不動産の利活用やその効果を含めて全市的な視点から適地の検討を行い、平成30年3月に策定した『鎌倉市公的不動産利活用推進方針』において、本庁舎の移転先を深沢地域整備事業用地内の行政施設用地（以下「行政施設用地」といいます。）としました。

その検討に当たっては、原則として市有地であることや、必要となる床面積25,000～30,000 m²の本庁舎が整備できる土地の面積を有することなどの移転整備候補地抽出の基本的な考え方にに基づき、まずは、梶原四丁目用地（野村総合研究所跡地）及び行政施設用地を候補地とし、市民の利便性及び全市的なまちづくりの視点から評価を行いました。

また、市民の利便性の視点では、市域全体に対し効率的にバランスの良い行政サービスの提供が可能であるかの検討を行い、鎌倉駅周辺、大船駅周辺、深沢地域の3拠点における行政サービスの提供が、市民の利便性の維持とサービス提供の効率化の面で優れていること、深沢地域は人口重心が位置する

など、行政施設用地がより多くの市民にサービスを提供することに適した場所であるとの結論に至りました。

次に、全市的なまちづくりの視点では、人口減少等が進行する中、都市機能が集積する場所で行政サービスを提供することは、まちの暮らしやすさの向上、行政サービスに係るコストの削減につながることから、鎌倉駅周辺、大船駅周辺、深沢地域の三つの都市拠点に行政サービスを配置することが望ましく、また、行政施設用地に本庁舎機能を整備することで、周辺に一定の機能が集積することや賑わいの創出などを想定すると、梶原四丁目用地と比べて、今後、新たなまちづくりを進める行政施設用地の方が優位性が高いとの結論に至りました。

更に、こうした視点に加え、行政施設用地に本庁舎が移転した場合、総合体育館や消防本部と連携した整備等を行うことにより、建設コスト削減や、官民連携の手法の導入による費用負担の縮減が可能になります。そして、深沢地域に本庁舎を移転整備し、深沢地域のまちづくりを推進することで、他の公的不動産の利活用のポテンシャルを高め、更に鎌倉駅周辺拠点や大船駅周辺拠点それぞれの資源や魅力、都市機能に磨きをかけることで、鎌倉市全体の都市機能の強化やまちの魅力向上につながることを期待できることから、行政施設用地を移転先としています。

○本庁舎移転後の現在地について

本庁舎が移転した後の現在地には、市民サービス機能（相談・手続窓口）を維持するほか、ホール（生涯学習センター）、図書館、ミーティングスペースなど、鎌倉地域における公共施設の再編により、市民の生涯学習、活動の拠点化を目指します。

また、これらのほかに、民間機能の導入による賑わいや憩いの創出及び鎌倉のブランド力向上・新たなライフスタイルの提案・「住みたいまち鎌倉」の実現を目指し、鎌倉駅直近において様々な魅力を発信していきます。

○建設費用について

近年の建設費の状況を踏まえ、床面積1㎡当たりの建設単価を60万円と設定し、『鎌倉市本庁舎整備方針』では本庁舎に必要な床面積を30,000㎡とした場合の工事費の概算金額を180億円と算出しました。しかし、基本構想（素案）ではコンパクト化を考え、床面積を25,000㎡を上限として検討を進めることとし、工事費の概算金額を150億円としています。

この工事費については、市債と本庁舎整備基金を活用し、残りを一般財源で賄う予定ですが、今後、市費の投入を極力抑えるため、公共施設の再編や本庁舎のコンパクト化のほか、民間の資金やノウハウの活用により、民間事業者が建物を整備する手法も視野に入れて、取組を進めていきます。

○深沢地域整備事業用地（行政施設用地）の災害リスクに関する再検証について

移転先の決定後、行政施設用地の防災面に関する不安の声があったことから、基本構想（素案）作成に当たり、改めて、最新のデータを用いて、防災面に関する再検証を行いました。

本市では、地震によって引き起こされる建物や施設の被害に加え、津波や土砂災害、液状化、大規模降雨による洪水浸水や内水氾濫、土砂災害等が災害のリスクとして想定されますが、災害リスクが全くない場所は存在しないため、比較的災害リスクが少ない場所で、それにどう対処できるのかが重要であると考えています。

本庁舎の移転先としている行政施設用地は、津波による浸水の想定はありませんが、一部で液状化の可能性が高い箇所が存在しています。また、平成30年1月に神奈川県が公表した想定し得る最大規模の降雨（24時間積算雨量：632mm）による境川水系洪水浸水想定区域図では、洪水による浸水が想定されています。想定される災害については、深沢地域整備事業用地で予定している区画整理事業における造成に加え、建築時の外構工事（整地等）等により対策を講じていきます。

「鎌倉市本庁舎等整備委員会」や「鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会」に設置した「防災部会」において、防災の専門家に議論していただいた中でも、現在地より深沢地域整備事業用地（行政施設用地）の方が優位性があるとの結論に至りました。（第3章）

○本庁舎の整備に関する主な取組について

基本構想（素案）や第1章にもあるように、これまで本市では本庁舎整備に関する取組について、広報紙、市ホームページ、市民対話、シンポジウム、説明会、出前講座やふれあい地域懇談会、パブリックコメントの実施など可能な限りの手法を尽くして情報提供等を行ってきています。引き続き、情報提供等に努めていきます。

○行政計画との関係について

基本構想（素案）は、『第3次鎌倉市総合計画』を筆頭に、『鎌倉市都市マスタープラン』、『鎌倉市公共施設再編計画』、『鎌倉市地域防災計画』など、本市の将来都市像やまちづくり、災害対策になどに関する行政計画を踏まえた上で、それらと関係する部分を照らし合わせながら作成しました。

これらの経過等があったこと及び基本構想策定にご理解願います。